SONY

4-652-364-**01** (1)

はじめに	19
コンピュータの基本操作を練習する	55
本機の使いかたがわからないときに	61
カスタマー登録する／インターネットに接続する	75
基本的なオーディオ機能を使う	81
困ったときは	101
その他	127

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。また、この取扱説明書では、本機を使う前に必要な準備および基本的な使いかたについて説明しています。

コンピュータを初めてお使いになる方はもちろん、よくご存知の方も、必ずこの取扱説明書からお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

パーソナルコンピューター

PCV-MX5GK

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7〜15ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



❶ **電源を切る**

❷ **電源コードや接続ケーブルを抜く**

❸ **VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する**

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意　火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　水ぬれ禁止　ぬれ手禁止　接触禁止

行為を指示する記号



指示　アース線を接続せよ　プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-ROMドライブおよびMDドライブが搭載されています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（お問い合わせ先　（社）私的録音補償金管理協会　Tel. 03-5353-0336）

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。
工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- □ CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

目次

安全のために 2
目次 4
操作の流れ 6
⚠ 警告・⚠ 注意 7
こんなことができます 16

はじめに

付属品を確かめる 20
各部のなまえ 23
設置する 27
接続する／準備する 30
電源を入れる 46
Windows 2000を準備する 47
電源を切る 54

コンピュータの基本操作を練習する

マウスの使いかた 56

本機の使いかたがわからないときに

どのマニュアルを読む？ 62
オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明） 64
「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた 73

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマー登録する／インターネットに接続する 76

基本的なオーディオ機能を使う

本機の動作モードについて 82
オーディオモードで電源を入れる 83
オーディオモードで操作する 84
表示窓メッセージ一覧 98

困ったときは

トラブルを解決するには 102
主なトラブルとその解決方法 104

その他

動画系ソフトウェアの操作の流れ 128
コンピュータウイルスについて 130
リカバリ CDで本機を再セットアップする 135
パーティションサイズを変更する 142
使用上のご注意 146
お手入れ 152
保証書とアフターサービス 154
索引 156

操作の流れ

本機をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを以下に示します。

1 付属品を確かめる（20ページ）

箱を開け、この説明書を読みながら本機の付属品がすべてそろっているか確かめます。

2 各部のなまえ（23ページ）

本機の各部のなまえを紹介しています。

3 設置する（27ページ）

本機を設置する場所を決めます。

4 接続する／準備する（30ページ）

ディスプレイ、テレビアンテナ、ビデオデッキ、キーボード、マウス、スピーカー、テレホンコード、FMアンテナ、電源コードを接続し、リモコンを準備します。

電話回線にISDN回線をお使いになる場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。

5 電源を入れる（46ページ）

本機の電源を入れます。

6 Windows 2000を準備する（47ページ）

Windows 2000を使うために、名前などを登録します。

7 電源を切る（54ページ）

本機の電源を切ります。

必要に応じて下記もご覧ください。

❑ コンピュータの基本操作を練習する（55ページ）

マウスの操作について練習します。

❑ 本機の使いかたがわからないときに（61ページ）

本機の使いかたがわからなくなったときに読むマニュアルやヘルプの使いかたを説明しています。

❑ カスタマー登録する／インターネットに接続する（75ページ）

登録カスタマー専用のいろいろなサービスを受けられるように、本機をカスタマー登録してください。インターネットに接続するときはその入会手続きをします。

❑ 基本的なオーディオ機能を使う（81ページ）

本機をオーディオモードで使う方法について説明しています。

❑ 困ったときは（101ページ）

本機を操作していてトラブルが発生したときにご覧ください。

❑ その他（127ページ）

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

警告 

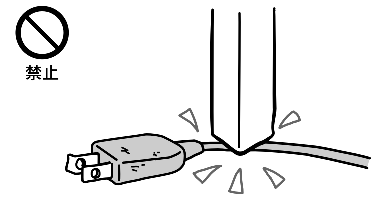
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

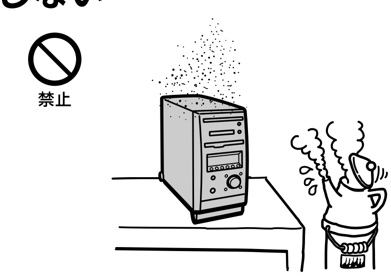
- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



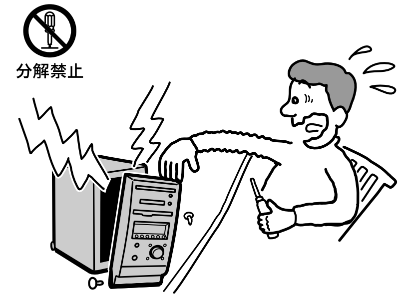
内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。



⚠警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

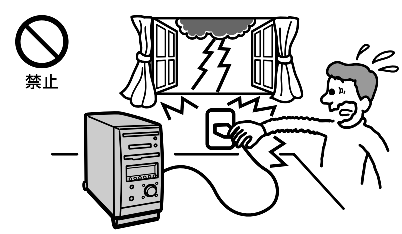
むやみに内部を開けない



- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

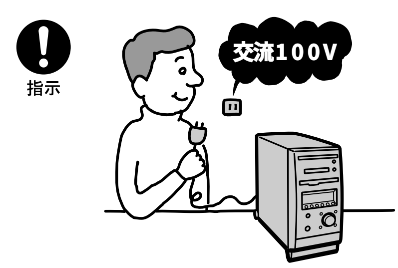
雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。



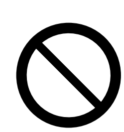
本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



禁止

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機の NETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

禁止

警告　**下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。**

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

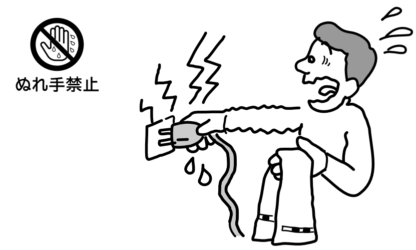
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

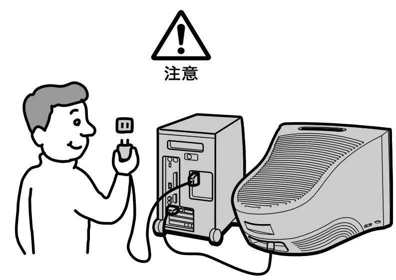
ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

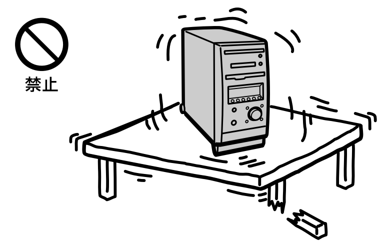
- 壁から10cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。



⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

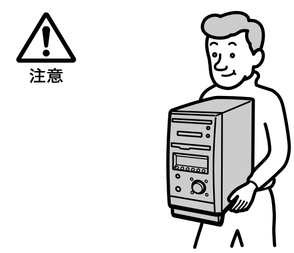
不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も充分にお確かめください。



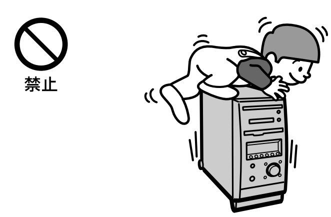
運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。



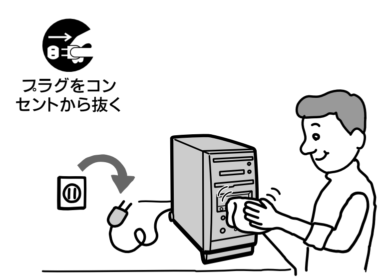
製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

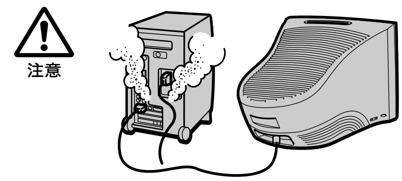


移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



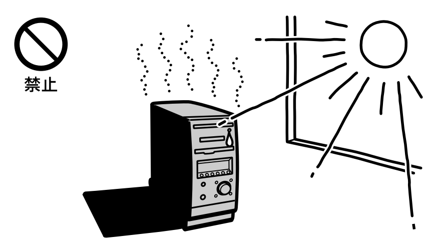
コネクタはきちんと接続する



- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

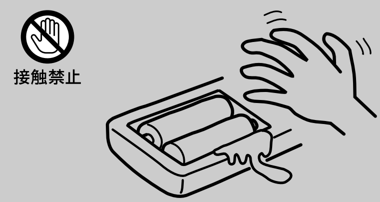
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



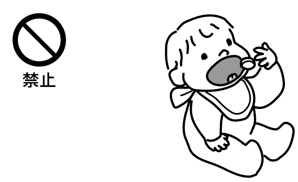
必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



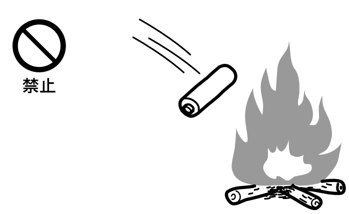
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

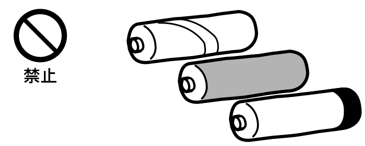
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



⚠注意

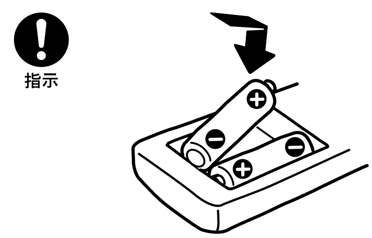
市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



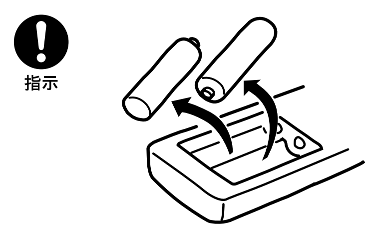
+と–の向きを正しく入れる

+と–を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



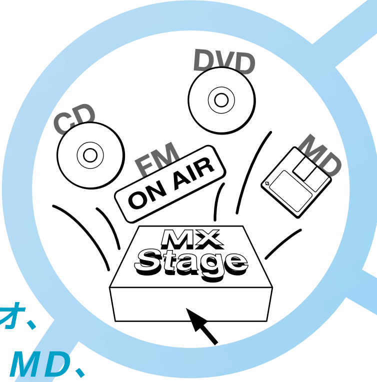
こんなことができます

本機は、オーディオ機能の充実とその操作性を追求して設計された、ソニーならではのコンピュータです。
本機1台でコンピュータとしてお使いいただけることはもちろん、オーディオシステムコンポとしてもお使いいただけます。
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



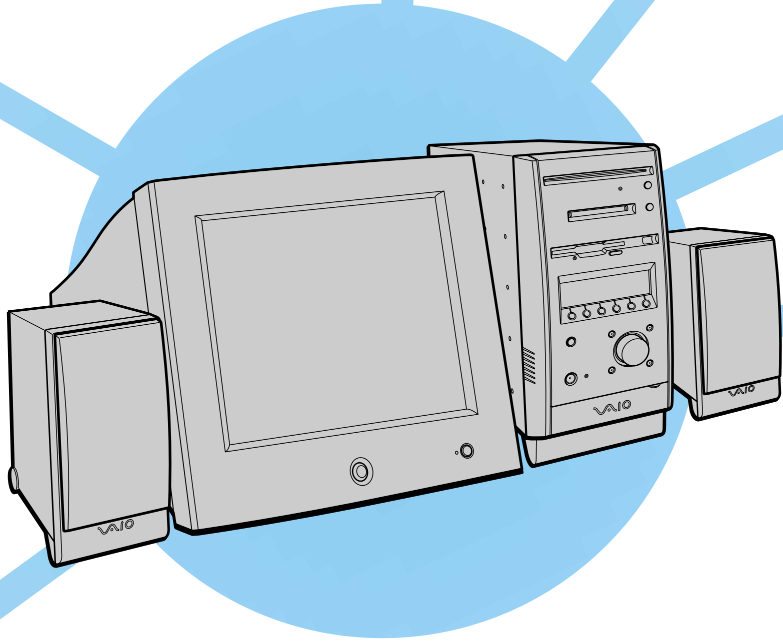
FMラジオ／FM文字放送を楽しめます

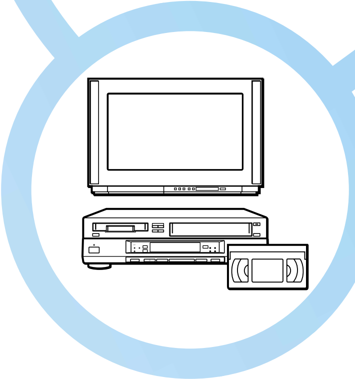
本機にはFMチューナーが内蔵されており、付属のFMアンテナを接続することで、FMラジオはもちろん、FM文字放送も受信できます。タイマーを使ってFMラジオをMDに録音したり、目覚ましとして使ったりできます。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「FMラジオを聞く」、「FM文字放送を見る」および「タイマーを使う」の項目をご覧ください。



DVDビデオ、音楽CD、MD、FMラジオなど各種設定を一括管理できます

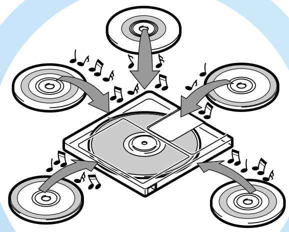
付属の「MX Stage」ソフトウェアを使うと、DVDビデオ、音楽CD、MD、FMラジオ、タイマー設定などの状況をディスプレイ画面上で見渡すことができ、基本的なマウス操作でそれぞれの機能をお使いいただけます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「操作の前にお読みください」の「「MX Stage」について」をご覧ください。





テレビ番組やビデオを録画したり、コンピュータを使いながらテレビが楽しめます

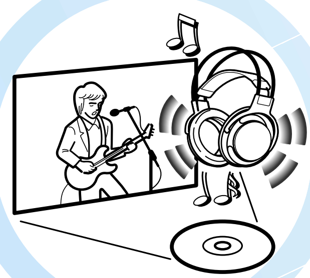
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビ番組やビデオデッキ、ビデオカメラレコーダーなどから映像を録画したり、コンピュータを使いながらテレビ番組を楽しむことができます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「テレビ番組を録画する」、「テレビを見る」の項目をご覧ください。



MDの再生・録音・編集を楽しめます

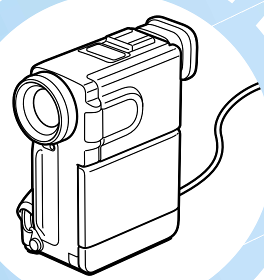
本機に内蔵のMDドライブでMDを操作できます。別売りのMDデッキなどを接続する必要はありません。付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、タイトルの入力や再生順の変更、MD編集ができます。また、ほとんどの操作を付属のリモコンで行うことができ、オーディオコンポと同じ感覚でMDを操作できます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「MDを再生する」、「MDに録音する」および「MDを編集する」の項目をご覧ください。

臨場感あふれる音と映像でDVDビデオを再生できます



付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、DVDビデオを再生することができます*。付属のリモコンで操作できるので、DVDプレーヤーのような感覚でお使いいただけます。また、別売りのテレビを本機に接続してより迫力ある映像を、市販のヘッドホンを本機に接続してドルビーデジタル音声をお楽しみいただけます。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「ディスクを再生する」、「周辺機器を接続する」内「AV機器をつなぐ」の「テレビをつなぐ」および「ヘッドホンをつなぐ」をご覧ください。

* Manufactured under license from Dolby Laboratories.



i.LINKを使って動画や静止画を取り込み、活用できます

本機にi.LINK（IEEE1394）インターフェイスを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぎ、付属の「DVgate」、「MovieShaker」といったソフトウェアを使って、デジタル信号のままで動画や静止画を取り込めます。取り込んだ動画は付属の「DVgate」ソフトウェアでつなげたり不要なシーンを切り取ったりできます。取り込んだ静止画は、付属の「PictureGear」で加工して楽しむことができます。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「動画を編集する」、「静止画を管理する」の項目をご覧ください。

これらの機能をお使いいただくには、最初に、本書に沿って一通りの接続や準備を完了しておく必要があります。次ページ以降の説明に従って、本機の接続と準備を行ってください。
また、それぞれの操作について詳しくは、本機オンラインマニュアルまたは各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

GO!

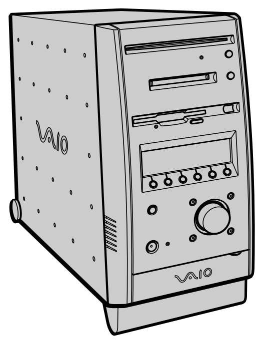
はじめに

この章では、本機を使う際に最初に行う準備について説明します。準備が整うと、本機のいろいろな機能が使えるようになります。

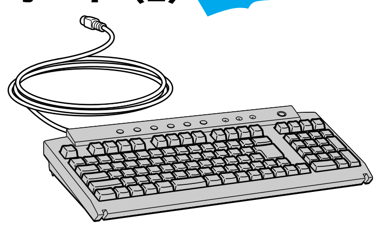
付属品を確かめる

本機を初めて使うにあたって、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIO（バイオ）カスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。
本書で使用するものについては、本書 がついています。

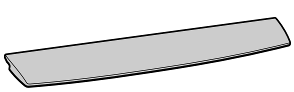
❑ コンピュータ本体（1）本書



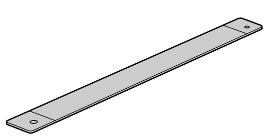
❑ キーボード（1）本書



❑ パームレスト（1）本書

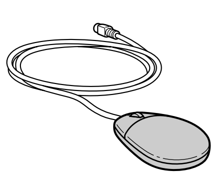


❑ テンプレート（1）

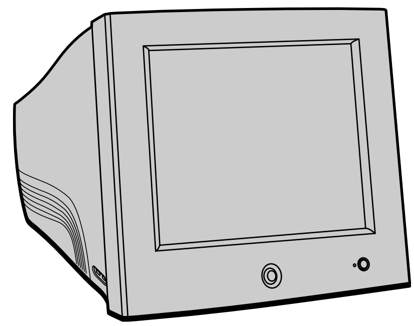


ちょっと一言
パームレストとテンプレートは
キーボードの箱の中に入っています。

❑ マウス（1）本書



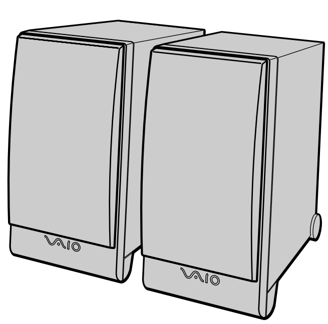
❑ ディスプレイおよびその付属品（1）本書



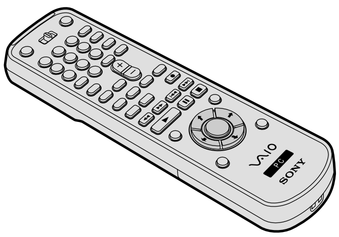
上のイラストはソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイHMD-A200です。
省スペース型の15型 TFT（ティエフティ）液晶デジタルディスプレイPCVA-15XD2など、その他のディスプレイを使うこともできます。ディスプレイによっては別売りのディスプレイケーブルが必要になることがあります。

ちょっと一言
お買い上げの機種によっては、ディスプレイは付属していません。

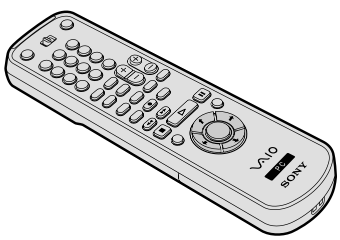
❑ スピーカー（2）本書



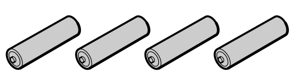
❑ **オーディオ／DVD用リモコン（1）** 本書



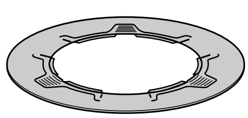
❑ **Giga Pocket用リモコン（1）** 本書



❑ **単3乾電池（4）** 本書

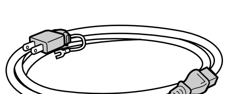


❑ **8cmCDシングルアダプタ（1）**

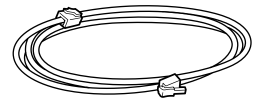


ケーブル

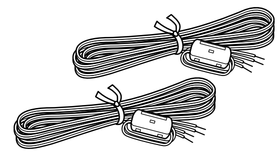
❑ **電源コード（1）** 本書



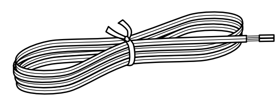
❑ **テレホンコード（1）** 本書



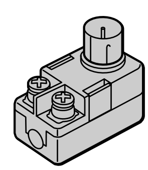
❑ **スピーカーコード（2）** 本書



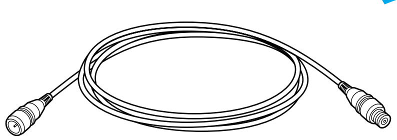
❑ **FMフィーダアンテナ（1）** 本書



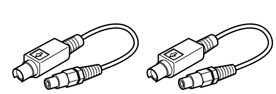
❑ **FMアンテナ整合器（1）** 本書



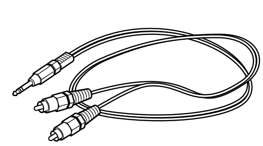
❑ **FM同軸延長ケーブル（1）** 本書



❑ **ビデオ接続用変換コネクタ（2）** 本書

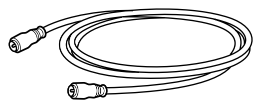


❑ **オーディオ接続ケーブル（1）** 本書

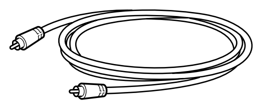


次のページへつづく

❑ **アンテナ接続ケーブル（1）** 本書



❑ **ビデオ接続ケーブル（1）** 本書



説明書および CD-ROM

❑ **取扱説明書** 本書
（本書、1）

❑ **接続／拡張マニュアル（1）**

❑ **はじめてのインターネット！（1）**

❑ **「Giga（ギガ） Pocket（ポケット）」取扱説明書（1）**

❑ **「Media（メディア） Bar（バー）」取扱説明書（1）**

❑ **「Microsoft（マイクロソフト）® Windows（ウィンドウズ）® 2000 Professional（プロフェッショナル）※」**
クイックスタートガイド（1）

※以降、Windows 2000と略します。

❑ **リカバリ CD-ROM（シーディーロム）**
パッケージ（1）

❑ **「Adobe（アドビ） PhotoDeluxe（フォトデラックス）」**
ユーザー登録はがき（1）

その他

❑ **CyberCode（サイバーコード）シール（1）**

❑ **MD（エムディー）サンプルラベル（5）**

❑ **VAIOサービス・サポートの**
ご案内（1）

❑ **VAIOカルテ（1）**

❑ **ソフトウェア使用許諾契約書（1）**

❑ **VAIOカスタマー登録、保証書**
お申込書（1）

❑ **その他パンフレット類**

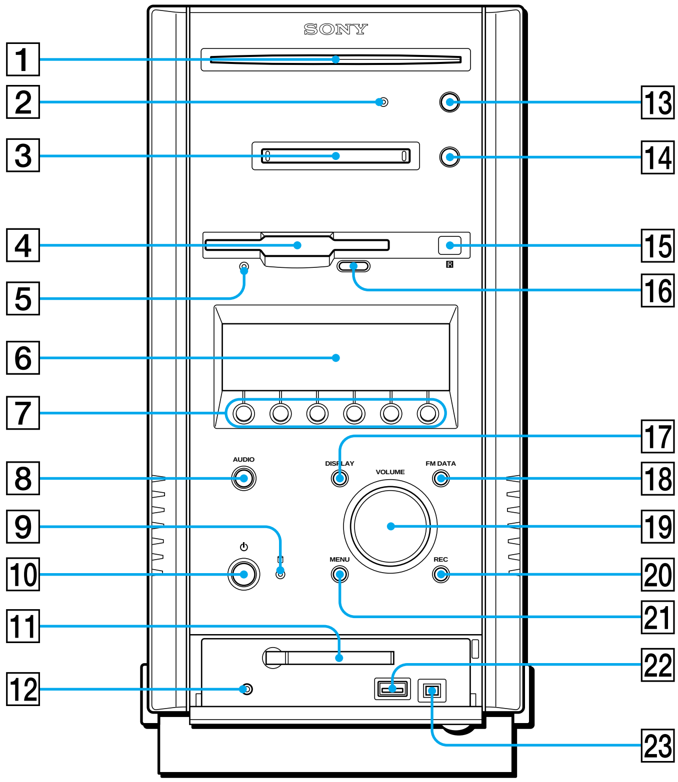
CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り（24ビット）存在します。このうち、約100万通り（20ビット）のCyberCodeを登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピュータ上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

各部のなまえ

本機の各部のなまえを説明します。各部の働きについて詳しくは、本機オンラインマニュアルの「各部の説明」の項目をご覧ください。
オンラインマニュアルの見かたについては、「本機の使いかたがわからないときに」（61ページ）をご覧ください。

前面



1 DVD-ROM**ドライブ**

2 DVD-ROM**ドライブアクセスランプ**

3 MD**ドライブ**

4 **フロッピーディスクドライブ**

5 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**

6 **表示窓**

7 **マルチファンクションボタン**

8 AUDIO **（オーディオモード電源）ボタン**

9 **（ハードディスクアクセス）ランプ**

10 ⏻ **（電源）ボタンと電源ランプ**

11 PC CARD **（**PC**カード）スロット**

12 HEADPHONES **（ヘッドホン）コネクタ**

13 ≙ **（**DVD-ROM**イジェクト）ボタン**

14 ≙ **（**MD**イジェクト）ボタン**

15 **（リモコン受光部）**

16 **フロッピーディスクイジェクトボタン**

17 DISPLAY**ボタン**

18 FM DATA**ボタン**

19 VOLUME **（音量）つまみ**

20 REC **（録音）ボタン**

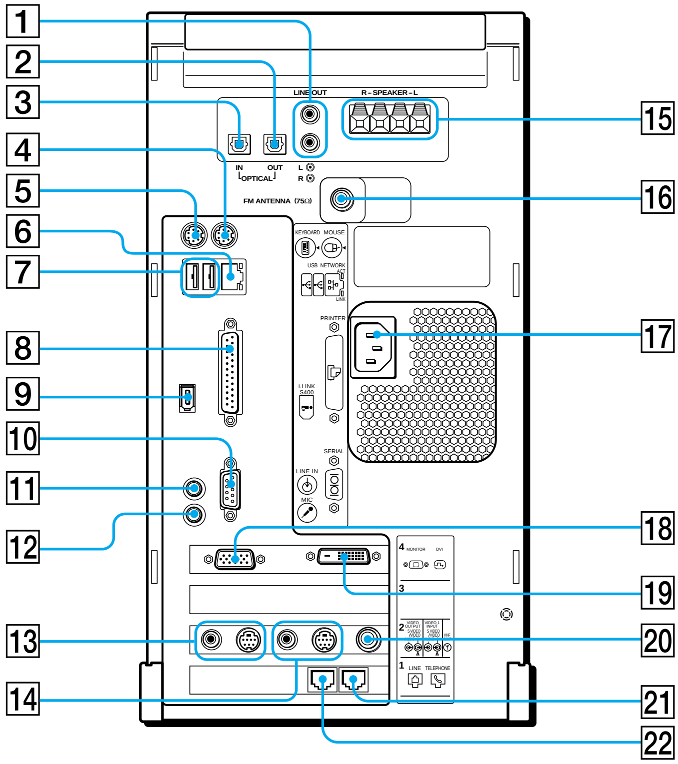
21 MENU **（メニュー）ボタン**

22 USB**コネクタ**

23 i.LINK S400**コネクタ（**4**ピン）**

次のページへつづく

後面



1 LINE OUT L／R（ライン出力）コネクタ

2 OPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタ

3 OPTICAL IN（光デジタル入力）コネクタ

4 MOUSE（マウス）コネクタ

5 KEYBOARD（キーボード）コネクタ

6 NETWORK（ネットワーク）コネクタ

7 USBコネクタ

8 PRINTER（プリンタ）コネクタ

9 i.LINK S400コネクタ（6ピン）

10 SERIAL（シリアル）コネクタ

11 LINE IN（ライン入力）コネクタ

12 MIC（マイクロホン）コネクタ

13 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ
S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）
AUDIO（音声出力）

14 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ
S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）
AUDIO（音声入力）

15 SPEAKER L/R（スピーカー）コネクタ

16 FM ANTENNA（FMアンテナ）コネクタ

17 AC電源入力プラグ

18 MONITOR（モニタ）コネクタ

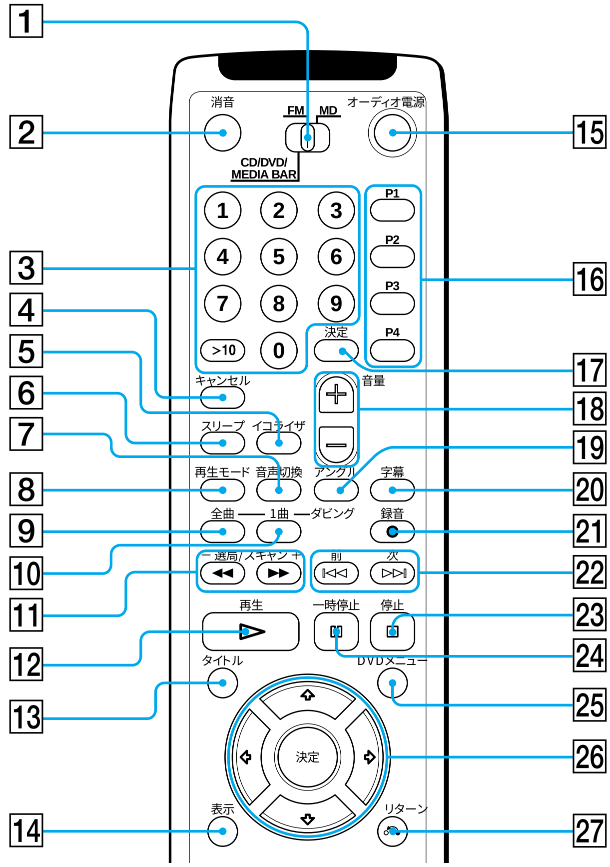
19 DVIコネクタ

20 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ

21 TELEPHONE（電話機）ジャック

22 LINE（電話回線）ジャック

オーディオ／DVD用リモコン



1 ファンクション切り換えスイッチ

2 消音ボタン

3 数字ボタン

4 キャンセルボタン

5 イコライザボタン

6 スリープボタン

7 音声切換ボタン

8 再生モードボタン

9 全曲ダビングボタン

10 1曲ダビングボタン

11 ◀◀／▶▶ 選局／スキャン ＋／−ボタン

12 ▷再生ボタン

13 タイトルボタン

14 表示ボタン

15 オーディオ電源ボタン

16 P1〜P4ボタン

17 決定ボタン

18 音量＋／−ボタン

19 アングルボタン

20 字幕ボタン

21 ● 録音ボタン

22 I◁◁／▷▷I 前／次（選曲／選局）ボタン

23 □ 停止ボタン

24 ▯▯ 一時停止ボタン

25 DVDメニューボタン

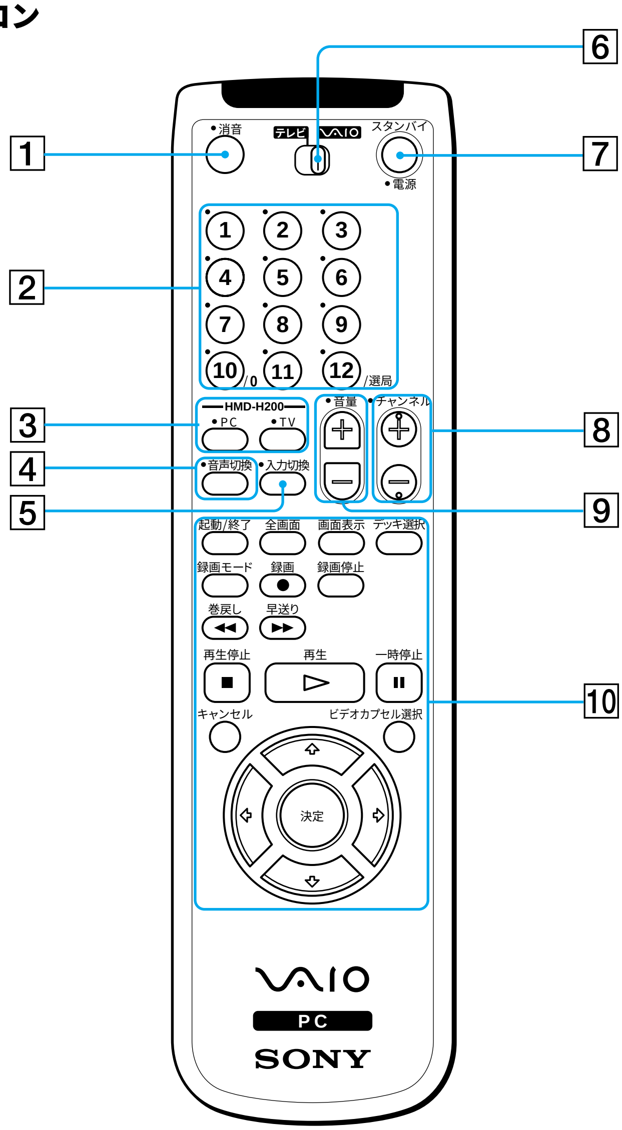
26 ⇦／⇧／⇩／⇨／決定ボタン

27 ↶ リターンボタン

次のページへつづく

各部のなまえ（つづき）

Giga Pocket**用リモコン**



1 **消音ボタン**

2 **チャンネル数字ボタン**

3 HMD-H200**ボタン**

4 **音声切換ボタン**

5 **入力切換ボタン**

6 **テレビ／**VAIO**切り換えスイッチ**

7 **電源／スタンバイボタン**

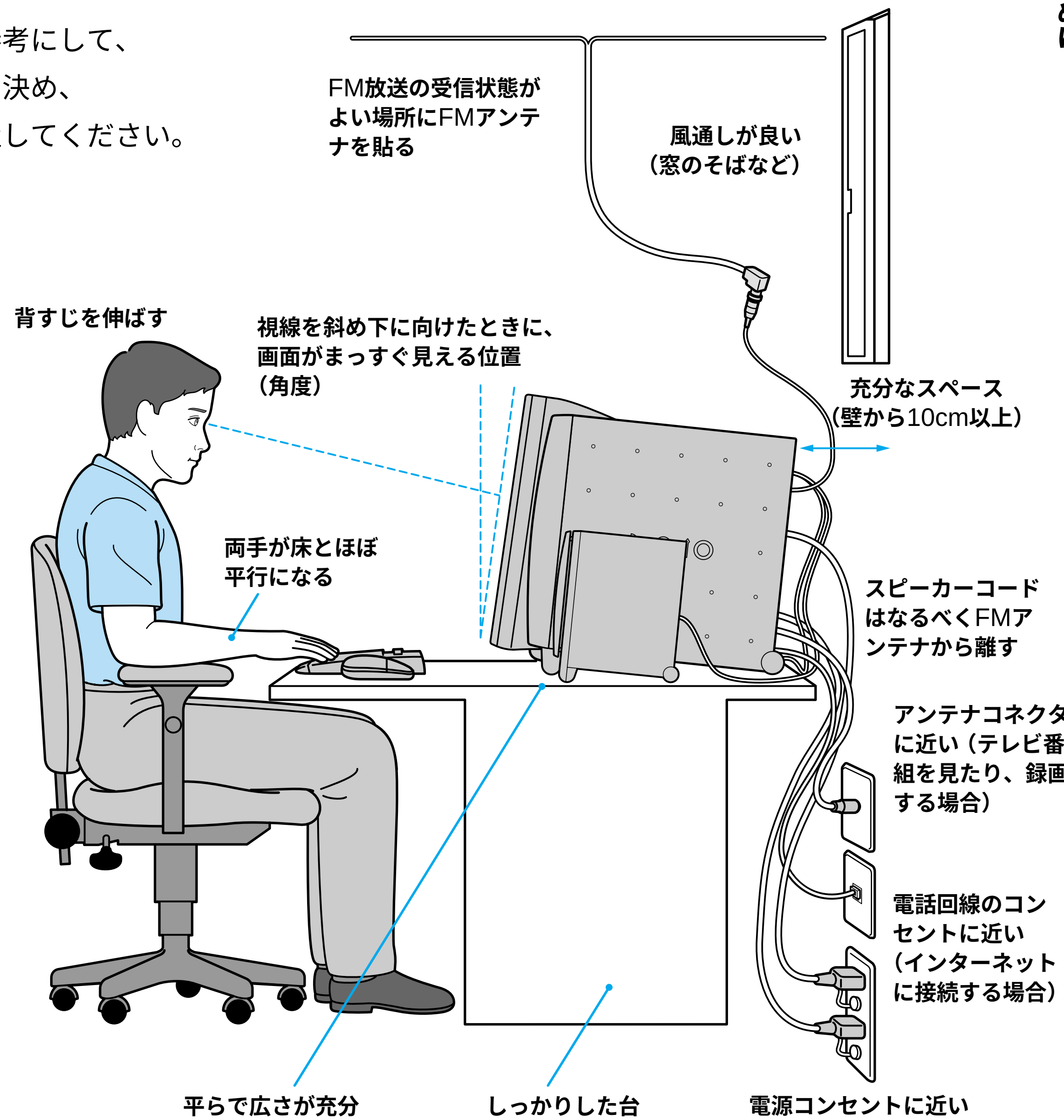
8 **チャンネルボタン**

9 **音量ボタン**

10 「Giga Pocket」**ソフトウェアボタン**

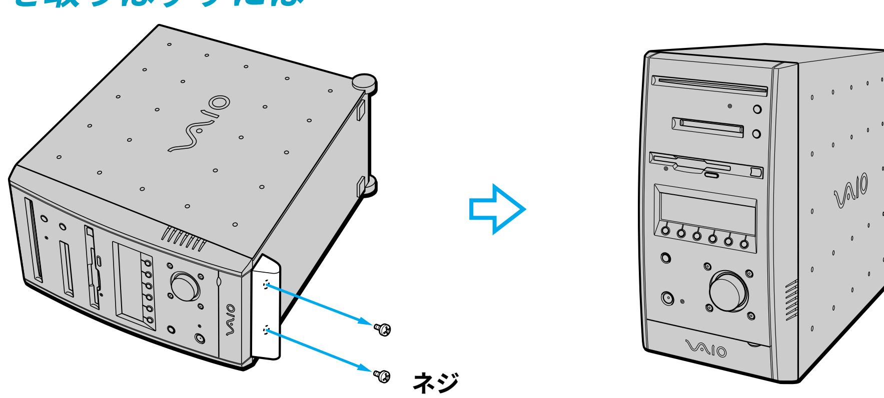
設置する

下の図を参考にして、
設置場所を決め、
本機を設置してください。



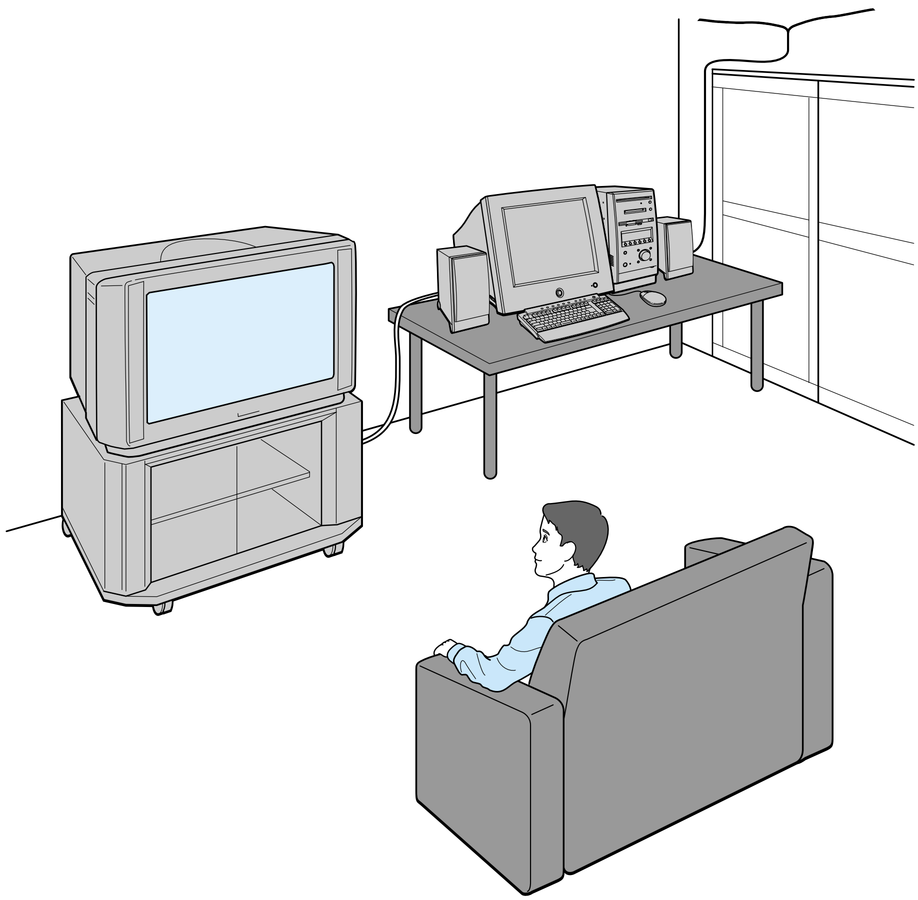
本機のスタンドを取りはずすには

本機を横に倒して置き、スタンドの底の2本のネジを取りはずします。



テレビをつなぐ

本機にテレビをつなぐと、DVDビデオをお楽しみいただくときや、録画したテレビ番組などを見るとき、より迫力ある映像をお楽しみいただけます。
テレビを本機につないで設置するときは、下の図を参考にしてください。
テレビのつなぎかたについて詳しくは、別冊の「接続／拡張マニュアル」の「テレビをつなぐ」または本機オンラインマニュアルの「周辺機器を接続する」内「AV機器をつなぐ」の「テレビにつなぐ」をご覧ください。



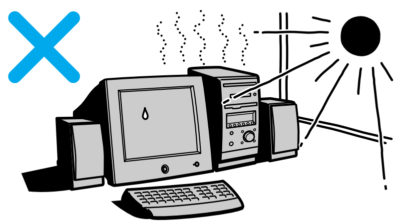
ちょっと一言

テレビには付属の「DVD Player」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像が表示されます。

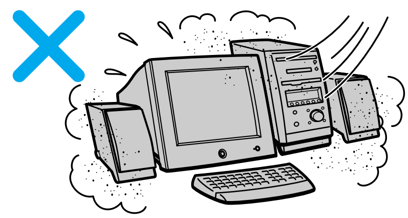
設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

❑ 直射日光が当たる場所



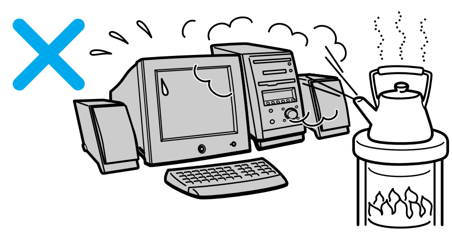
❑ ほこりが多い場所



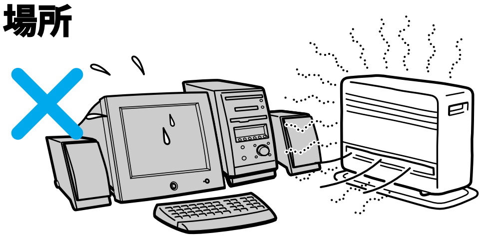
❑ 磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く



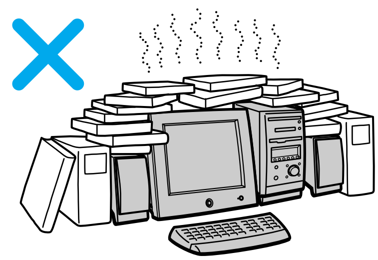
❑ 湿気が多い場所



❑ 暖房器具の近くなど、温度が高い場所

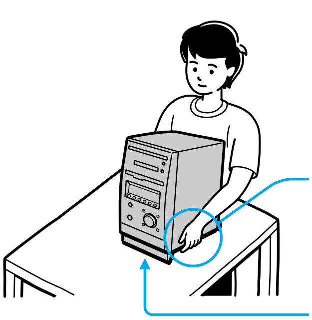


❑ 風通しが悪い場所



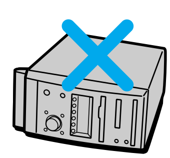
設置時のご注意

次のことをお守りください。



本機を持ち上げるときは、左右から手を入れて底面を持つ。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。

本機を置くときは、衝撃が加わらないように静かに置く。



本機を横置きにしない。

このほかにも、設置の際の安全上の注意事項が7～15ページに記載されています。 そちらもあわせてご覧ください。

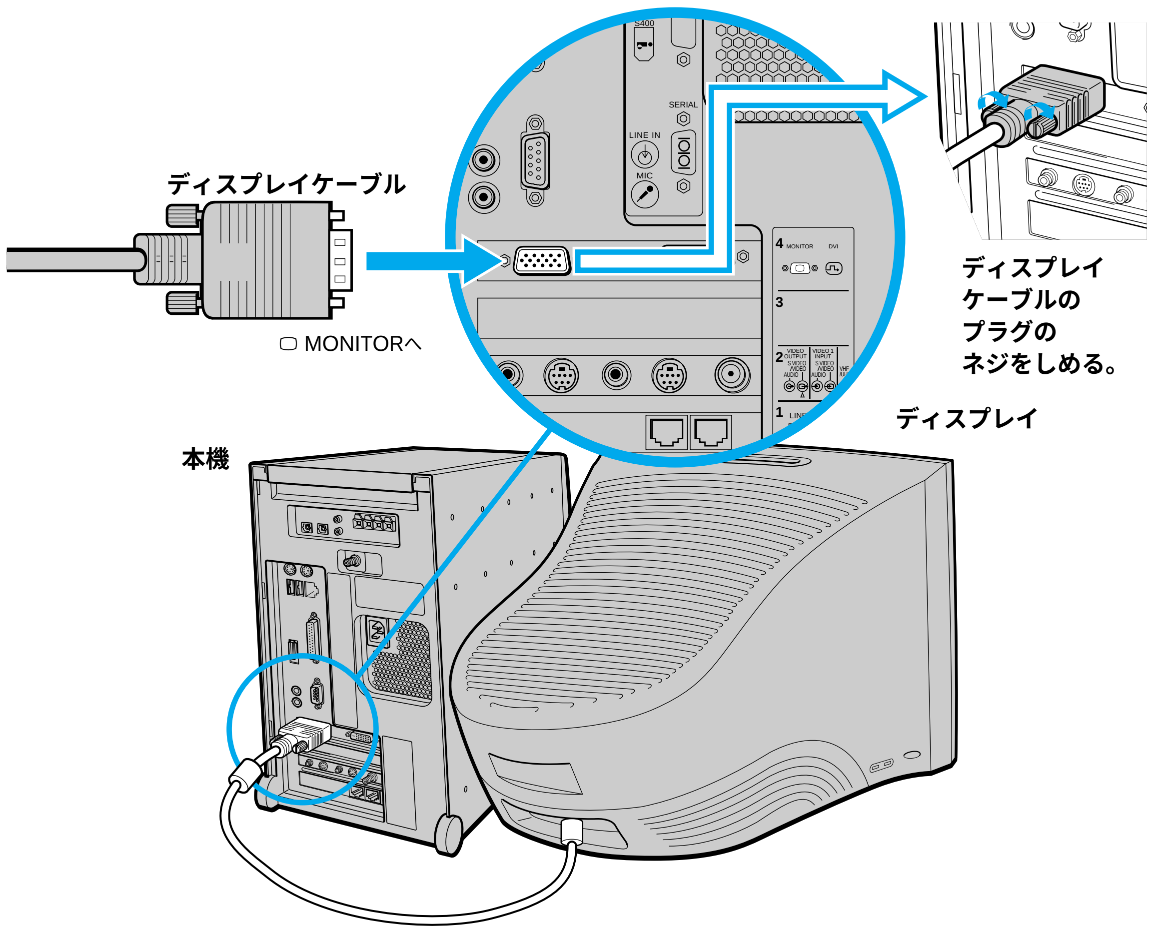
接続する／準備する

ディスプレイ、テレビアンテナ、ビデオデッキ、キーボード、マウス、スピーカー、テレホンコード、FMアンテナ、電源コードを接続し、リモコンを使えるように準備します。

1 ディスプレイを接続する。

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ HMD-A200を接続する場合

ディスプレイケーブルのプラグをMONITOR（モニタ）コネクタへ接続します。

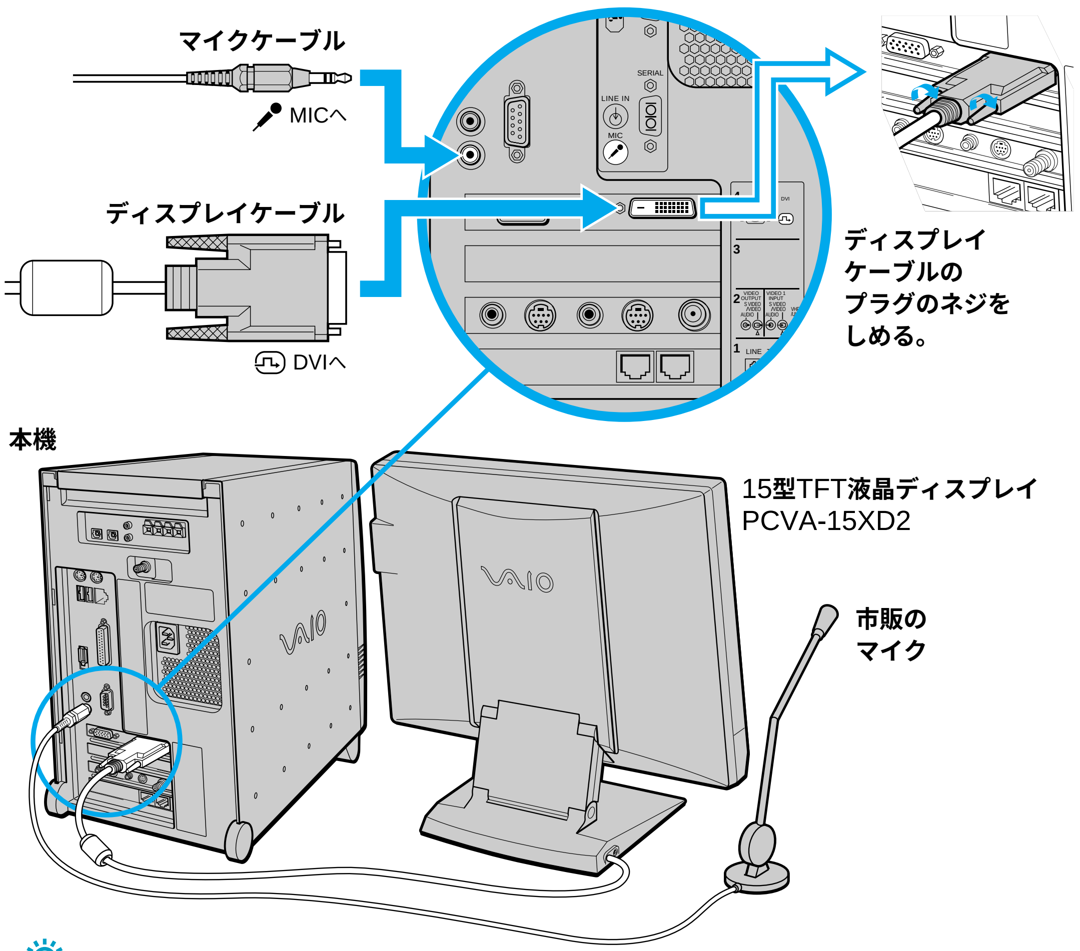


PCVA-15XD2など、その他のディスプレイを接続する場合

接続ケーブルを使って、ディスプレイ、マイクを本機に接続します。接続のしかたはディスプレイによって違います。
ディスプレイおよびマイクに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機には、MONITOR（モニタ）コネクタとDVI（ディーブイアイ）コネクタの2つのコネクタがあります。接続するコネクタはディスプレイによって違います。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- MONITOR（モニタ）コネクタまたはDVI（ディーブイアイ）コネクタのいずれかにディスプレイを接続してください。両方のコネクタにディスプレイを接続しないでください。



ちょっと一言

ディスプレイは必ず接続してください。この段階では、マイクは必ずしも接続する必要はありません。

次のページへつづく

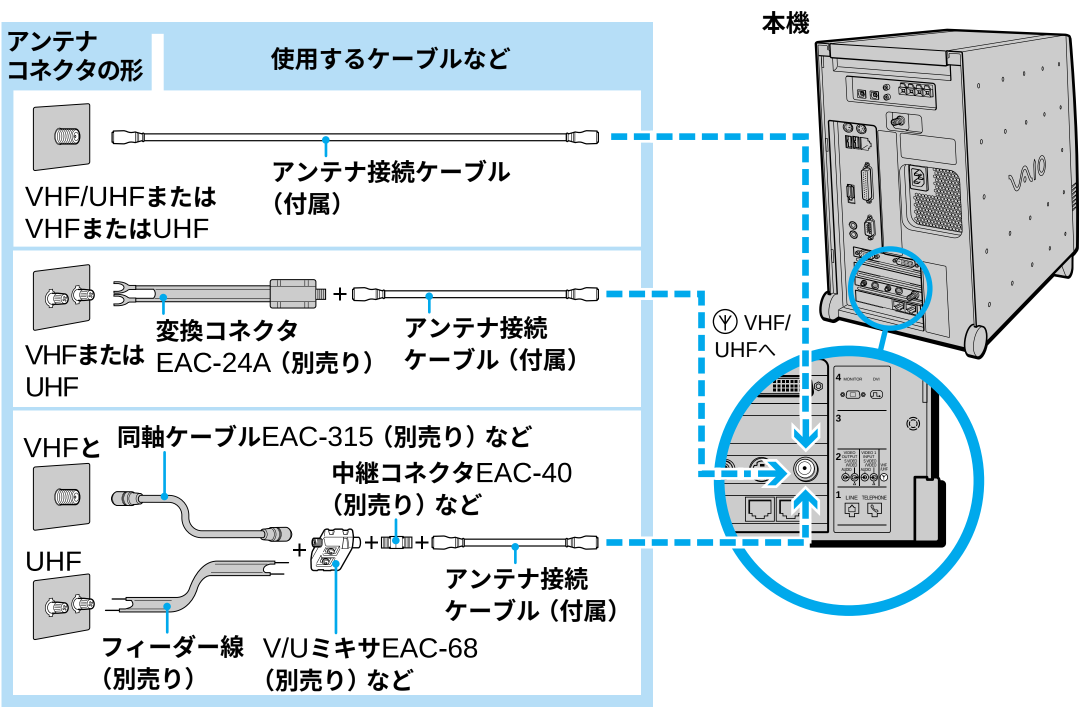
2 テレビアンテナを接続する。

本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見たり、テレビ番組を録画するときは、付属のアンテナ接続ケーブルを使って壁のアンテナコネクタにつなぎます。また、すでにビデオデッキやテレビをお持ちの場合はそれらを本機につなぐことで、ビデオデッキからの映像を見たり、録画したり、テレビで「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を見ることができます。
テレビを見たり、テレビ番組を録画する方法については、本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「テレビ番組を録画する」の項目、「録画したテレビ番組を再生する」および「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
接続のしかたは、以下の場合で異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

• 本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合。
• すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合（34ページをご覧ください）。

本機とディスプレイのみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

以下のようにテレビアンテナを接続します。
テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。
なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

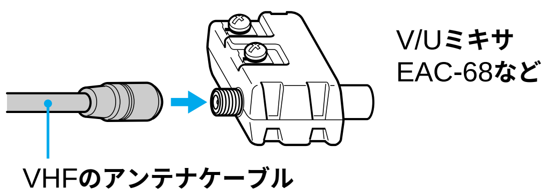


ご注意

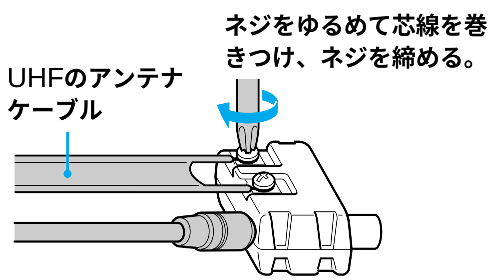
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサをつなぐには

(1) VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



(2) UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。

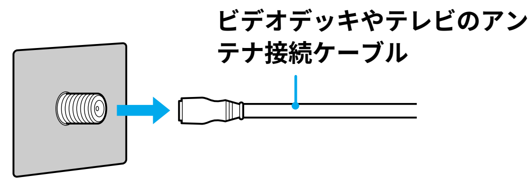


次のページへつづく

すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機とディスプレイを新たに接続する場合

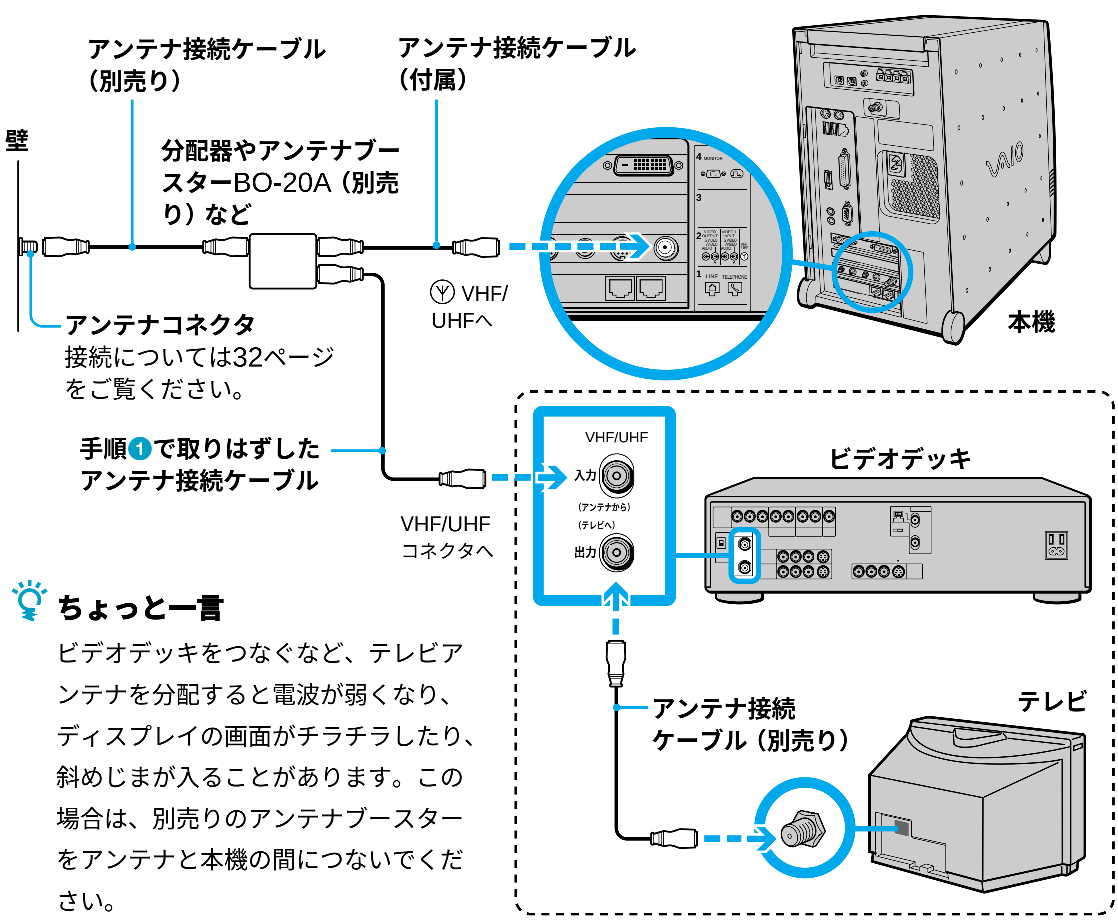
以下のようにテレビアンテナを接続します。

1 壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビのアンテナ接続ケーブルを取りはずす。



2 テレビアンテナを接続する。

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってテレビアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。32ページの例から、最も近いものを選び接続してください。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

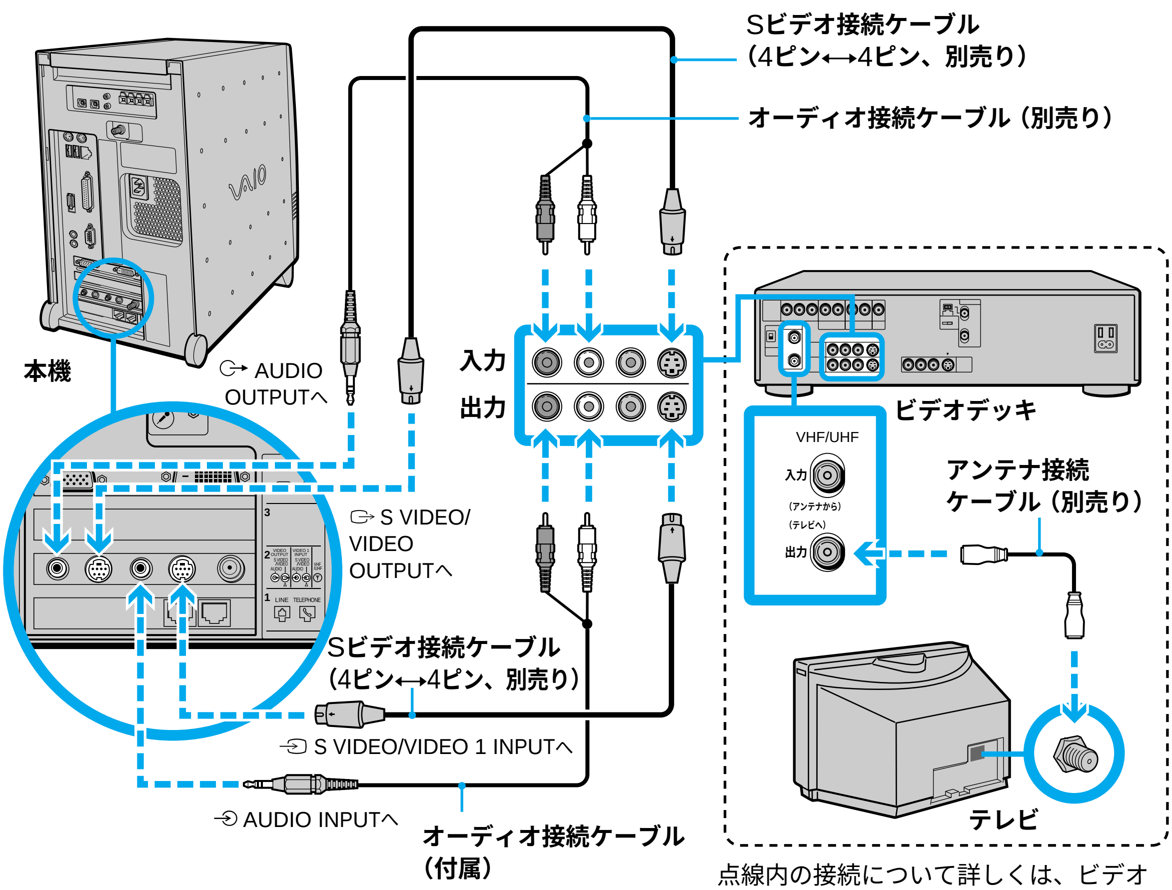
ちょっと一言

ビデオデッキをつなぐなど、テレビアンテナを分配すると電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

3 本機とビデオデッキを接続する。

本機とビデオデッキの映像／音声の入出力コネクタどうしをつなぐと、以下のことができるようになります。

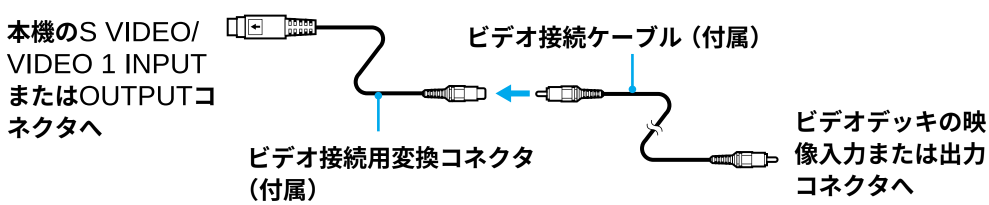
- ビデオデッキで再生する映像を本機につないだディスプレイで見る。
- ビデオデッキで再生する映像を本機に録画する。
- 本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を、ビデオデッキに録画したり、テレビで見る。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

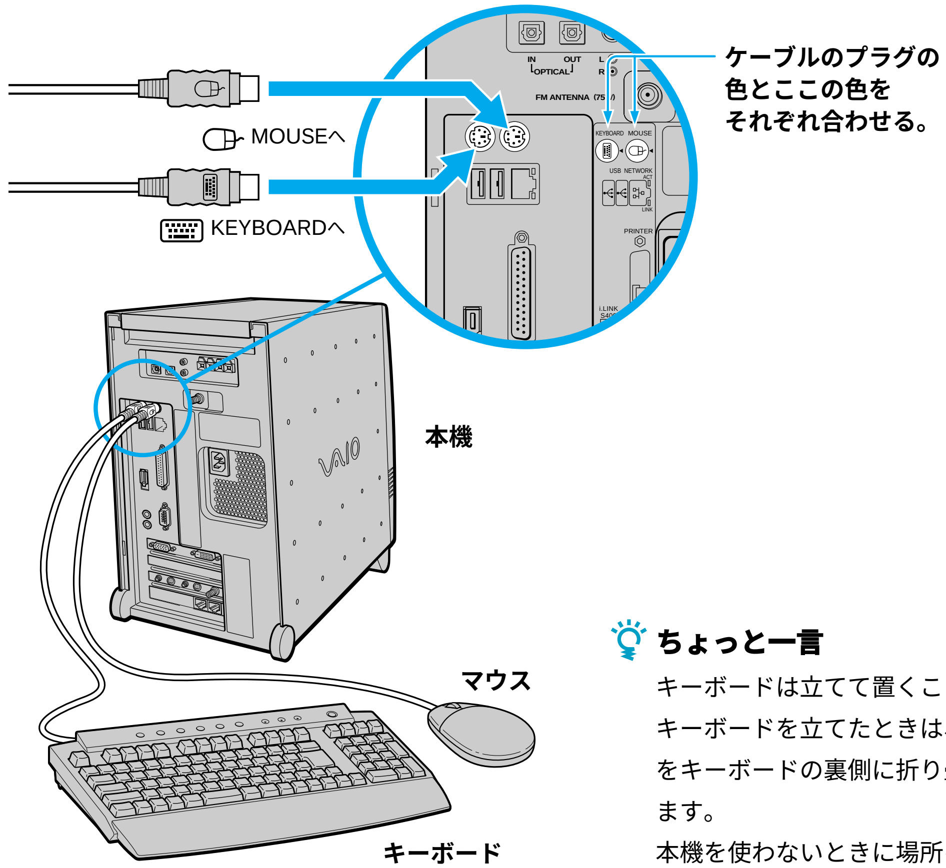
ちょっと一言

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキをつなぐときは、Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



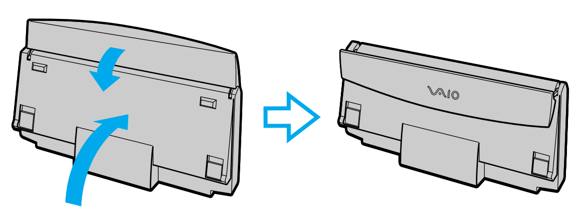
次のページへつづく

4 キーボードとマウスを接続する。



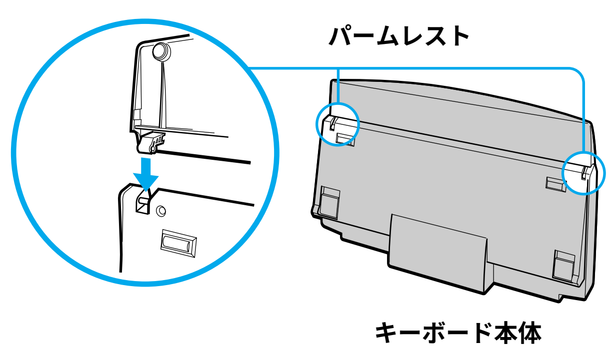
ちょっと一言

キーボードは立てて置くことができます。
キーボードを立てたときは、パームレストをキーボードの裏側に折り畳むことができます。
本機を使わないときに場所を取りません。



キーボードにパームレストを取り付けるには

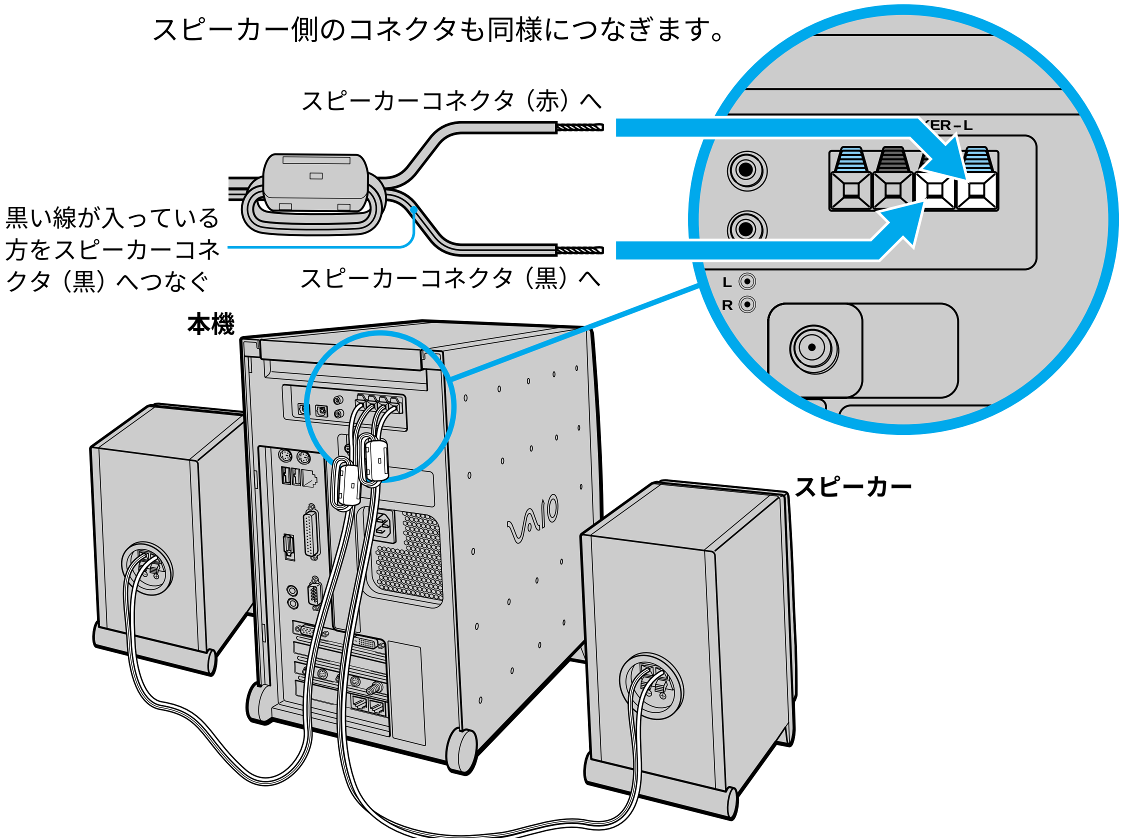
キーボードを使うとき、手首に負担がかからなくなります。
キーボードを立てて、パームレストの左右にあるツメをキーボードの左右にある切り込みにカチッと音がするまで差し込みます。



5 スピーカーを接続する。

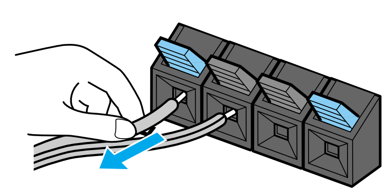
❶ 本機とスピーカーのスピーカーコネクタに、スピーカーコードをつなぐ。

スピーカー側のコネクタも同様につなぎます。



❷ スピーカーコードを軽く引いてみて、正しく接続されたことを確認する。

スピーカーコードがコネクタから抜けてしまった場合は、もう1度つなぎ直してください。また、差し込みすぎてビニール部分がはさまると音が出ません。



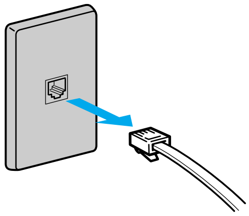
ご注意

- スピーカーを本機につないだり、取りはずすときは、必ず本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- スピーカーコードはアンテナから離してください。FM放送を受信するときの雑音の原因になります。
- 付属のスピーカーには、右／左用の区別はありません。「SPEAKER R」と書かれたスピーカーコネクタにつないだスピーカーを正面から見て向かって右へ、「SPEAKER L」につないだスピーカーを左へ置いてください。

次のページへつづく

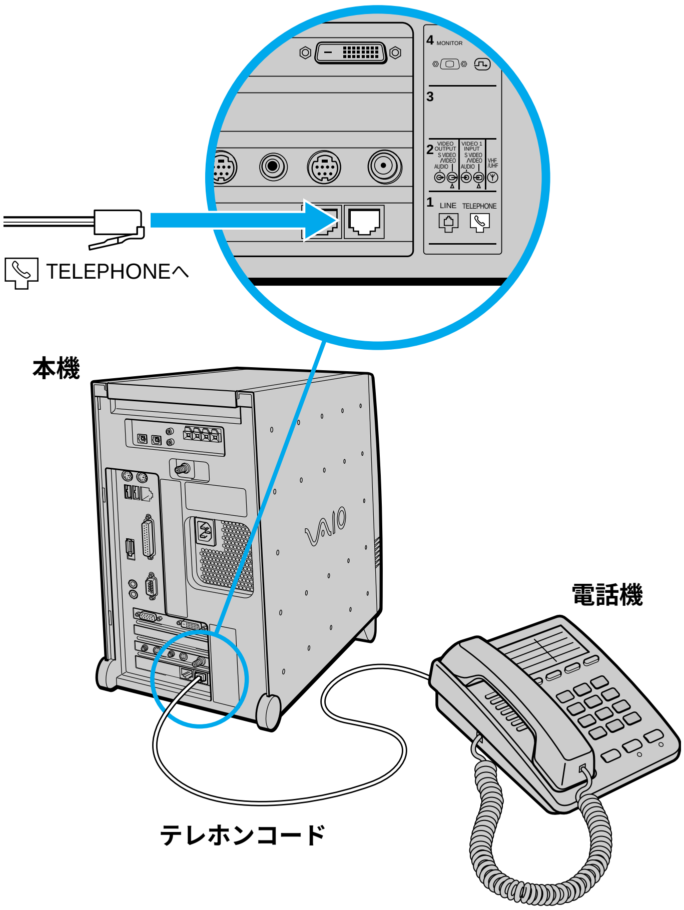
6 電話回線に接続する。

インターネットに接続するなどデータ通信をするときは、付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぎます。
インターネットへの接続について詳しくは、「カスタマー登録する／インターネットに接続する」（75ページ）および別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。



1 お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラジャックからはずす。

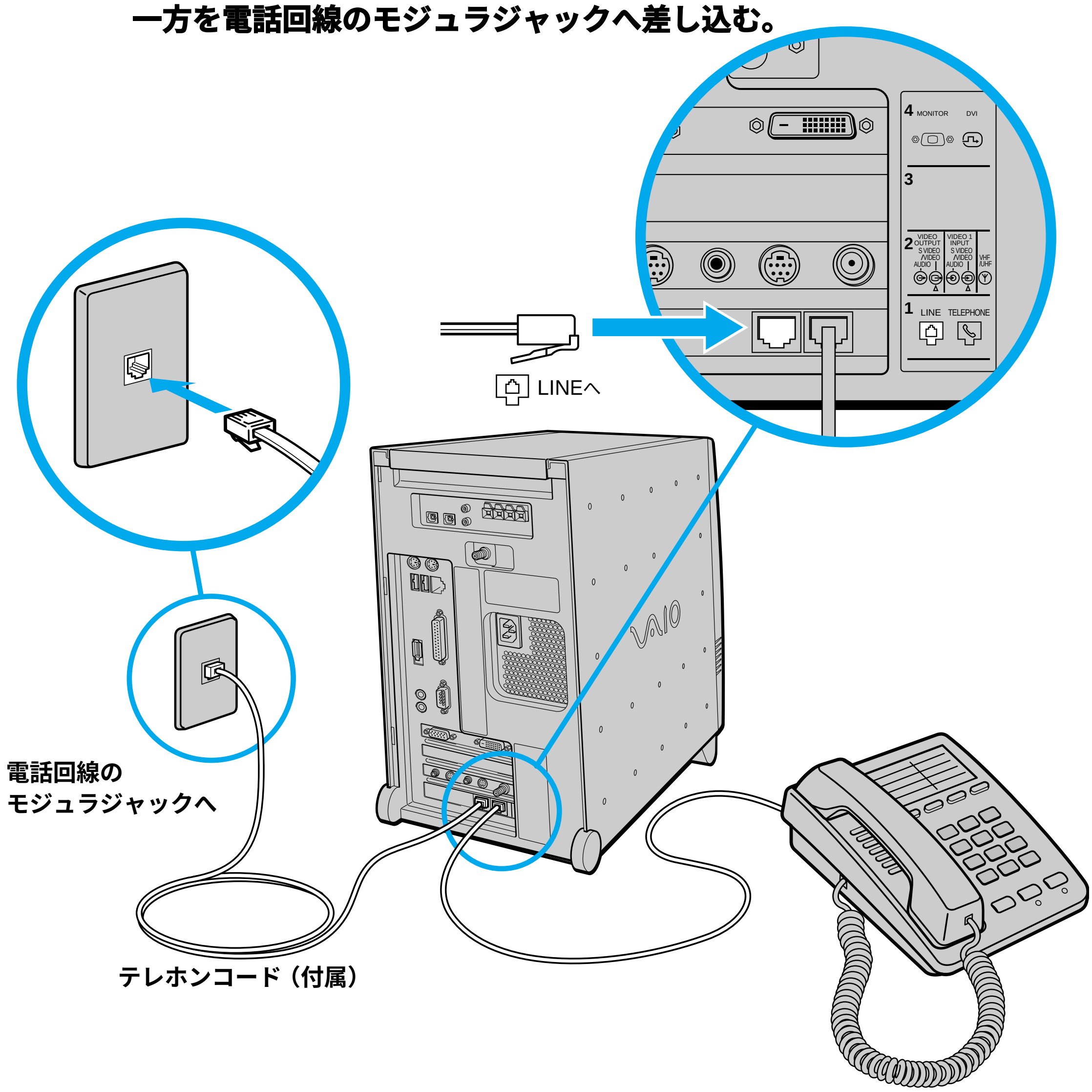
2 1ではずしたテレホンコードを本機のTELEPHONE（テレホン）ジャックにカチッと音がするまで差し込む。



ご注意

テレホンコードは本機後面のNETWORK（ネットワーク）コネクタに接続しないでください。

❸ 付属のテレホンコードの一方を本機のLINE（ライン）ジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラジャックへ差し込む。



ちょっと一言

電話回線のコンセントの形状が付属のテレホンコードにあわないときは交換工事や取り付け工事が必要な場合があります。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「VAIO Inform@tion」内「知っ得情報」の「電話回線のコンセントの種類」をご覧ください。

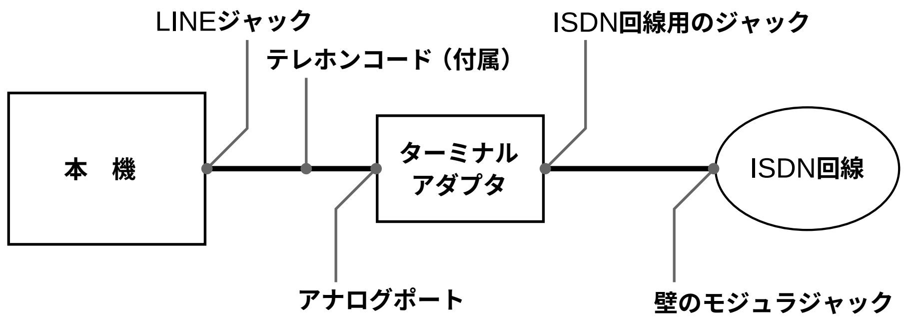
次のページへつづく

ISDN回線につなぐときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するためには、付属のテレホンコードの他に「ターミナルアダプタ」というコンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器が必要です。

オンラインカスタマー登録やインターネットの接続会社と契約するには

オンラインカスタマー登録したり（76ページ）、電話回線を通じてインターネットの接続会社と契約する（76ページ）ときは、下図のように本機をターミナルアダプタのアナログポートに接続します。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。



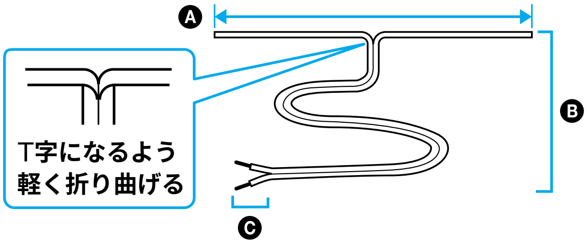
インターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには

オンラインカスタマー登録やインターネットの接続会社との契約が終了し、実際にインターネットに接続してホームページを見たり、電子メールをやりとりするときは、本機のSERIALコネクタまたはUSBコネクタとターミナルアダプタのデジタルポートをつないでください。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

7 FMアンテナを本機に接続する。

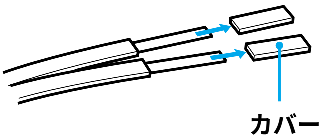
FMアンテナを組み立ててから本機につなぎます。

付属のFMフィーダアンテナの構造について

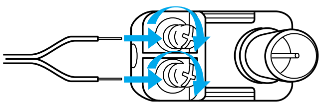


- A FMラジオの電波を受信しやすい長さ（約145cm）になっているのでこれ以上さかないでください。
- B 全体がアンテナになっていて、全面で受信するのでまるめたりしないでください。
- C FMアンテナ整合器への差し込み部分

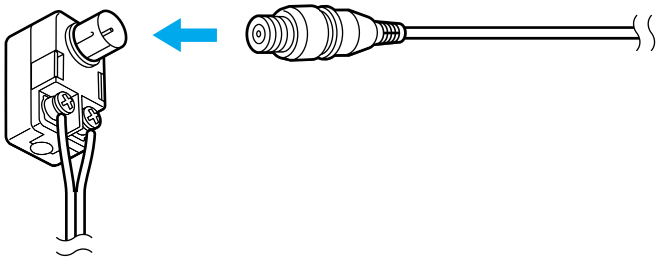
1. **差し込み部分Cのカバーをはずす。**



2. **付属のFMアンテナ整合器に先端を巻きつけて、ネジをしっかりしめる。**

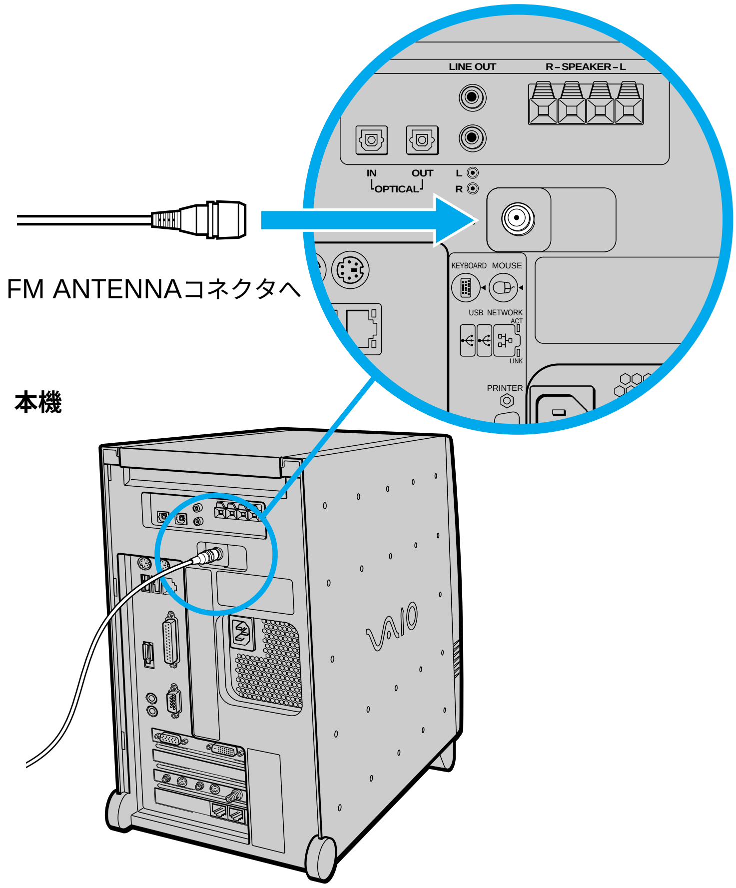


3. **付属のFM同軸延長ケーブルをFMアンテナ整合器に差し込む。**



次のページへつづく

❹ **組み立てたFMアンテナを本機のFM ANTENNA（FMアンテナ）コネクタにつなぐ。**



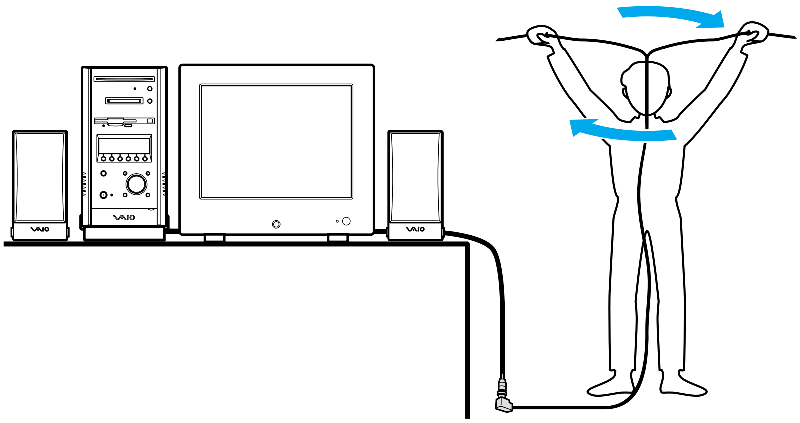
ご注意

FMアンテナ整合器を直接FM ANTENNAコネクタにつながないでください。

8 FMアンテナを壁や天井に貼る。

1 両手でアンテナの先を持ち、体の向きを変えながら受信状態の良いと思われる向きを探す。

FMフィーダアンテナとFMアンテナ整合器は本機とできるだけ離してください。

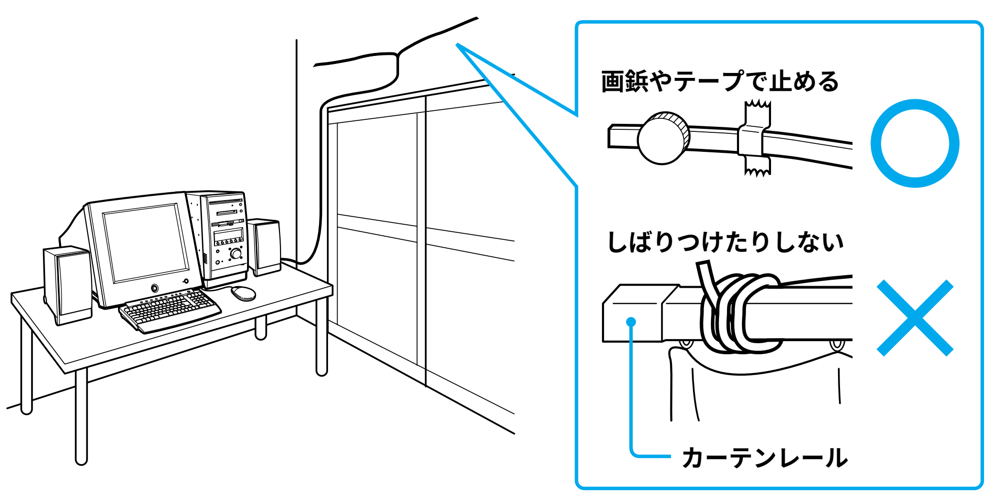


壁に貼るときは、受信状態の良い場所を探してください。

ちょっと一言

本機では、FM放送やFM文字放送の受信およびその設定をソフトウェアで行いますが、この段階ではそのソフトウェアを起動することができません。このため、ここではFMアンテナは受信状態が良いと思われる場所に仮に設置し、後でソフトウェアを使ってFM放送やFM文字放送を受信するときに受信状態が悪ければ設置し直してください。

2 方向が決まったら、画鋲やテープで貼りつける。

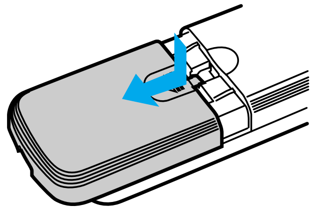


次のページへつづく

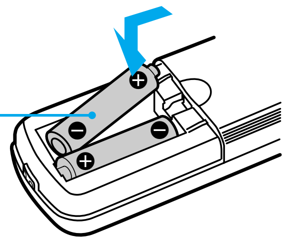
9 リモコンを準備する。

❶ **リモコンを裏返す。**

❷ **リモコンの裏面の乾電池入れのふたを開ける。**



❸ **⊕と⊖の方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。**



ちょっと一言

オーディオ／DVD用リモコンとGiga Pocket用リモコンの2つのリモコンが付属しています。両方のリモコンに乾電池を入れてください。

ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

❹ **乾電池入れのふたを閉める。**

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

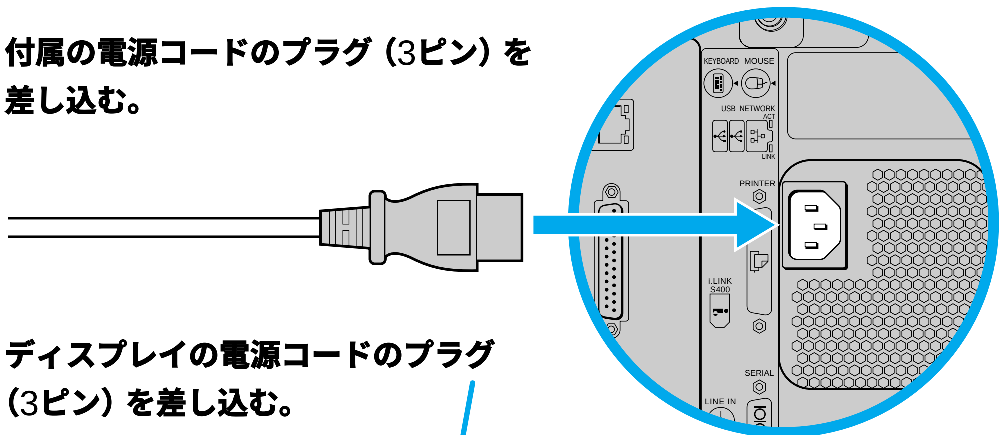
10 電源コードを接続する。

本機とディスプレイを電源コンセントに接続します。

ご注意

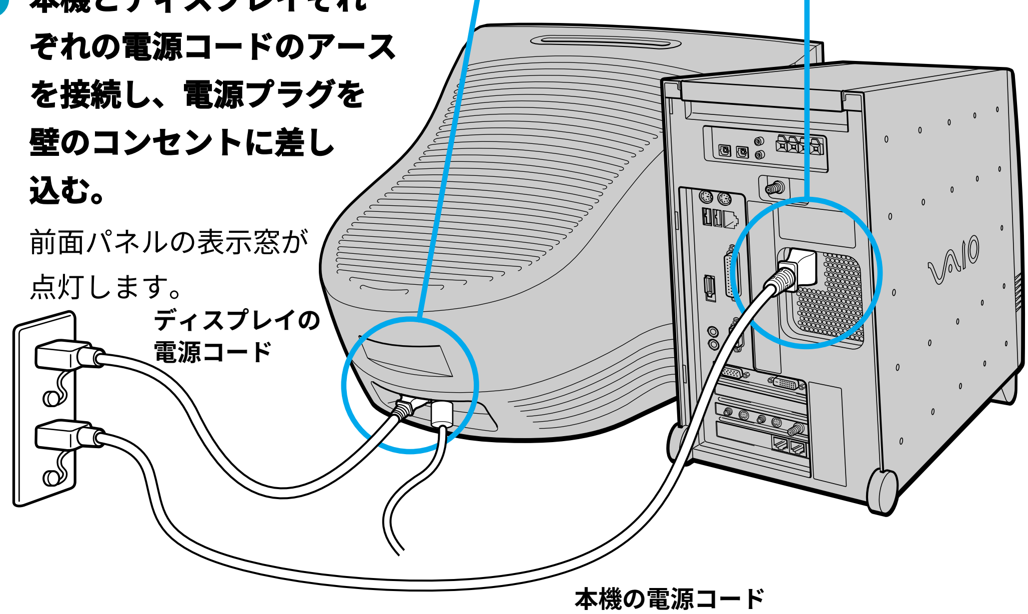
- **同じコンセントにたくさんの機器を同時につながないでください。**
- **本機は日本国内専用です。交流100Vでお使いください。**

1. **付属の電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。**



2. **ディスプレイの電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。**
3. **本機とディスプレイそれぞれの電源コードのアースを接続し、電源プラグを壁のコンセントに差し込む。**

   前面パネルの表示窓が点灯します。



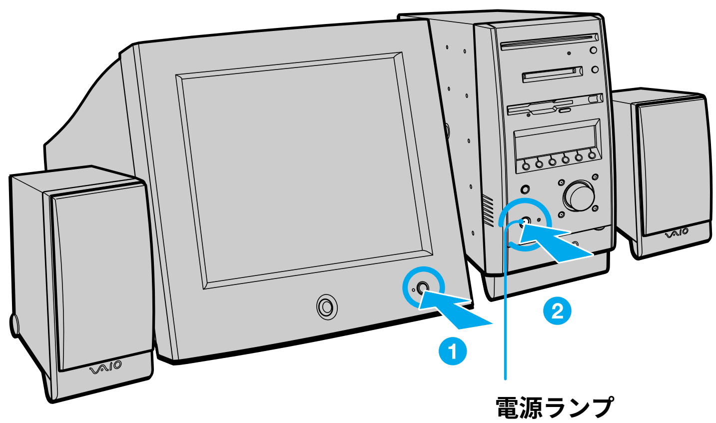
電源を入れる

本機とディスプレイの電源を入れる。

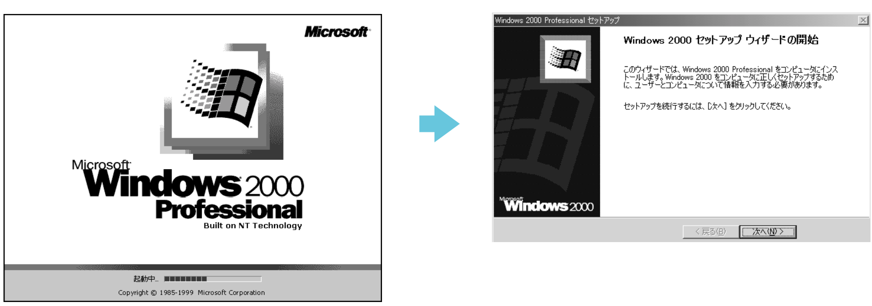
❶ ディスプレイの電源スイッチを押す。

❷ 本機の ⏻（電源）ボタンを押す。

電源が入ると、電源ランプが緑色に点灯します。



Windows 2000の画面が表示され、しばらくすると、「Windows 2000 セットアップ ウィザードの開始」の画面が表示されます。



基本的なオーディオ機能のみを使いたいときは

Windows 2000を起動しないで電源を入れることができます（オーディオモード）。
詳しくは、「本機の動作モードについて」（82ページ）および「オーディオモードで電源を入れる」（83ページ）をご覧ください。
オーディオモードの機能の中には、Windows 2000が起動した状態（PCモード）で設定をしてからでないと使えないものがあります。Windows 2000を準備したあと、各ソフトウェアで設定を行います。詳しくは本機オンラインマニュアルをご覧ください。

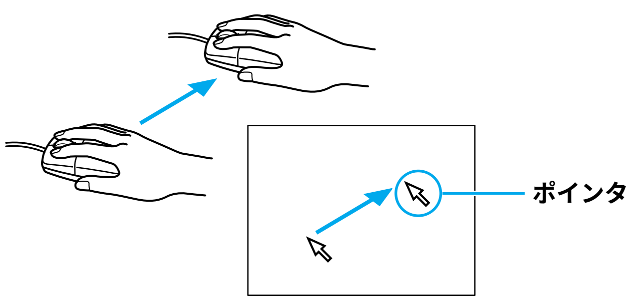
Windows 2000を準備する

本機をお使いいただく前に、最初のステップとしてWindows 2000を使うための準備が必要です。Windows 2000が使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。
以下の手順に従って、Windows 2000を使う準備をします。

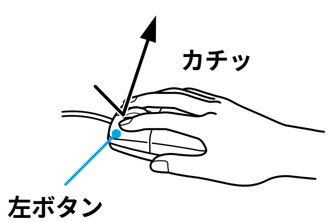
1 次へ(N) > をクリックする。

マウスを動かして「Windows 2000 セットアップ ウィザードの開始」画面右下の 次へ(N) > の上まで ↖(ポインタ)を移動し、マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離します。
これを「クリックする」と言います。
「ライセンス契約」画面が表示されます。

マウスを動かして...

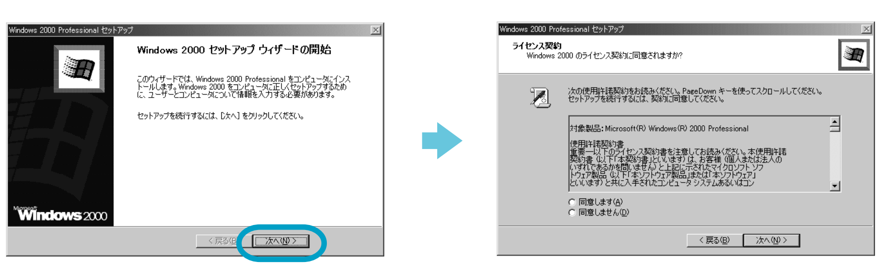


マウスの左ボタンをカチッと1回押し、すぐ離す。



ちょっと一言

マウスは机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて画面上の ↖(ポインタ)が同じように動きます。マウスを動かしていて机の端まで行ってしまったら、マウスを持ち上げて元の位置に戻して動かします。

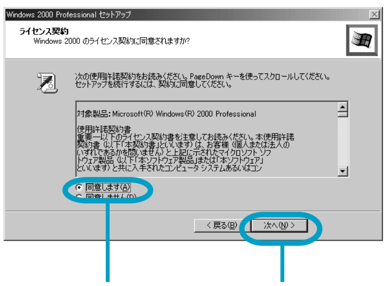


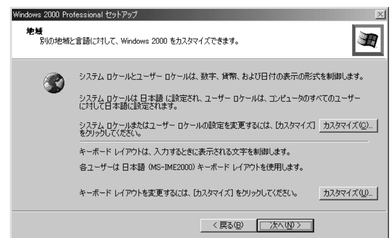
次のページへつづく

2

画面に現れた内容を読み、内容に同意するときは［同意します］の ◯ をクリックして ◉ にし、 [次へ(N) >] をクリックする。

「地域」画面が表示されます。





❶ ここをクリックして、◯ を ◉ にする。

❷ ここをクリックする。

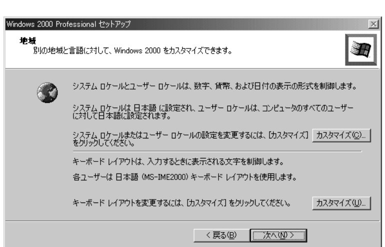
ご注意

［同意しません］の ◯ をクリックすると、Windows 2000の準備作業は中止され、Windows 2000と本機に入っているソフトウェアはお使いになれません。

3

画面に表示される言語、日付や時刻の表示形式などを設定する。

この画面では本機のディスプレイに複数の言語を表示したり、入力できるように設定することができます。
日本語でのみ表示させる場合は、設定を変更する必要はありません。
日本語以外の言語を表示させる場合は、上段の [カスタマイズ(U)...] をクリックして設定を変更します。

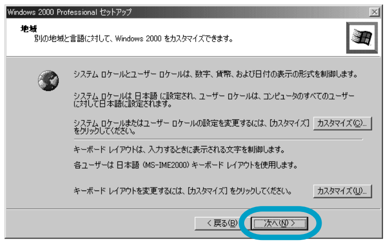


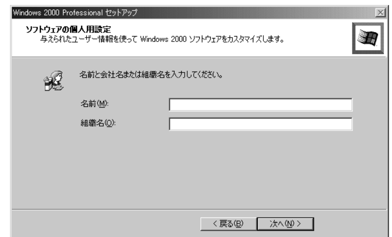
ロケールとは

「ロケール」とは、国や地域の言語や通貨単位、日付や時刻などの情報のことです。

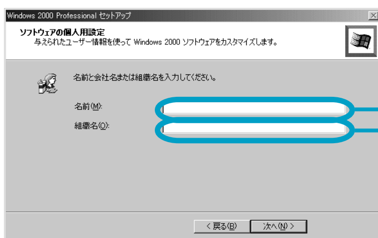
4 次へ(N) > をクリックする。

「ソフトウェアの個人用設定」画面が表示されます。





5 ご自分のお名前と、必要な場合は組織名を入力する。



ここに名前を入力する。

必要な場合は、ここに組織名を入力する。

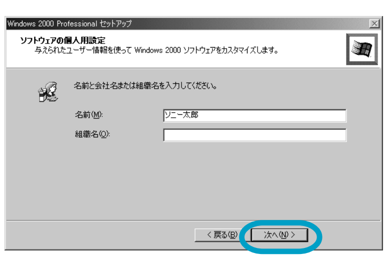
組織名を入力するときは、Tab（タブ）キーを押して、「組織名」の入力欄に移ってから、文字を入力します。

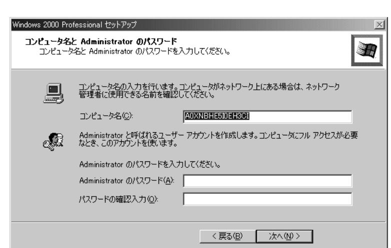
ご注意

例では「ソニー太郎」という名前を入力していますが、実際の入力は必ずご自分のお名前を入れてください。

6 次へ(N) > をクリックする。

「コンピュータ名と Administrator のパスワード」画面が表示されます。

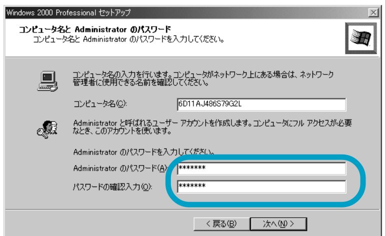




次のページへつづく

7

「Administratorのパスワード」にパスワードを入力し、確認のため「パスワードの確認入力」にも同じパスワードを入力する。



ご注意

- ネットワークに接続しない場合は、「コンピュータ名」の項目に入力する必要はありません。
- ご自分のパスワードが他人に知られることがないようにご注意ください。パスワードはできるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 次回本機の電源を入れるときに、この画面で入力したパスワードを入力する必要があります。パスワードを忘れないように充分ご注意ください。

ちょっと一言

- 入力されたパスワードは文字のかわりに「＊」で表示されます。
- この画面で入力したパスワードでWindows 2000を起動すると、ユーザーアカウントの作成などができます。Windows 2000の機能について詳しくは、別冊の「Microsoft Windows 2000 Professional」クイックスタートガイドをご覧ください。

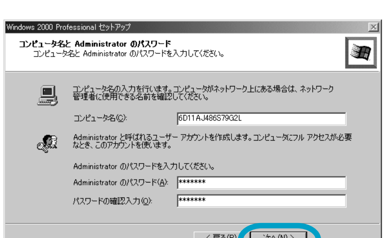
Administratorとは

「アドミニストレーター」と読みます。Administratorは、ハードウェアやソフトウェアの設定を変更できる管理者権限（Administrators）のある、あらかじめ用意されたユーザー名です。

8

［次へ(N) >］をクリックする。

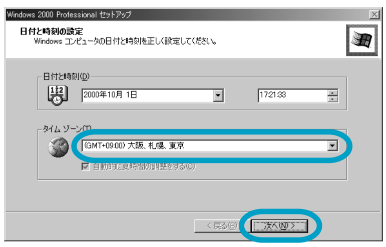
「日付と時刻の設定」画面が表示されます。

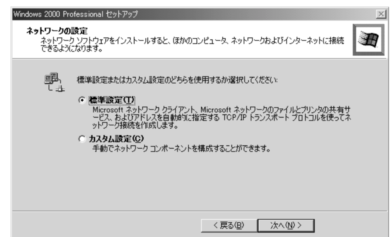




9 日付と時刻およびタイムゾーンを確認し、[次へ(N) >] をクリックする。

「ネットワークの設定」画面が表示されます。

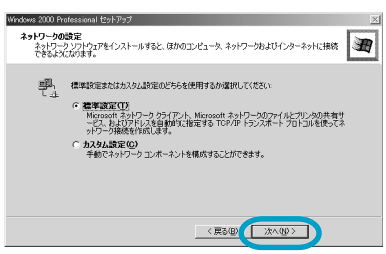


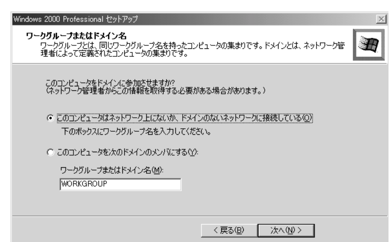


10 [次へ(N) >] をクリックする。

「ワークグループまたはドメイン名」画面が表示されます。

手動で設定するときは［カスタム設定］の ◯ をクリックして ◉ にしてから [次へ(N) >] をクリックしてください。

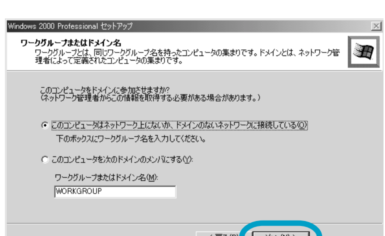




11 [次へ(N) >] をクリックする。

自動的に設定が行われ、「Windwos 2000 セットアップ ウィザードの完了」画面が表示されます。

ワークグループの一員ならば「ワークグループまたはドメイン名」の入力欄にワークグループ名を入れてください。





本機が自動的に再起動し、「ネットワーク識別ウィザード」が表示されます。

次のページへつづく

Windows 2000を準備する（つづき）

12 [完了] をクリックする。

本機が自動的に再起動し、「ネットワーク識別ウィザードの開始」画面が表示されます。

13 [次へ(N) >] をクリックする。

「このコンピュータのユーザー」画面が表示されます。

14 ログオン時のオプションを選択し、[次へ(N) >] をクリックする。

「ネットワーク識別ウィザードの終了」画面が表示されます。

ちょっと一言

- 「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合、電源を入れると、管理者権限（Administrators）のユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されてからWindows 2000が起動します。
  セキュリティ確保のためにパスワードを設定しておくことをおすすめします。
  また、パスワードは忘れないように充分ご注意ください。
  「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択した場合、電源を入れると、あらかじめ設定したユーザーのユーザー名とパスワードで自動的にWindows 2000が起動します。
  「Giga Pocket」ソフトウェアを使って予約録画を行うときなど、本機の電源が切れた状態から自動的にWindows 2000を起動させる必要があるときは、「常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する」を選択してください。
- ここで設定した内容は、いつでも変更することができます。詳しくは、本機オンラインマニュアルの「設定を変更する」内「ユーザー制限の設定を変更する」をご覧ください。

15 [完了] をクリックする。

これで「こんなことができます」（16ページ）で紹介した機能が使えるようになりました。

ご注意

本機に付属の OS（Operating System）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

OS（Operating System）とは

コンピュータを動かすために必要な基本ソフトウェアのことです。画面表示や操作方法などもOSによって決められています。OSがないと他のソフトウェアも使えません。本機のOSはWindows 2000です。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。コンピュータウイルスに侵入されると、意味不明なメッセージがディスプレイ画面上に表示されたり、ファイルが勝手に消去されたりしてしまいます。コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

このコンピュータウイルスを検査／除去するソフトウェアとして、本機には「VirusScan」が付属しています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされておりません。「コンピュータウイルスについて」（130ページ）の中の手順に従って「VirusScan」ソフトウェアをインストールしてください。

電源を切る

本機を使う準備が終わったところで、いったん電源を切ってみます。

ご注意

⏻（電源）ボタンを押して電源を切らないでください。必ず次の手順に従って電源を切ってください。手順に従って電源を切らないと、故障の原因になることがあります。

1

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されるメニューの［シャットダウン］をクリックする。

「Windows のシャットダウン」の画面が表示されます。

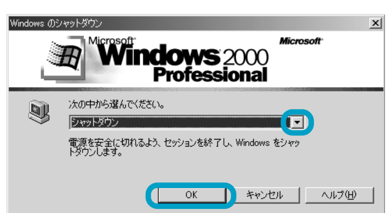




2

▼ をクリックして、一覧の中から［シャットダウン］を選び、 OK をクリックする。

「Windowsをシャットダウンしています」が表示されてからしばらくすると、自動的に本機の電源が切れて、本機の電源ランプが消えます。





ちょっと一言

ソニー製のコンピューターディスプレイをお使いのときは、手順2で本機の電源が切れたあと、自動的にディスプレイが節電モードに入ります。

3

ディスプレイの電源ボタンを押す。

ディスプレイの電源が切れます。

これで、本機を使う上で必要な準備と操作はひと通り終わりました。
さらにいろいろな操作をするためには、引き続きこのあとのページおよび本機オンラインマニュアルをご覧ください。

ご注意

次回本機の電源を入れるときは「Windowsのログオン」画面でAdministratorのパスワードを入力してください。Administratorのパスワードを入力しないと、Windows 2000が起動しません。

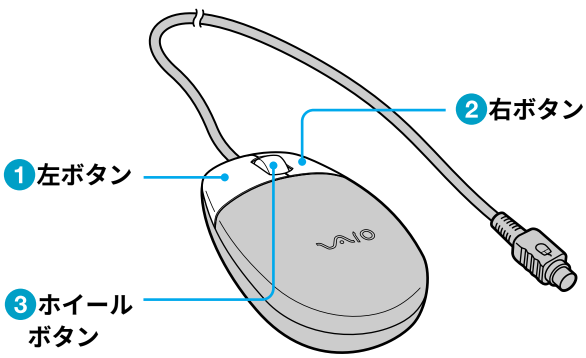
コンピュータの基本操作を練習する

この章では、本機を使うための基本的な操作を説明します。

マウスの使いかた

本機を操作するときは、キーボードのほかにマウスを使います。ここではマウスの使いかたを説明します。

マウスの各部のなまえとはたらき



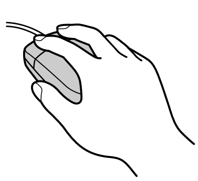
① 左ボタン
文書や画像、ソフトウェアなどを選んだりするときに押します。
マウスを使うときは、主にこのボタンを使います。

② 右ボタン
文書や画像をコピーするなど、さまざまな操作や設定をすぐに行うためのメニューを表示するときに押します。

③ ホイールボタン
ウィンドウを移動するときなどに、このボタンを使うと、左ボタンを使うよりも楽に操作できます。
ホイールボタンについて詳しくは、本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「マウスを使う」の「ホイールボタンの使いかた」をご覧ください。

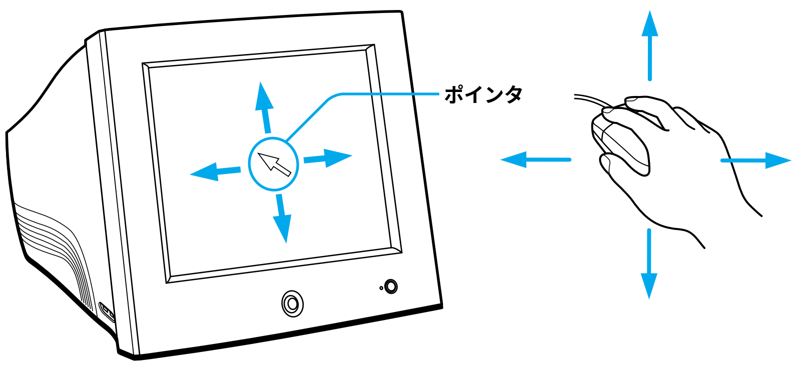
マウスの持ちかた

マウスは強く握ったり、押しつけたりせず、手のひらを軽く乗せるようにします。また、ボタンをクリックしやすいように、指先をボタンに乗せてください。



1 マウスを動かす

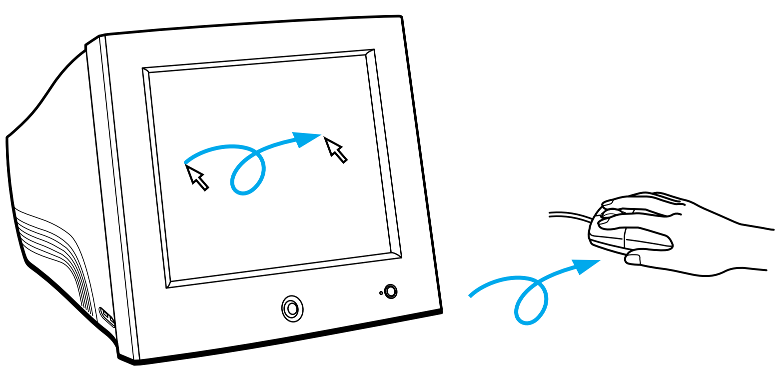
マウスを動かすと、その動きに合わせてデスクトップ画面上の⇖（ポインタ）も同じ方向に移動します。



ポインタとは

マウスを動かすと、画面上に表示されている ⇖ が動きます。この矢印を「ポインタ」と言います。ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン、右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。



大きく動かすときは

マウスを動かしていると、机の端まで行ってしまうことがあります。このようなときは、マウスを持ち上げて元の位置に戻し、また同じ方向に動かします。マウスを持ち上げている間は、ポインタは動きません。

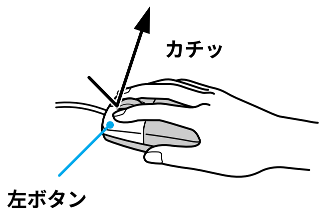
次のページへつづく

マウスの使いかた（つづき）

2 クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。

スタート などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。



3 ポイントする

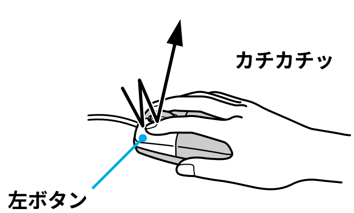
（ポインタ）を希望の位置に合わせることです。メニューの項目を選ぶときなどに使います。



4 ダブルクリックする

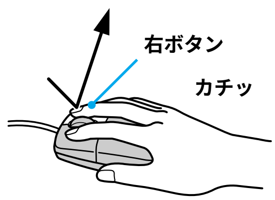
左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

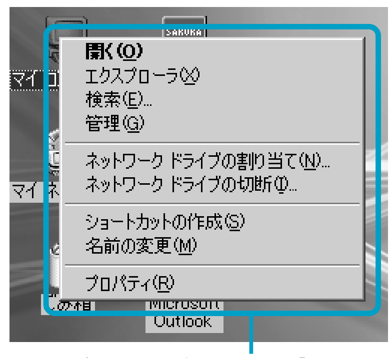
ソフトウェアを実行したり、作成した文書を開くときなどに使います。



5 右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。ショートカットメニューを使うと、メニューなどを開かずに、さまざまな機能を直接使うことができます。

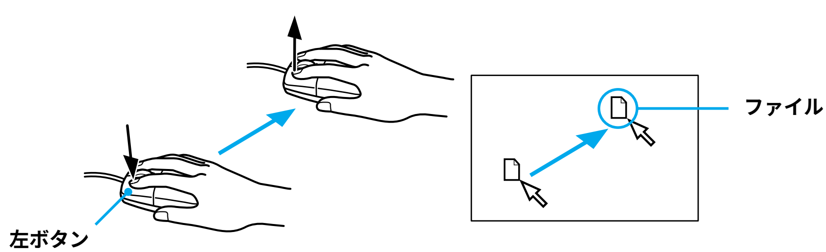




デスクトップ画面左上の［マイコンピュータ］を右クリックしたときのショートカットメニュー

6 ドラッグする

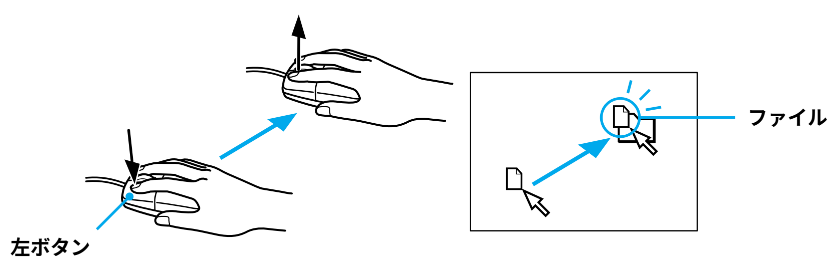
マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かしてからボタンを離すことです。文書や画像を移動するときなどに使います。



次のページへつづく

7 ドラッグアンドドロップする。

ファイルのアイコンなどをドラッグしてフォルダやソフトウェアのアイコン、ウィンドウなどの上でボタンを離すことです。
ファイルをフォルダのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、そのファイルをフォルダやウィンドウの中に移動またはコピーすることができます。
ファイルをソフトウェアのアイコンやウィンドウにドラッグアンドドロップすると、ソフトウェアでそのファイルを開くことができます。



本機の使いかたがわからないときに

この章では、本機の使いかたがわからなくなったときに
読むマニュアルやヘルプの使いかたについて説明します。

どのマニュアルを読む？

本機に付属しているマニュアルの内容を簡単に紹介します。それぞれの目的に合わせてお読みください。
オンラインマニュアルの使いかたについて詳しくは、「オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）」（64ページ）および「「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた」（73ページ）をご覧ください。

オンラインマニュアルとは

本機やソフトウェアの操作説明などをデスクトップ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

本機に付属しているマニュアル

❏ 取扱説明書（本書）

本機をお買い上げいただいたあとに最初に行う準備をはじめ、本機の基本的な使いかたや使用上のご注意などについて説明しています。



❏ 接続／拡張マニュアル

本機と周辺機器の接続方法や、本機の機能を拡張する方法について説明しています。



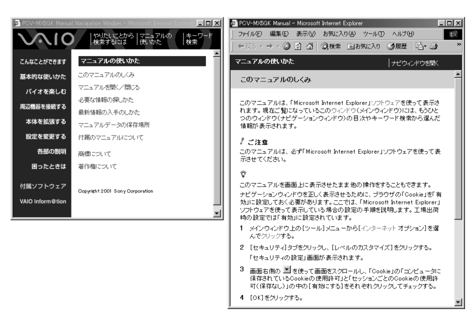
❏ はじめてのインターネット！

インターネット接続について説明しています。

コンピュータ上のマニュアル

❏ 本機のオンラインマニュアル

コンピュータの基礎的な知識をはじめ、本機の使いかたについて詳しく説明しています。また、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお問い合わせ先なども説明しています。本書を読み終わった方はデスクトップ画面上の VAIO をダブルクリックして必ずこちらもご覧ください。使いかたについて詳しくは、「本機のオンラインマニュアルを見るには」（64ページ）をご覧ください。このオンラインマニュアルは、やりたいことの操作や困ったときの解決方法を検索できる「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアから検索することもできます。



❑ ソニー製のソフトウェアのオンラインマニュアル

本機に付属しているソニー製のソフトウェアの基本的な使いかたを説明しています。オンラインマニュアルの使いかたについて詳しくは、「付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには」(69ページ)をご覧ください。

- ピクチャーギア PictureGear
  本機で静止画や動画を見たり、保管するためのソフトウェア
- メディア バー Media Bar *
  本機で音楽を聞いたり、映像を見たり、ラジオを聞いたりするためのソフトウェア
- ギガ ポケット Giga Pocket *
  本機で映像を録画したり、編集したりするためのソフトウェア
- ディーブイゲート DVgate
  動画／静止画編集用にデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- ナビン ユー Navin' You
  本機で地図を見たり、ルートの検索などが行えるソフトウェア
- スマート キャプチャー Smart Capture
  デジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア
- ムービーシェイカー MovieShaker
  本機に取り込んだ動画を編集するためのソフトウェア

*「Media Bar」と「Giga Pocket」ソフトウェアは、紙の取扱説明書も付属しています。

その他のマニュアル

❑ 付属ソフトウェアの説明書

ソニー製以外のソフトウェアの使いかたを説明しています。

❑ 「Microsoft® Windows® 2000 Professional」クイックスタートガイド

Windows 2000の基本的な使いかたを説明しています。

❑ VAIOサービス・サポートのご案内

本機を使っていてトラブルが発生したときの対処方法や、本機が故障したときなどのお問い合わせ先、サービス／サポートの内容について説明しています。

オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）

本機のオンラインマニュアルを見るには

本機のオンラインマニュアルは、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使って表示します。

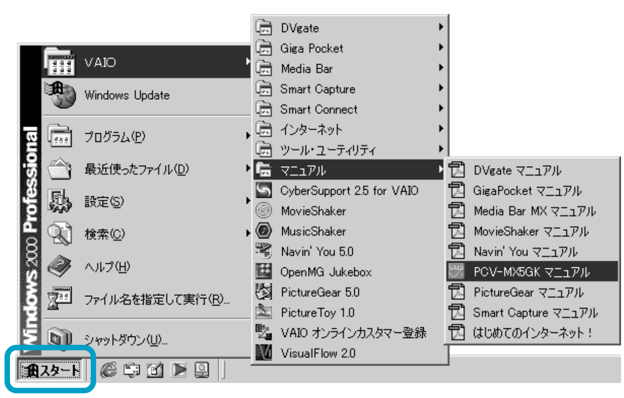
ご注意

このマニュアルは必ず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使って表示させてください。

本機のオンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で以下のように操作します。

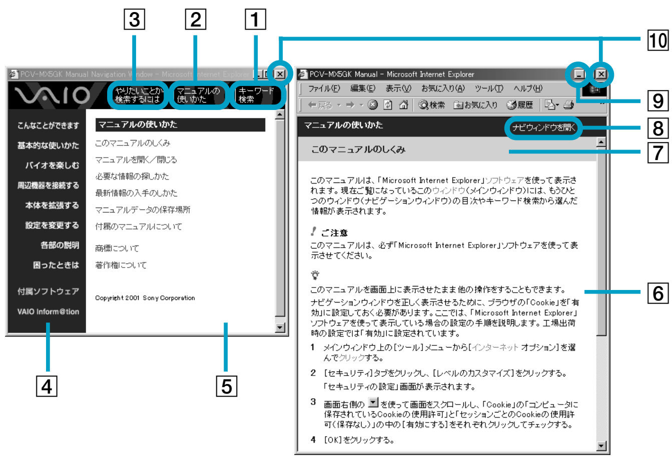
デスクトップ画面上の をダブルクリックするか、デスクトップ画面左下の をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］から［PCV-MX5GK マニュアル］をクリックする。

本機のオンラインマニュアルが表示されます。



本機オンラインマニュアルの画面の見かた

本機のオンラインマニュアルを開くと、ナビゲーションウィンドウとメインウィンドウの2つのウィンドウが開きます。
ナビゲーションウィンドウには目次が表示され、各項目の詳細がメインウィンドウに表示されます。



ナビゲーションウィンドウ　　メインウィンドウ

1 **キーワードから説明を探したいときにクリックします。詳しくは、「キーワードを入力して探す」（67ページ）をご覧ください。**

2 **ここをクリックすると、5 に「マニュアルの使いかた」のトピック一覧が表示されます。**

3 **ここをクリックすると、5に「やりたいことから検索するには」のトピックタイトルが表示されます。**

4 **それぞれの章タイトルをクリックすると、その章タイトルに含まれているトピックタイトルが 5 に表示されます。**

5 **トピック一覧が表示されます。表示されたトピックタイトルをクリックするとメインウィンドウに操作手順などの説明が表示されます。**

6 **メインウィンドウ上に表示される以下の項目をクリックすると、クリックした項目の詳しい説明や、関連項目が表示されます。**

- ページをスクロールさせたいときは、画面右下の ▼ をクリックします。
- ページの冒頭に見出しが表示されているときは、見たい内容をクリックすると、その説明箇所が表示されます。
- 本文中の【詳細】をクリックすると、さらに詳しい説明のあるページが表示されます。
- ［ここにも注目］のトピックタイトルをクリックすると、関連する項目のあるページが表示されます。
- 本文中、緑色で表示されている言葉（単語）をクリックすると、その言葉の用語解説のページが表示されます。

次のページへつづく

7 トピックタイトルが表示されます。

8 ナビゲーションウィンドウを閉じている場合にここをクリックすると、ナビゲーションウィンドウが再び表示されます。

9 ここをクリックするとウィンドウが最小化されます。ウィンドウを隠しておきたいときにクリックします。タスクバーのアイコンをクリックすればウィンドウは元の大きさに戻ります。

10 ここをクリックするとウィンドウを閉じることができます。
マニュアルを読み終わったら、ここをクリックしてください。

ちょっと一言

マニュアルを開くと2つのウィンドウが開きますが、必要に応じてどちらか片方のウィンドウを閉じることもできます。

- ナビゲーションウィンドウが閉じているときは、メインウィンドウ上の［ナビウィンドウを開く］をクリックします。
- メインウィンドウが閉じているときは、ナビゲーションウィンドウの目次やキーワード検索から、表示したい情報の項目を選んでクリックします。

ご注意

メインウィンドウで他のWebページを表示すると、ナビゲーションウィンドウで目次やキーワードを選んでもメインウィンドウに表示されなくなります。この場合は、1度メインウィンドウを閉じてから、再びナビゲーションウィンドウで目次やキーワドを選び直して、メインウィンドウを表示させてください。

必要な情報の探しかた

□ 目次から探す

1 **ナビゲーションウィンドウ左側から、章タイトルをクリックする。**

クリックした章に含まれるトピックタイトルがナビゲーションウィンドウ右側に表示されます。

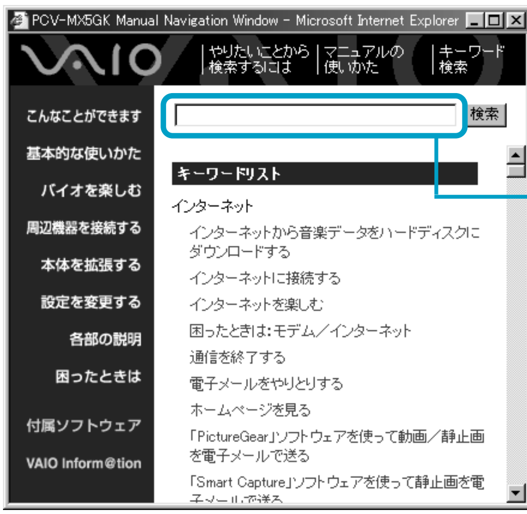
2 **説明を読みたいトピックタイトルをクリックする。**

トピックタイトルの最後に ▶ があるものは、クリックするとさらに詳しいトピックタイトルが表示されます。
クリックしたトピックの情報がメインウィンドウに表示されます。

□ キーワードを入力して探す

1 **ナビゲーションウィンドウ上部の［キーワード検索］をクリックする。**

キーワードの入力欄が表示されます。



ここにキーワードを入力します。

2 **キーワードを入力して、［検索］をクリックする。**

入力したキーワードを含む項目が表示されます。
キーワードリストを表示したいときは、［全キーワードを表示する］をクリックします。
該当するキーワードがない場合は、「キーワードが見つかりません」と表示されます。

3 **表示したいキーワードを選んでクリックする。**

選んだキーワードの解説がメインウィンドウに表示されます。

次のページへつづく

オンラインマニュアルの使いかた（画面上の操作説明）（つづき）

□ キーワードリストから探す

1

ナビゲーションウィンドウ上部の キーワード検索 をクリックする。

キーワードリストが表示されます。

2

キーワードリストから表示したい項目を選んでクリックする。

選んだキーワードの解説がメインウィンドウに表示されます。

ご注意

- 英単語のキーワードを入力するときは、半角文字で入力してください。
- キーワードリストの中で黒字で表示されている項目は、キーワード検索の対象には含まれません。
  また、黒字で表示されている項目を選択して表示することはできません。

便利な使いかた

本機のオンラインマニュアルを表示しているブラウザの機能を使って、より便利に使いこなすことができます。

- 前のページに戻るには
  メインウィンドウ上の ⇦戻る をクリックします。
- 元のページに戻るには
  メインウィンドウ上の ⇨ をクリックします。
- 見ている画面を印刷するには
  ［ファイル］メニューから［印刷］を選んでクリックし、プリンタの設定を確認して 印刷(P) をクリックします。
- 章ごとに印刷するには
  章の内容を一度に印刷することができます。
  ナビゲーションウィンドウの［マニュアルの使いかた］をクリックして［必要な情報の探しかた］を選び、メインウィンドウの［便利な使いかた］をクリックすると、章タイトルの一覧が表示されるので、印刷したい章タイトルをクリックします。
  印刷するには、印刷したい章をメインウィンドウに表示させてから、［ファイル］メニューの［印刷］を選び、［オプション］タブをクリックし、［リンクドキュメントをすべて印刷する］の ☐ をクリックして ☑ にし 印刷(P) をクリックして印刷してください。

マニュアルデータの保存場所

オンラインマニュアルのデータは、「C:￥Program Files￥sony￥Manual￥」フォルダに保存されています。誤ってこのフォルダを消去してしまわないようにご注意ください。

付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには

付属ソフトウェアのオンラインマニュアルを見るには、「Windows 2000を準備する」（47ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。ここでは、「DVgate」ソフトウェアのオンラインマニュアルの内容を表示させてみます。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［マニュアル］を選び、［DVgate マニュアル］をクリックする。

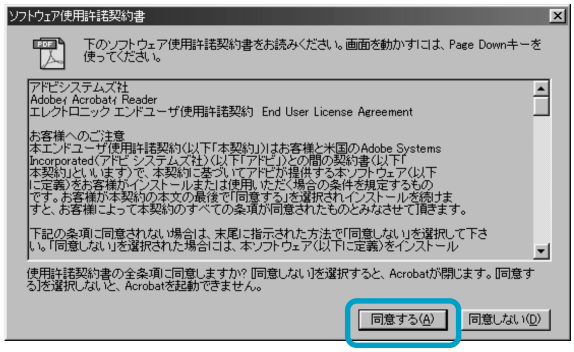


本機に付属の「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動し、「DVgate」ソフトウェアのオンラインマニュアルが表示されます。

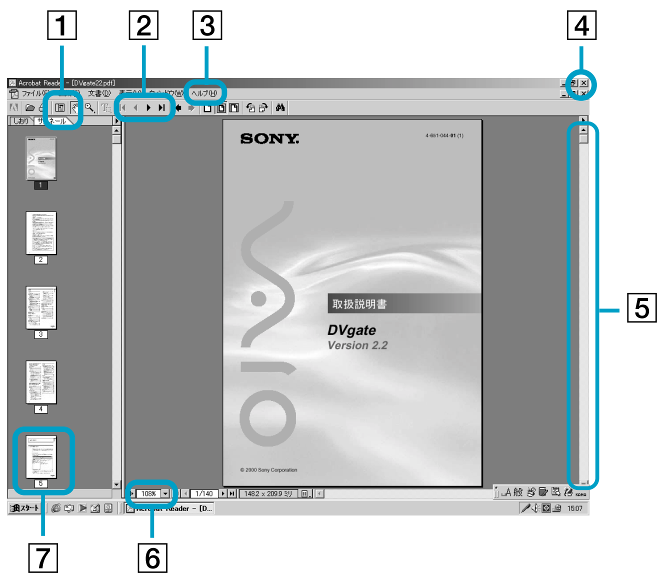
次のページへつづく

「Adobe Acrobat Reader」を初めて起動したときは

「ソフトウェア使用許諾契約書」が表示されますので、契約書の内容を読み、
[同意する(A)] をクリックしてください。



オンラインマニュアルの見かた



1 **サムネール（縮小表示）やしおりを見たいときはここをクリックしてから、［サムネール］または［しおり］タブをクリックします。**

2 **クリックしてページをめくります。**

3 **クリックしてヘルプを表示します。**

4 **クリックするとオンラインマニュアルを終了します。**

5 **クリックしてページをめくります。**

6 **クリックして表示の大きさを変更します。**

7 **ダブルクリックしてページを表示します。**

操作について詳しくは、「Adobe Acrobat Reader」画面上部の [ヘルプ(H)] をクリックしてヘルプをご覧ください。

Windows 2000のヘルプの使いかた

Windows 2000の操作のしかたや設定の変更についての情報を検索できます。

Windows 2000のヘルプを見るには

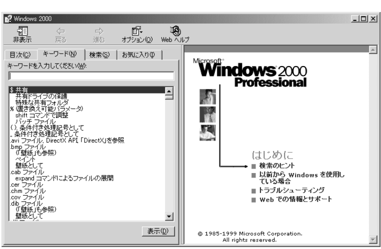
Windows 2000のヘルプを見るには本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはWindows 2000やソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする。

ヘルプが表示されます。



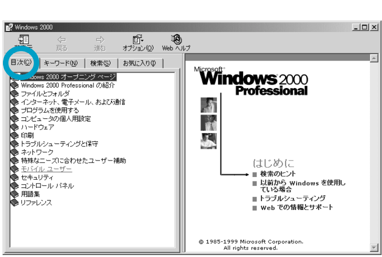
ヘルプの見かた

表示される「目次」、「キーワード」、「検索」のいずれかのタブをクリックして、知りたい情報を検索します。

「目次」で検索する

ヘルプの目次を通じて、知りたい情報を参照できます。

「目次」で検索するには、［目次］タブをクリックし、表示される項目にある をクリックして知りたい情報を表示させます。



次のページへつづく

「キーワード」で検索する

入力した語句に該当する項目を表示させます。
「キーワード」で検索するには、［キーワード］タブをクリックし、表示される入力欄に知りたい情報についてのキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。



「検索」で検索する

特定の語句が含まれている項目について幅広く検索できます。
また、複数の語句を組み合わせることにより、より効率良く検索することもできます。
「検索」で検索するには、［検索］タブをクリックし、表示される入力欄にキーワードを入力し、キーボードの Enter（エンター）キーを押します。



各ソフトウェアのヘルプを見る

本機に付属しているソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書やオンラインマニュアルをご覧ください。
本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」には、ソフトウェアの使いかたがわからなくなったときのために、各ソフトウェアにつき「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

「サイバーサポート」ソフトウェアの使いかた

本機には、「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」という検索ソフトウェアが付属しています。このソフトウェアを使うと、自分のやりたいことやトラブルの内容を入力するだけで、その操作方法や解決方法を知ることができます。

ちょっと一言

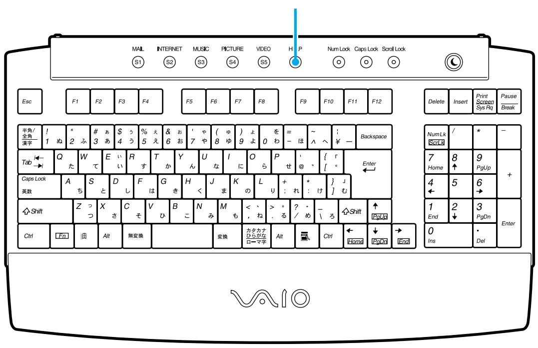
「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアは、本機オンラインマニュアルや本機に付属のソフトウェアのオンラインマニュアル、Windows 2000のヘルプ、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから解決方法を検索します。

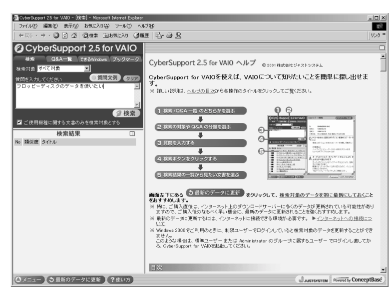
「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動するには

キーボードの Ⓢ6 キーを押す。

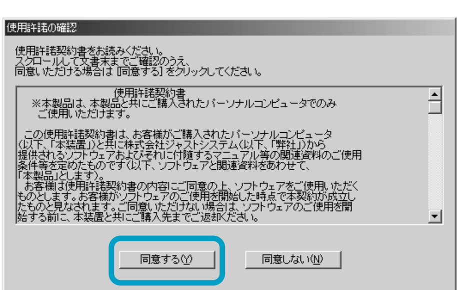
「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアが起動します。

ここを押す。



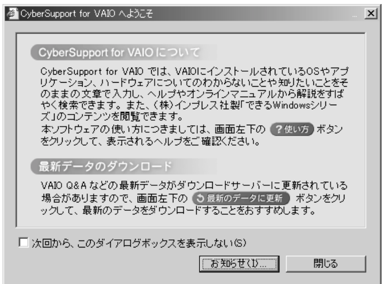


「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを初めて起動したときは、「使用許諾の確認」画面が表示されますので、内容を読み 同意する(Y) をクリックしてください。



次のページへつづく

「CyberSupport for VAIOへようこそ」画面が表示されます。



「次回からこのダイアログボックスを表示しない」の ☐ をクリックして ☑ にし、 閉じる をクリックしてください。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

ヘルプとは

「ヘルプ」とはソフトウェアやWindows 2000などの操作がわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して、表示する機能のことです。

ちょっと一言

VAIOカスタマーリンクのホームページでは、製品出荷後の最新情報を提供しています。VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」ソフトウェアで検索できる情報を更新してください。

更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」ソフトウェアの画面左下の 最新のデータに更新 をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますので、ご注意ください。

操作について詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。また、この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

この章では、オンラインでカスタマー登録する手順とインターネット接続サービスへのオンライン入会手順を説明します。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマーご登録は必ず行ってください。
ここでは、まずオンラインでカスタマーご登録をして、その後インターネット接続サービスにオンラインで入会する手順を説明します。

ご注意

- オンラインカスタマーご登録は、管理者権限（Administrators）のユーザーのみ行うことができます。
- 下記の手順を行うには、本機が一般電話回線につながっている必要があります。カスタマーご登録に使用する電話回線はISDN回線や携帯電話には対応していません。ISDN回線をお使いになる場合は、ターミナルアダプタのアナログポートと本機後面のLINEジャックをつないでください。つなぎかたについては「接続する／準備する」の手順6（38ページ）をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

インターネット接続サービスとは

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。インターネット接続サービスはインターネットとコンピュータとの間を仲介する役割を持っています。インターネット接続サービスを提供する会社と契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報を記述したホームページを簡単に見たり、電子メールを送受信したりできるようになります。

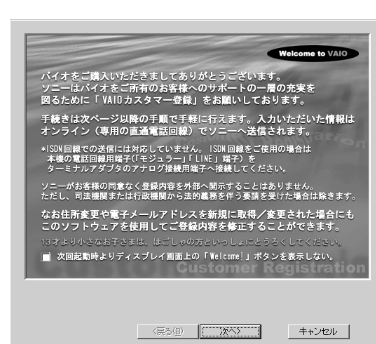
ちょっと一言

- カスタマーご登録は本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。
  住所など登録内容の変更を行うときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［VAIO］にポインタを合わせ、［VAIOオンラインカスタマー登録］をクリックして変更手続きを行ってください。
- 13才より小さなお子さまは、ほごしゃの方といっしょにとうろくしてください。

1 デスクトップ画面上の Welcome をクリックする。

「Welcome」の画面が表示されます。



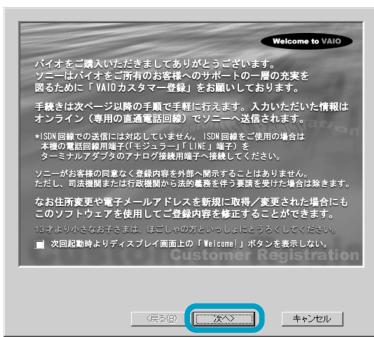


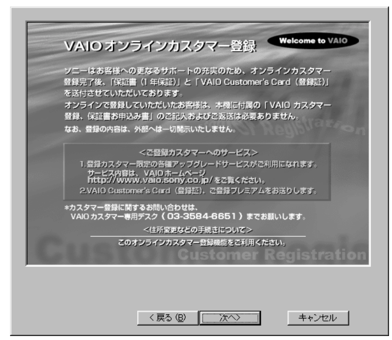
カスタマーご登録をしない、または後でするときは

［キャンセル］をクリックします。［キャンセル］をクリックすると「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。その後の手順について詳しくは手順3をご覧ください。

2 ［次へ>］をクリックする。

「VAIOオンラインカスタマー登録」画面が表示されます。



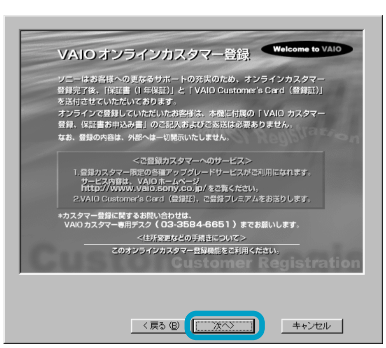


ちょっと一言

- 1つ前の画面が見たいときは［<戻る(B)］をクリックします。
- 「次回起動時よりディスプレイ画面上の「Welcome！」ボタンを表示しない。」の □ をクリックして ☑ にしてから［次へ］をクリックすると、デスクトップ画面上から  が消えます。

3 ［次へ>］をクリックする。

カスタマーご登録を開始します。画面の指示に従って操作してください。





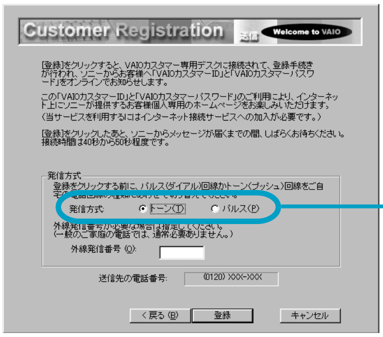
ちょっと一言

ご登録内容を変更するときは［<戻る(B)］をクリックし、変更したい画面まで戻り、入力し直します。

次のページへつづく

この画面が表示されたら

お使いの電話回線のダイヤル方法を確認し、発信方法を選びます。



お使いの電話回線のダイヤル方法を選ぶ。

トーン式ダイヤルとは：電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。
パルス式ダイヤルとは：ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。
お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTから送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。
電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）にお問い合わせください。

カスタマーご登録すると…

本機のカスタマーご登録をすると、正規のユーザーとして登録され、ご登録カスタマー専用の各種アップグレードサービスなどが受けられます。サービスの内容について詳しくは、インターネットに接続したあと、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。
また、本機に付属の保証書（未登録のお客様用）の保証期間はお買い上げ日から3か月ですが、ご登録後にVAIOカスタマー専用デスクから、お買い上げ日より1年間の保証書とVAIOカスタマー登録証をお送りします（すでに登録証をお持ちの方へは登録証は送付されません）。保証について詳しくは、「保証書とアフターサービス」（154ページ）をご覧ください。

カスタマーご登録に関するお問い合わせ先
VAIOカスタマー専用デスク　　電話番号：03-3584-6651

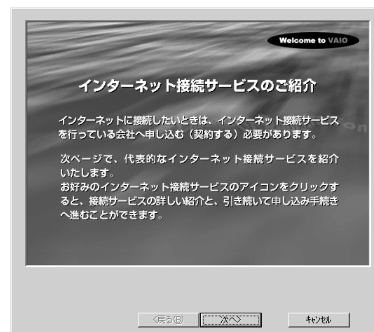
はがきでもご登録できます

付属の「VAIOカスタマー登録、保証書お申込書」に記入し投函することによってカスタマーご登録することもできます。

ちょっと一言

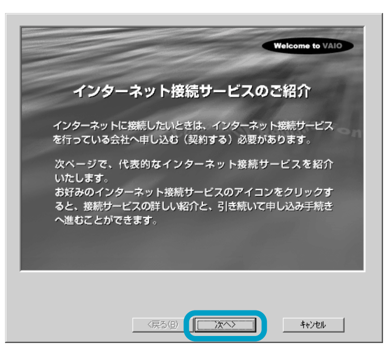
ご登録内容は、ソニーから外部へは一切開示致しません。

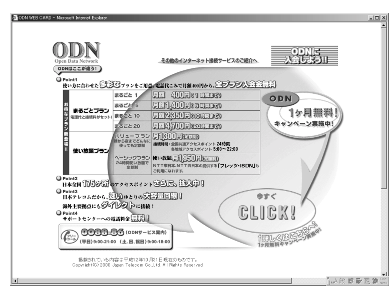
カスタマーご登録が終わると（または途中で［キャンセル］をクリックすると）、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。



4 ［次へ>］をクリックする。

インターネット接続サービス「ODN」の説明が表示されます。





入会手続きをしない、または後でするときは

［キャンセル］をクリックします。

5 ［ODNに入会しよう!!］をクリックする。

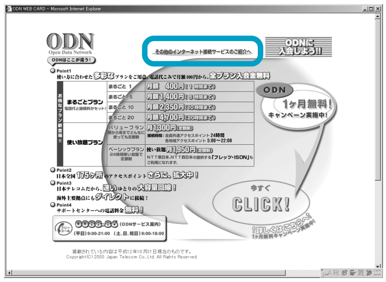
ODNへの入会手続きが始まります。
詳しくは、付属の説明書をご覧ください。

その他のインターネット接続サービスの情報を見たいときは

［その他のインターネット接続サービスのご紹介へ］をクリックします。
「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。

次のページへつづく

カスタマー登録する／インターネットに接続する（つづき）





6 お好みのインターネット接続サービスのアイコンをクリックする。

インターネット接続サービスに入会する手続きを開始します。
画面の指示に従って操作してください。

ご注意

ISDN回線をお使いになっているときは、ターミナルアダプタのアナログポートと本機後面のLINEジャックをつないでから入会手続きを行ってください。

ちょっと一言

一部のインターネット接続サービスでは、オンラインカスタマー登録をしてから入会手続きを行うと、住所や氏名などが流用されて自動登録されるため、入力の手間を省くことができます。
オンラインカスタマー登録をしなくても、インターネット接続サービスへの入会手続きをすることはできます。



お好みのインターネット接続サービスのアイコンをクリックする。

ご注意

一部のインターネット接続サービスでは、ユーザー権限による制限のため、入会手続きをするソフトウェアを起動できない場合があります。
詳しくは、本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」の各ソフトウェアの項をご覧ください。

インターネット接続サービスを提供する会社と契約後に、インターネット接続を手動で設定する、またはLAN（ネットワーク）を使って接続するときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右下の［こちらへ］をクリックします。
「インターネット接続ウィザード」画面が表示されるので、郵送されてきた資料の設定情報をご覧になり画面の指示に従って必要事項を入力してください。

入会手続きをしない、または後でするときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右上の ☒ をクリックします。

入会手続きが終わったら、インターネットに接続する準備をします。
さらに詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

基本的なオーディオ機能を使う

この章では、本機をオーディオモードで使う方法について説明します。

本機の動作モードについて

本機には2つの動作モードがあり、各モードで以下のようなことができます。
目的に合わせて、どちらかの動作モードを選んでお使いください。

PCモード

Windows 2000が起動し、すべての機能が使用可能な状態のことです。

このモードでできること

- Windows 2000を使って通常のコンピュータとしてお使いいただけます。
- キーボードを使ってMDの曲名を入力したり、マウス操作でMDを編集することができます。
- 「DVD Player」ソフトウェアを使ってDVDビデオを見ることができます。
- 「MX Stage」ソフトウェアを使って本機のDVD-ROMドライブやMDドライブの中のディスクや本機に接続した機器を操作するなど、オーディオモードでできることだけでなく、オーディオ機能をフルに活用いただけます。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビ番組やビデオを録画／再生できます。

電源を入／切するには…

「電源を入れる」（46ページ）をご覧ください。

操作のしかたは…

主にディスプレイ画面上で、マウスとキーボードを使って操作します。オーディオ機能のほとんどはオーディオ／DVD用リモコンを使って操作することもできます。

モードの見分けかたは…

PCモードのときは、ディスプレイ画面にWindows 2000のデスクトップが表示され、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモード

Windows 2000が起動していない状態、システムサスペンドモード、休止状態のいずれかのときに、本機のオーディオ機能の一部を簡単に使える状態のことです。

このモードでできること

- 音楽CDやMDの再生ができます。
- 音楽CDからMDへのダビングができます。
- FMラジオを聞いたり、FM文字放送を見ることができます。
- FMラジオをMDに録音することができます。
- 音楽を聞きながら眠ることができます。

電源を入／切するには…

「オーディオモードで電源を入れる」（次ページ）をご覧ください。

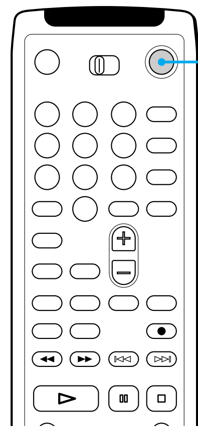
操作のしかたは…

主にオーディオ／DVD用リモコンまたは本機前面パネルのボタンと表示窓を使って操作します。

モードの見分けかたは…

オーディオモードのときは、ディスプレイ画面には何も表示されず、本機前面の表示窓が赤色に点灯しています。

オーディオモードで電源を入れる



本機の電源が切れている状態、システムサスペンドモード、休止状態のいずれかのときに、付属のオーディオ／DVD用リモコンを本機の ⓡ（リモコン受光部）に向け、オーディオ電源ボタンを押す。

本機の電源がオーディオモードで入り、表示窓が点灯します。
システムサスペンドモードおよび休止状態について詳しくは、本機オンラインマニュアルの「設定を変更する」内「省電力機能の設定を変更する」の項目をご覧ください。

本機前面パネルのボタンで電源を入れることもできます

本機の電源が切れている状態、システムサスペンドモード、休止状態のいずれかのときに、本機前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源が入ります。

ご注意

- 本機がシステムアイドルモードまたは休止状態以外のPCモードのとき、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押しても、オーディオモードへ切り換えることはできません。「電源を切る」（54ページ）の手順に従っていったん電源を切るか、システムサスペンドモードまたは休止状態に入ってから、上記の手順に従ってオーディオモードで電源を入れてください。
- オーディオモードで使えるさまざまな機能の一部は、事前にPCモードで設定をしておく必要があるため、本機を初めてお使いになるとき、それらの機能がすぐにはお使いいただけないことがあります。
- オーディオモードで本機の電源が入っているとき（デイリータイマーとタイマー録音時を除く）は、「Giga Pocket」ソフトウェアの予約録画は実行されません。この場合、本機前面の表示窓に、本機をPCモードで起動するように促すメッセージが表示されます。

オーディオモードで電源を切るには

オーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押します。

本機前面パネルのボタンでも電源を切れます

本機前面パネルのAUDIOボタンを押してもオーディオモードで電源を切れます。

オーディオ／DVD用リモコンを使う

音楽CDを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
再生中に曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
再生中に曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン＋を通常の再生に戻したいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押す（99曲まで）。 選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、⊂ または⊂1 が表示窓に表示されるまで押す。
順不同に再生する（シャッフル再生）（再生が停止しているときのみ有効）	再生モードボタンを、「SHUF」が表示窓に表示されるまで押す。

MDを再生する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「MD」にする。

こんなときは	操作のしかた
再生する	▷ 再生を押す。
止める	□ 停止を押す。
一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、続きを再生する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
曲を進める	▷▷▯ 次を押す。
曲を戻す	▯◁◁ 前を押す。
再生中に曲中の聞きたい部分を探す	◀◀ 選局／スキャン －または ▶▶ 選局／スキャン ＋を聞きたいところまで押し続ける。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
消音（ミュート）する	消音ボタンを押す。
再生する曲を選ぶ	数字ボタンで再生したい曲の番号を押す。10曲目以降を選ぶには、>10ボタンを押してから番号を押し、決定ボタンを押す。選んだ数字を取り消すときはキャンセルボタンを押す。
くり返し再生する（リピート再生）	再生モードボタンを、⊂ または⊂1 が表示窓に表示されるまで押す。

次のページへつづく

音楽CDをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「CD／DVD／MEDIA BAR」にする。

こんなときは	操作のしかた
音楽CDすべての曲をMDに録音する	● 録音または全曲ダビングボタンを押し、▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
音楽CDの中の1曲をMDに録音する	⏮ 前または⏭ 次ボタンで録音したい曲を選んでから1曲ダビングボタンを押し、▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
音量を調節する	音量＋／ーボタンを押す。

FMラジオをMDに録音する

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
録音する	● 録音を押す。
録音を止める	□ 停止を押す。
録音を一時停止する	▯▯ 一時停止を押す。
一時停止したあと、録音を再開する	▯▯ 一時停止または ▷ 再生を押す。
音量を調節する	音量＋／ーボタンを押す。

FMラジオを聞く

オーディオ／DVD用リモコンのファンクション切り換えスイッチを「FM」にする。

こんなときは	操作のしかた
前回受信したFM放送局を受信する	▷ 再生を押す。
周波数を0.1MHzずつ調整する（マニュアル選局）	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を短く押す。1回押すごとに0.1MHzずつ調整できる。
プリセット局を直接選んで受信する	受信したいプリセット局の番号の数字ボタン（1～8のいずれか）を押す。
プリセット局を探す	⏮ 前または⏭ 次を押す。
受信可能なFM放送局を探す	◀◀ 選局／スキャン －または▶▶ 選局／スキャン ＋を2秒以上押す。
音量を調節する	音量＋／－ボタンを押す。
スピーカーから聞こえる音声（ステレオ／モノラル）を切り換える	音声切換ボタンを、好みの音声が選択されるまで押す。
FMラジオをMDに録音する	●録音を押す。

スリープタイマーを設定する

音楽CDやMDの再生中、FMラジオの受信中に、オーディオ／DVD用リモコンのスリープボタンを希望の時間が表示されるまでくり返し押す。

次のページへつづく

前面パネルのボタンを使う

音楽CDを再生する

FC1ボタンを CD が前面パネルの画面に表示されるまで押す。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをFMラジオへ切り換える。再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／❚❚）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（⏮）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（⏭）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り換わります。 → （全曲リピート）→ 1（1曲リピート）→ SHUF* →（表示無し）→ *「SHUF」は再生が停止中のみ
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 → 曲番と再生中の曲の演奏経過時間 → 曲番と再生中の曲の残り時間 → 残りの曲数とディスク全体の残り時間 → スペクトルアナライザ →

ボタン／つまみ	機能
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	停止中に押すと、音楽CDの全曲をMDへ録音する。 再生中、または一時停止中に押すと、現在再生または一時停止中の曲のみをMDへ録音する。

MDを再生する

FC1ボタンを M D が前面パネルの画面に表示されるまで押す。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをOPT INへ切り換える。 各種設定メニューの「OPT IN」で「OPT IN FUNCTION」を「OFF」に設定したときはCDに切り換える。 再生中に押すと、再生が停止する。
FC2（■）	再生を停止する。
FC3（►／❚❚）	再生する。再生中に押すと、一時停止する。
FC4（❙◀◀）	短く押すと、1曲ごとに前の曲に戻る。 長く押すと、押している間曲を早戻しする。
FC5（▶▶❙）	短く押すと、1曲ごとに次の曲へとぶ。 長く押すと、押している間曲を早送りする。
FC6（P.MODE）	押すごとに再生モードが以下のように切り換わります。 → ⮌（全曲リピート）→ ⮌1（1曲リピート）→ SHUF* →（表示無し）→ *「SHUF」は再生が停止中のみ

次のページへつづく

ボタン／つまみ	機能
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **再生中／再生一時停止中** ↓ **曲番と再生中の曲の演奏経過時間** ↓ **曲番と再生中の曲の残り時間** ↓ **残りの曲数とディスク全体の残り時間** ↓ **ディスク名、曲名** ↓ **スペクトルアナライザ** （最初に戻る）
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

FMラジオを聞く

FC1ボタンを前面パネルの画面に F M が表示されるまで押す。

□ プリセット局を受信するとき

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（FUNC）	ファンクションをMDへ切り換える。
FC2（PRESET –）	前のプリセット局を受信する。
FC3（PRESET +）	次のプリセット局を受信する。
FC4（DIRECT）	プリセット局を直接選択するモードになる。
FC5（MANUAL）	FM放送局の周波数をマニュアルで調整するモードになる。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り換わります。 STEREO ←→ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **プリセット番号、FM放送局名、周波数** ↓ **プリセット番号、周波数** ↓ **スペクトルアナライザ**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。

次のページへつづく

□ プリセット局を直接選択するとき

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態に戻る。
FC2～F5（PR1～PR8）	押したプリセット局を受信する。
FC6 （NEXT →／TOP →）	「NEXT →」を押すと、表示窓の画面を次ページへ送る。 「TOP →」を押すと、表示窓の画面を前ページへ戻す。
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **プリセット番号とプリセット局名のリスト表示** ↕ **プリセット番号と周波数のリスト表示**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。

ちょっと一言

何も操作しないで15秒たつと自動的にプリセット局受信時の状態に戻ります。

□ マニュアル選局時

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局受信時の状態に戻る。
FC2（SCAN –）	周波数の低い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC3（SCAN +）	周波数の高い方向へ受信可能なFM放送局を探す。
FC4（STEP –）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を減らす。
FC5（STEP +）	1回押すごとに0.1MHzずつ周波数を増やす。
FC6（ST/MN）	押すごとにスピーカーから聞こえる音声が次のように切り換わります。 STEREO ←→ MONO
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **周波数 ←→ スペクトルアナライザ**
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送の内容を表示する（受信しているFM放送局がFM文字放送を実施している場合のみ）。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
REC	FM放送を録音する。

次のページへつづく

FM文字放送を見る

FM文字放送を実施しているFM放送局を受信中に、本機前面のFM DATAボタンを押す。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	プリセット局を受信する。
FC2（MENU／RETURN）	番組情報の受信時は、文字放送メニューを表示する。 独立情報の文字放送メニュー時は、先頭のメニューに戻る。
FC3（–）	ページを戻す。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC4（+）	ページを送る。文字放送メニュー時は、メニュー項目を選ぶときに押す。
FC5（PAUSE／ENTER）	ページの自動送りを一時停止する。もう一度押すと、自動送りを再開する。 文字放送メニュー時は、選んだメニュー項目を決定するときに押す。
FM DATA	押すと、FMラジオ受信状態に戻る。
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
REC	FMラジオ放送の録音状態になる。

音楽CDをMDに録音する

FC1ボタンを C D が前面パネルの画面に表示されるまで押す。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	停止中に押すと、音楽CDの再生へ戻る。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。
FC4（● ALL）	音楽CDの全曲を録音するモードへ移行する。
FC5（● IT）	音楽CDの中の1曲を録音するモードに移行する。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り換わります。 STEREO ←→ MONO

次のページへつづく

ボタン／つまみ	機能
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 **録音中、録音一時停止中** ↓ **アニメーション画面** ↓ CD**の曲番と**CD**の曲の演奏経過時間** ↓ CD**の残り曲数と**CD**の残り時間*** ↓ MD**の曲番と**MD**の残り時間** ↓ **スペクトルアナライザ** （最初に戻る） *音楽CDの全曲録音中。1曲録音中は、CDの曲番とCDの曲の残り時間が表示される。 **停止中** ↓ **アニメーション画面** ↓ CD**の全曲数と**CD**の全時間** ↓ MD**の全曲数と**MD**の残り時間** （最初に戻る）
MENU	各種設定をするメニューを表示する。
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。

FMラジオをMDに録音する

FC1ボタンを前面パネルの画面に F M が表示されるまで押す。

ボタン／つまみ	機能
マルチファンクションボタン	
FC1（EXIT）	停止中に押すと、FMラジオ放送へ戻る（録音状態を解除する）。
FC2（■）	録音を停止する。
FC3（❚❚）	録音一時停止中に押すと、録音を開始する。 録音中に押すと、録音が一時停止状態になる。
FC4（●）	停止中に押すと、録音待機状態になる。
FC6（ST/MN）	押すごとにMDの録音モードが次のように切り換わります。 STEREO ←→ MONO（**録音中に切り換えることはできません**）
DISPLAY	押すごとに表示窓に表示する内容が以下のように切り換わります。 ↓ **アニメーション画面** ↓ **プリセット番号、FM放送局名、周波数** ↓ **プリセット番号、周波数** ↓ **MDの曲番、MDの残り時間** ↓ **スペクトルアナライザ**
VOLUMEつまみ	右へ回すと音量が大きく、左へ回すと音量が小さくなる。
FM DATA	押すと、表示窓にFM文字放送（ライブ）を表示する。

スリープタイマーを設定する

音楽CDやMDの再生中、FMラジオの受信中に、MENUボタンを押し、「MENU1」を表示させ、FC3（SLEEP）ボタンを押して時間を設定する。

表示窓メッセージ一覧

本機を使用中、状況によって英語のメッセージが本機前面の表示窓に表示されます。意味は以下の通りです。

音楽CD

メッセージ	原因／対策
CD EJECT	→ 音楽CDを排出中。
DISC ERR	→ オーディオモードのときにDVDビデオなど、オーディオモードでは再生できないディスクを入れた。
NO DISC	→ ディスクが挿入されていない。
TOC READING	→ 音楽CDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。

MD

メッセージ	原因／対策
AUTO CUT	→ 録音中、無音状態が30秒以上続いたため、オートカット機能が働き、無音部分（曲間）を約3秒に短縮したあと、録音一時停止状態になった。録音を始めたいところでオーディオ／DVD用リモコンの▷再生または▯▯一時停止を押し、録音を再開する。 曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除して録音し直す。
BLANK MD	→ 挿入されたMDには何も録音されていない、またはMD編集のErase（イレース）機能を使って録音内容がすべて削除されている。

メッセージ	原因／対策
CAN'T COPY	→ CD-ROMなどのフォーマットのディスクをMDに録音しようとしている。ディスクを取り出し、電源を入れ直す。 → 録音しようとした音源が市販の音楽ソフトのコピーになっている。またはCD-Rを録音しようとしている。シリアルコピーマネージメントシステムにより、コピーできない。また、CD-Rは録音できない。
DISC FULL	→ 録音可能時間が残り少なく、録音できない。新しいMDと交換する。
MD＜CD	→ 音楽CDをMDに録音するとき、MDの残りの時間が音楽CDの録音時間より短い。音楽CDを録音するのに充分な空きがあるMDと交換する。
MD EJECT	→ MDを排出中。
NO MD	→ MDが挿入されていない。
NO TRACK	→ MDのディスク名は入っているが、曲が入っていない。曲を入れる。
PROTECTED	→ MDが誤消去防止状態になっている。MDを取り出し、録音可能状態にする。
SMART SPACE	→ 録音中、3秒以上、30秒未満の無音状態が続いたため、スマートスペース機能が働き、無音部分が約3秒に短縮された。曲間をつめたくないときは、スマートスペース機能を解除する。
TOC READING	→ MDの情報を読み取っている。表示が消えるまでしばらくお待ちください。 表示が消えるまで、本機に振動を与えないでください。正しく情報が読み取れなくなります。
UNLOCKED	→ 本機後面のOPTICAL INコネクタにつないだMDデッキなどのデジタル機器から音楽データが入ってこない。

困ったときは

この章では、本機を操作していて困ったことやトラブルの解決方法を説明します。

トラブルを解決するには

この説明書を読みながら操作していて困ったときは、あわてず下記の手順に従ってください。また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 トラブルが発生したときは104ページからの説明または、本機オンラインマニュアルの「困ったときは」内の項目をご覧ください。

2 キーボードの Ⓢ6 キーを押し、付属の「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアを起動させ、トラブルの内容を入力し、検索してみてください。

「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」の「「サイバーサポート」ソフトウェアを使う」をご覧ください。

3 VAIOカスタマーリンクのホームページを確認してください。

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。

VAIOカスタマーリンクホームページ http://vcl.vaio.sony.co.jp/

4 VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる。

以下のお問い合わせ先にご相談ください。

VAIOカスタマーリンク

電話番号

（0466）30-3000

受付時間

平日	10時～20時	一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。
土、日、祝日	10時～17時	

（年末年始は除く）

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- 付属のソフトウェアについては、本機オンラインマニュアルの「付属ソフトウェア」の項目をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。
- 本機のご購入日から90日間無料。それ以後は、有償でのサポートメニュー「サポートプラス」をご用意しております。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のVAIO**カスタマーID**
② 本機の**型名**：PCV-MX5GK
③ 本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④ カスタマー登録していただいたときの**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

ちょっと一言

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤ 本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥ 表示された**エラーメッセージ**
⑦ 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧ トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨ トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩ その他お気づきの点

修理の場合は

⑪ VAIOカルテ（修理をお申込みになるとき）
⑫ 筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（54ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

トラブルの内容	参照ページ
電源	105ページ
ディスプレイ	107ページ
マウス	108ページ
フロッピーディスク	109ページ
ハードディスク	110ページ
文字入力	110ページ
CD-ROM	112ページ
DVD-ROM	112ページ
i.LINK	113ページ
モデム／インターネット	113ページ
エラーメッセージ	115ページ
音	116ページ
タイマー	119ページ
リモコン	119ページ
再生	120ページ
録音・編集	123ページ
FMラジオ	123ページ
録画	125ページ
その他	125ページ

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入っているかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

→ 表示窓に「TIMER」と表示されていないか確認する。表示されていたら、本機はタイマーが設定された状態です。タイマーが設定された状態で本機の電源が切られているときは、オーディオモードで本機の電源を入れることはできません。前面パネルのFC6（TIMER）ボタンを押してタイマー設定を解除してから本機の電源を入れてください。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windows 2000は、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認してください。

→ 「電源を切る」（54ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［シャットダウン］を選んでも「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「Windowsのシャットダウン」画面を表示させ、「シャットダウン」をクリックして選び、［OK］をクリックしてください。

Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「Windowsのシャットダウン」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「Windowsのセキュリティ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックしてください。

次のページへつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safeモードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（54ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

本機がスタンバイモードへ移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動してください。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（135ページ）をご覧ください。

ディスプレイ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 本機後面のMONITORコネクタとDVIコネクタの両方にディスプレイをつないでいないか確認する。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画像の端が欠ける。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

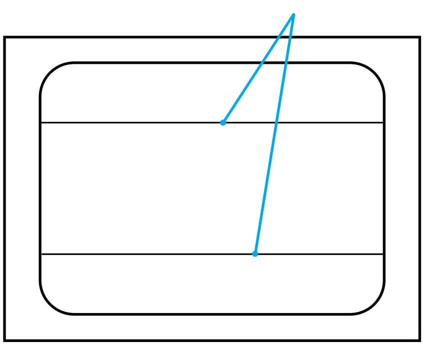
DVDビデオの映像がテレビ画面に表示されない。

→ 本機オンラインマニュアルの「設定を変更する」内「DVDの設定を変更する」の「映像／音声出力を切り換える」をご覧ください。

次のページへつづく

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑える働きをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイ HMD-A200などのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。



テレビの映像が映らない。

→ 本機とアンテナを正しく接続する（32ページ）。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する。

→ キーを押して「スタート」メニューを表示させ、キーまたは キーを押して［シャットダウン］を選んで、（エンター）キーを押す。そのあと キーまたは キーで［再起動する］を選び、（エンター）キーを押して再起動する。

→ キーを使って電源を切れない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押して、本機を再起動する。

→ ディスクを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、Ctrl（コントロール）キーとAlt（オルト）キーを押しながらDelete（デリート）キーを押し、ディスクを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrl（コントロール）キーとAlt（オルト）キー、Delete（デリート）キーを同時に押して、本機を再起動する。

→ 上記の操作を行っても本機を再起動できない場合は、本機前面の⏻（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを開いている。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ 本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「フロッピーディスクを使う」の「フロッピーディスクを入れる／取り出す」をご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。

次のページへつづく

主なトラブルとその解決方法（つづき）

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（135ページ）をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（135ページ）をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ DVD-ROMドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「文字を入力する」の「日本語入力のまえに」をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまで （スペース）キーを押すか、Shift（シフト）キーを押しながら ^ キーを押します。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ^ キーを押します。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない（タイトルバー（ウィンドウの上の部分）は薄い色になります）。文字を入力したいソフトウェアのウィンドウのどこかをクリックするか、Alt（オルト）キーと Tab（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（タイトルバーが青い色になります）。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lockランプが消灯していないか確認してください。消灯している場合は、NumLk ScrLk（ナム・ロック）キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ 1 **「コントロールパネル」ウィンドウの中の （システム）をダブルクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 **［ハードウェア］タブをクリックする。**

3 **［デバイスマネージャ］をクリックする。**

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 **キーボードの項目をクリックする。**

「日本語 PS／2キーボード（106／109キー Ctrl＋英数）」と表示されます。

上記と異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

次のページへつづく

CD-ROM

CD-ROMが読み込めない。

→ CD-ROMをDVD-ROMドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくDVD-ROMドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

→ 使用できないディスクの可能性があります。本機オンラインマニュアルの「VAIO Inform@tion」内「知っ得情報」の「使用できるディスク」をご覧ください。

CD-RWを使用して作成した音楽CDがCDプレーヤーで再生できない。

→ CD-RWを使用して作成した音楽CDはCD-RWに対応しているドライブでのみ再生できます。

CD-ROMが取り出せない。

→ CD-ROMはOPEN／CLOSEボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。

DVD-ROM

DVD-ROMが読み込めない。

→ DVD-ROMをDVD-ROMドライブに入れてください。

→ DVD-ROMが正しくDVD-ROMドライブに入っているか確認する。DVD-ROMは再生したい面を下にして入れます。

→ DVD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう一度再生してみる。

→ 使用できないディスクの可能性があります。本機オンラインマニュアルの「VAIO Inform@tion」内「知っ得情報」の「使用できるディスク」をご覧ください。

DVD-ROMが取り出せない。

→ DVD-ROMはOPEN／CLOSEボタンを押しても状態によっては取り出せないことがあります。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate Motion」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画をくり返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。

モデム／インターネット

内蔵モデム／インターネット接続のトラブルについて詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」の「困ったときは」をご覧ください。

本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

→ 本機やターミナルアダプタが電話回線に正しく接続されているか確認する。

→ お使いの電話回線が、PBXなどの交換機や他の通信機器を経由していないか確認する。

→ お使いの内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認する。

→ 「オンラインカスタマー登録」ソフトウェアの使用時にISDN回線に接続していないか確認する。

→ 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードを使う。

→ 本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへテレホンコードがしっかりと奥まで接続されているか確認する。

次のページへつづく

→ 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげない。

本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

→ ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認する。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号を確認する。

→ 発信音を待ってダイヤルする設定になっている場合は設定を解除する。

→ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかります。3分以上時間をおいてからかけ直してください。

モデムやターミナルアダプタは発信しているが接続できない。

→ 電話回線の状態が良くなかったり、電話回線が混み合っている場合は、時間帯をずらして再度接続してみる。

→ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の回線の状態が良くなかったり、回線が混み合っているか接続先のモデムが不調な場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみる。

→ 「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など他の電話番号に接続できるか試す。

→ お使いのソフトウェアの設定を確認する。

→ 内蔵モデムの通信速度を遅くしてから接続してみる。

ユーザー名やパスワードなどがプロバイダのサーバーによって認証されない。

→ ユーザー名やパスワードが正しく設定されているか確認する。

→ ユーザー名やパスワードを忘れた場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認するか、プロバイダにお問い合わせください。

→ 別冊の「はじめてのインターネット！」の「チェックシートを作成する」で作成したチェックシートを見て、ダイヤルアップネットワークの設定内容が正しいか確認する。

→ ダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから接続してみる。

ウェブブラウザ（「Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

→ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定が正しいか確認する。

→ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLが正しいか確認する。

電子メールをやりとりできない。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。

上記の項目を確認しても接続できないときは、接続しようとしているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

エラーメッセージ

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

「このディスクは書き込み保護されています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。

電源を入れた後、「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing Press any key to restart.」というメッセージが出て、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押し、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出る。

→ 106ページをご覧ください。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ 106ページをご覧ください。

「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

次のページへつづく

「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。BIOSをお買い上げ時の設定に戻す。
BIOSをお買い上げ時の設定に戻す方法について詳しくは、141ページをご覧ください。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、PDF形式のファイルを開こうとすると、「Could not find Acrobat External Window Handler.」、「An internal error has occurred.」というメッセージが表示され、PDF形式のファイルを開くことができない。

→ 125ページをご覧ください。

「Windows 2000 CD-ROMのラベルの付いたディスクを挿入して［OK］をクリックしてください」と表示された。

→ 本機の設定を変更したあとに表示されることがあります。以下の手順に従って操作してください。付属のリカバリ CDを挿入しないでください。

1 **メッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。**
「ファイルのコピー」画面が表示されます。

2 **「ファイルのコピー元」に「c:¥i386」と入力して［OK］をクリックする。**
必要なファイルがコピーされます。

音

音が出ない。

→ 音量が最小になっている。本機前面のVOLUMEつまみを右へ回して音量を上げる。

→ ヘッドホン（別売り）を差したままになっている。ヘッドホンをHEADPHONESコネクタから抜く。

→ スピーカーコードが付属のスピーカーと本機にしっかり接続されていないか、スピーカーコードのビニール部分がSPEAKERコネクタに食い込んでいる。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっている。デスクトップ画面右下のタスクトレイの (スピーカーアイコン) をダブルクリックして表示される画面で音量を上げる。

→ MDを再生しても音が出ない場合は、以下の操作を行ってみてください。

1 **本機がPCモードであることを確認する。**

2 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［ボリュームコントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3 **MDの「ミュート」のチェックをはずす。外付けのアンプなどを接続している場合は、Lineの「ミュート」をチェックする。**

4 **画面右上の (閉じるボタン) をクリックする。**

→ MDを再生しても音が出ない場合は、光デジタル出力の設定を確認する。

→ DVDビデオを再生しても音が出ない場合は、「DVD設定」画面で「ドルビーデジタル」が選ばれていないか確認する。

音がおかしい。

→ PCモードで音がゆがむときは、以下の操作を行ってみてください。

1 **外付けのアンプなどをつないでいるときは、ボリュームを最小にする。**

2 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［プログラム］にポインタを合わせ、［ボリューム復帰］をクリックする。**
「ボリューム復帰」画面が表示されます。

3 OK **をクリックする。**
再生音量の設定が購入時の状態になります。

4 **デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［ボリュームコントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

5 **「Volume Control」画面左上の「オプション」をクリックし、「プロパティ」をクリックする。**
「プロパティ」画面が表示されます。

次のページへつづく

6　**「音量の調整」にある「録音」の をクリックして にして選び、OK をクリックする。**

7　**「**Stereo Out**」の「音量」スライダを一番下までドラッグする。**

8　**画面右上の （閉じるボタン）をクリックする。**

→　スピーカーコードの＋／－が正しく接続されていない。スピーカーコードを正しく接続し直す。

→　左右のスピーカーの高さ、距離が極端に違う。高さ、距離をなるべく対称にする。

→　1つのスピーカーコネクタに2台以上のスピーカーをつないでいる。1つのスピーカーコネクタにつなぐのは、スピーカー1台にする。

→　外付けのアンプなどにLINE IN、LINE OUTコネクタの両方をつないでいる場合は、以下の操作を行ってみてください。

1　**本機が**PC**モードであることを確認する。**

2　**デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［ボリュームコントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3　Line**の「ミュート」をチェックする。**

4　**画面右上の （閉じるボタン）をクリックする。**

雑音が多い。

→　テレビやビデオなど、ノイズを出す機器の近くに設置している。離れたところに設置し直す。

→　冷蔵庫など、ノイズを出す機器と同じ電源コンセントにつないでいる。別の電源コンセントにつなぐか、市販の電源ラインのノイズフィルタを使用する。

→　外付けのアンプなどを接続している場合は、以下の操作を行ってみてください。

1　**本機が**PC**モードであることを確認する。**

2　**デスクトップ画面右下のタスクトレイの を右クリックし、表示されるメニューから［ボリュームコントロールを開く］をクリックする。**
「Volume Control」画面が表示されます。

3　Lineの「ミュート」をチェックする。

4　**画面右上の ☒（閉じるボタン）をクリックする。**

プリセットイコライザで設定した音の効果が出ない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットイコライザがお買い上げ時の設定に戻った。PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。

タイマー

タイマーが設定できない。

→ 時計が設定されていない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、タイマーの設定が解除された。本機を再起動してタイマーを設定し直す。

タイマーが働かない。

→ 電源を切る前にタイマーが働くように設定していなかった。タイマーを設定する。

→ 誤った時間が設定されている。設定内容を確認し、正しい時間を設定する。

→「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー予約と重なっている。「Giga Pocket」ソフトウェアで設定したタイマー予約が最優先されるので、重ならないようにタイマーを設定する。
デイリータイマーやタイマー録音時は、「Giga Pocket」ソフトウェアのタイマー設定状況によっては正しく動作しないことがあります。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンと本機の間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと本機の距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が本体の方を向いていない。リモコンを本体に向ける。

→ リモコンの乾電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

次のページへつづく

→ リモコンの乾電池が消耗している。乾電池（単3）を交換する。

→ 本体の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本体と蛍光灯を離して設置する。

→ リモコンで操作できないソフトウェアを操作しようとしている。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。

再生

ディスクやMDが出てこない。

→ 本機オンラインマニュアルの「基本的な使いかた」内「DVD-ROM／CD-ROMを使う」の「ディスクを入れる／取り出す」の操作を行っても12cmディスクがDVD-ROMドライブから出てこない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ 8cmディスクを8cmCDシングルアダプタを取り付けずにDVD-ROMドライブに入れた。本機を正面から見て右側を下にしてゆっくり倒して横にしてから、⏏（DVD-ROMイジェクト）ボタンを押す。それでも取り出せない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ レンタルCDや中古CDなどで、シールなどからのりがはみ出したり、のりが付着したディスクを入れたため、ディスクが内部に貼り付いている、または貼り付いたディスクが内部に落ちて挟まっている。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ ディスクやMDを入れたまま、本機を移動するなどの振動を与えたため、ディスクやMDが内部に挟まった。VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

→ 本機オンラインマニュアルの「バイオを楽しむ」内「「Media Bar」ソフトウェアを使ってMDを再生する」の「MDを取り出すには」の操作を行ってもMDが取り出せないときは、いったん本機の電源を切り、再度電源を入れてください。そのあと、⏏（MDイジェクト）ボタンを押してください。それでもMDが取り出せないときは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

MDが入らない。

→ MDの向きが違う。矢印の書いてある面を上にして、矢印の向きに挿入する。

MDの操作を受け付けない。

→ MDが汚れている、または破損している。新しいMDと交換する。

→ TOCを読み込み中である（本機前面パネルの表示窓に「TOC READING」と表示されます）。「TOC READING」が消灯してから操作し直す。

→ 表示窓にVAIOロゴまたは時刻が表示されているときにMDを入れようとすると、MDは排出され、TOCなどが正しく認識されなくなります。このような状態になったときは、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、いったんオーディオモードの電源を切り、再度、本機前面のAUDIOボタンまたはオーディオ／DVD用リモコンのオーディオ電源ボタンを押して、オーディオモードで電源を入れてください。

ディスクやMDの再生が始まらない。

→ ディスクやMDが入っていない。ディスクやMDが入っているか確認する。

→ ディスクやMDの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。汚れを拭き取る。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

→ 再生しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ ディスクが裏返しに入っている。印刷面を上にして、DVD-ROMドライブに入れ直す。

→ 本機内部のレンズ、または入れたディスクやMDが結露している。ディスクは取り出してディスクの水分を拭き取り、MDは本機に入れて、本機の電源を入れたまま数時間待つ。

→ ディスクやMDが再生状態になっていない。「Media Bar」または「MD Player」ソフトウェアで再生ボタンをクリックするか、オーディオ／DVD用リモコンの ▷再生を押し、再生状態にする。

音とびがする。

→ ディスクやMDの汚れ（油膜、指のあとなど）がひどい。汚れを拭き取る。

→ ディスクの傷がひどい。ディスクを交換する。

次のページへつづく

→ 演奏しようとしているディスクが規格外の大きさ、形状、記録方式である。ディスクを交換する。

→ 本機に振動が加わっている。振動のない場所（安定した台の上など）に設置してみる。または、スピーカーと本機を離す、または別々の台の上に設置してみる。低音の効いた曲を大音量でお聞きになっている場合、スピーカーの振動により音とびしている可能性があります。

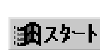
→ 本機内部とディスクの温度差がはげしい。MDを本機に入れ、電源を入れたまま10～20分待つ。

音楽CDの再生が1曲目から始まらない。

→ シャッフル再生になっている。
PCモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、「Media Bar」ソフトウェアの画面の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。または、「Media Bar」ソフトウェアでシャッフル再生を解除する。詳しくは別冊の「Media Bar」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
オーディオモードのときは、オーディオ／DVD用リモコンの再生モードボタンをくり返し押して、表示窓の「SHUF」を消し、ふつうの再生に戻す。

エラーメッセージが出て、DVDビデオの再生ができない。

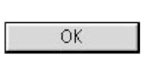
→ ハードウェアアクセラレータが最大になっているか確認してください。

1 **デスクトップ画面左下の  をクリックして、［設定］にポインタを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  **（画面）アイコンをダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

3 **［設定］タブをクリックし、［詳細］をクリックする。**

4 **［トラブルシューティング］タブをクリックし、「ハードウェアアクセラレータ」のスライダを「最大」までドラッグする。**

5  **をクリックする。**

「DVDソフトウェアデコーダの設定をするアクセス権がありません」と表示された。

→ 1度管理者権限（Administrators）でログオンして再生してください。2度目からは、通常のユーザーで再生できます。

録音・編集

MDに録音したり編集を行ったのに、その情報が記録されていない。

→ オーディオモードで、MDの録音後、MDを取り出さないで電源コードを抜いた、または停電があった。MDの録音情報は、MDを取り出すときに記録されるため、録音後は必ずMDを取り出してください。

録音できない。

→ MDが誤消去防止状態になっている（「PROTECTED」が表示窓に表示されている）。ディスクを取り出し、録音可能状態にする。

→ 音源がMDになっている。他の音源に切り換える。

→ 市販の再生専用のMDが入っている。録音用MDと交換する。

→ MDの残り時間が足りない。MD編集のイレース機能を使っていらない曲を消すか、別のMDと交換する。

→ 録音中に停電があった、または電源コードが抜かれた。初めから録音し直す。

FMラジオ

雑音が入る／受信できない。

→ 放送局のバンド、周波数が合っていない。周波数を正しく設定する。

→ アンテナが正しく接続されていない。正しく接続し直す（41ページ）。

→ FM ANTENNAコネクタに整合器を直接つないでいる。付属のFM同軸延長ケーブルを使って、整合器とFMフィーダアンテナを本機からできるだけ離す（43ページ）。

→ FMアンテナが受信状態のよい場所に設置されていない。または電波が弱い。受信状態のよい場所（窓の外など）や方向を探し、設置し直す（43ページ）。

鉄筋、鉄骨造りのマンションなどの場合、付属の簡易アンテナでは充分に受信できない場合があります。窓の外に設置しても受信状態がよくならない場合は、市販の外部アンテナをつなぐことをおすすめします。

次のページへつづく

→ FMアンテナの一部分を折りたたむ、束ねる、巻き取るなどしている。付属のFMフィーダアンテナは全面で受信しているため、余分に感じる部分もそのまま垂らしておく。また、付属のFMフィーダアンテナの先は、テープなどで壁にとめる。

→ 付属のFMフィーダアンテナのT字部分がさけてしまった。セロファンテープなどでもとの位置まで張り合わせる。

→ 他のコンピュータ、テレビ、電話、蛍光灯などの電気器具の影響を受けている。電気器具の電源を切ってみるか、できるだけアンテナから離す。

→ サテライト局を選んで受信する。

→ 壁のテレビのアンテナコネクタに本機のFMアンテナを接続してみる。

ラジオの音声は聞こえるが、文字放送が表示されない。

→ FM文字放送の受信には、FMラジオ以上の受信電波の強さが要求されます。受信状態のよい場所や方向を探して、より受信状態がよい場所でお使いください。

→ 受信中のFM放送局が文字放送を行っていない。文字放送を行っているFM放送局を確認してください。

ステレオにならない。

→ モノラル受信の設定になっている。オーディオ／DVD用リモコンの音声切換ボタンを押し、表示窓に「STEREO」を点灯させる。

→ 受信状態が悪い。前ページの「雑音が入る／受信できない」を参照し、アンテナの状態を確認する。

MDに録音中、ザーザーという雑音が周期的に入る。

→ アンテナの設置位置が適切でない。雑音が消える位置までアンテナを動かす。

「FM Tuner」ソフトウェアの「プリセット設定」で設定したはずの受信地域などのプリセットが使えない。

→ 停電したり、電源コードをコンセントから抜いたりして、プリセットがお買い上げ時の設定に戻った。
PCモードで本機の電源を入れ、設定し直す。

録画

「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。

→ 「DVgate」または「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

その他

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、PDF形式のファイルを開こうとすると、「Could not find Acrobat External Window Handler.」、「An internal error has occurred.」というメッセージが表示され、PDF形式のファイルを開くことができない。

→ 本機を再起動後、下記の手順を行ってください。

1 **デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［Adobe Acrobat 4.0］から［Acrobat Reader 4.0］をクリックする。**

2 **言語を選択する画面が表示されたら、「日本語」を選択し、[OK] をクリックする。**
言語を選択する画面が表示されない場合は、そのまま手順3を行ってください。

3 **「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、契約書の内容を読み、［同意する］をクリックする。**
「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されずに「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動した場合は、そのまま手順4を行ってください。

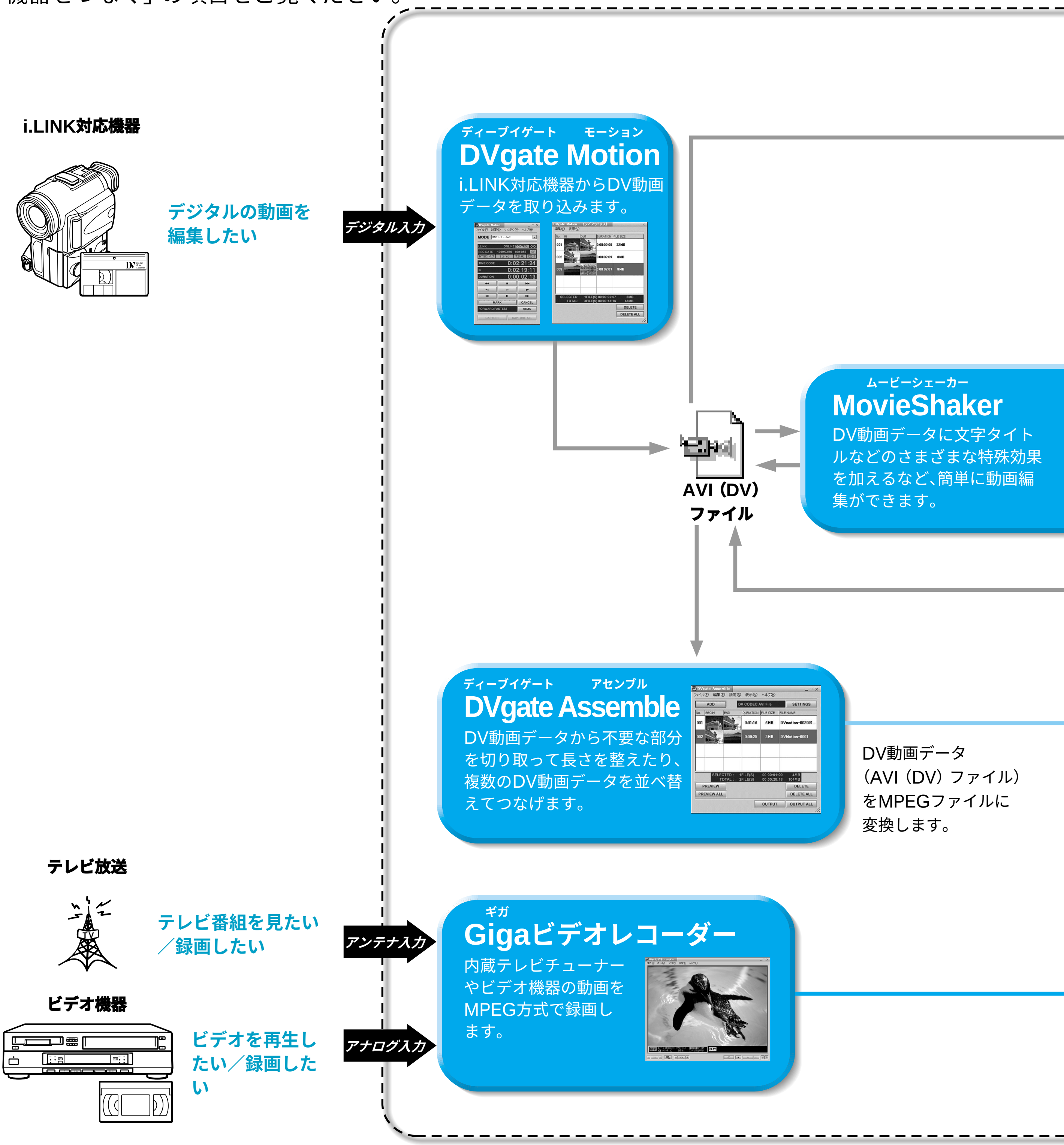
4 **「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動したら、画面右上の [×] をクリックする。**

5 **「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、先ほど開けなかったPDF形式のファイルを開き、表示されることを確認する。**

その他

動画系ソフトウェアの操作の流れ

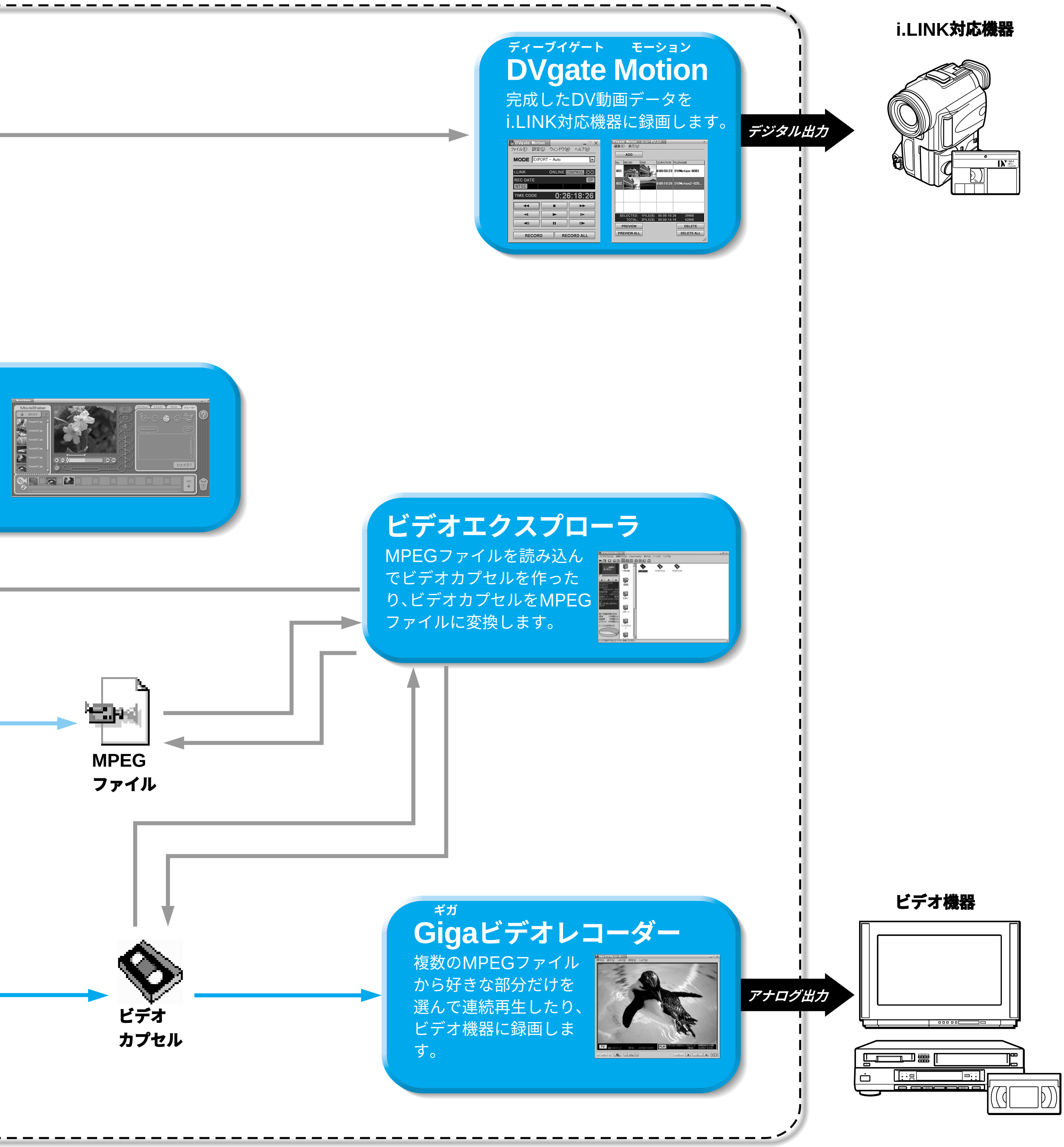
本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。それぞれのソフトウェアの役割と操作の流れを簡単に紹介します。それぞれのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書またはオンラインマニュアルをご覧ください。本機とAV機器やi.LINK対応機器のつなぎかたについては、「接続する／準備する」(30ページ)、本機オンラインマニュアルの「周辺機器を接続する」内「AV機器をつなぐ」または「i.LINK対応機器をつなぐ」の項目をご覧ください。



AVI（DV）（エーブイアイ（ディーブイ））**：**Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。
「DVgate Motion」ソフトウェアではDV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。

MPEG（エムペグ）**：**動画データの圧縮方式です。

ビデオカプセル：「Giga Pocket」ソフトウェアでは、MPEGの動画ファイルと各種の付加情報を1つにまとめて「ビデオカプセル」と呼びます。



その他

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。
なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。
「VirusScan」ソフトウェアをインストールするには、次ページの手順に従って操作してください。
「VirusScan」ソフトウェアについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポート
電話番号：(03) 3379-7770

ちょっと一言

「VirusScan」は、本機ご購入時より1年間、無償でアップグレードを行うことができます。
アップグレード方法ならびにパッケージのご購入について詳しくは、下記にお問い合わせください。
日本ネットワークアソシエイツ株式会社
電話番号：(03) 5428-1100

ご注意

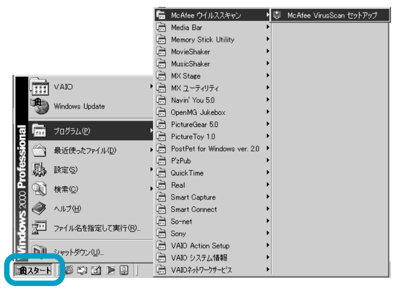
次ページの手順を行うには、管理者権限（Administrators）のユーザーでログオンしている必要があります。

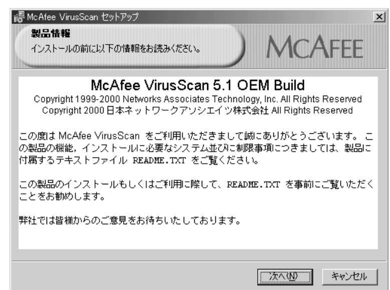
「VirusScan」ソフトウェアをインストールするには

以下の手順に従って「VirusScan」ソフトウェアをインストールします。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［プログラム］にポインタを合わせ、［McAfee ウイルススキャン］、［McAfee VirusScan セットアップ］の順にクリックする。**

インストールの準備後、「製品情報」画面が表示されます。

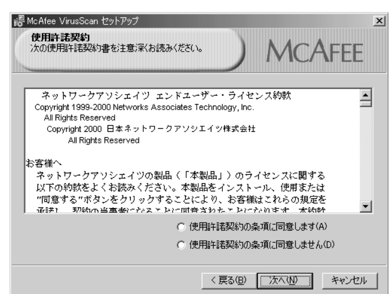




2 **次へ(N) をクリックする。**

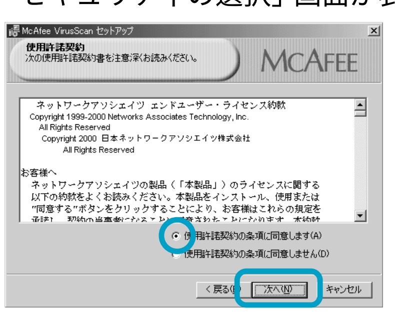
「使用許諾契約」画面が表示されます。





3 **内容を確認後、「使用許諾契約の条項に同意します」の ○ をクリックして ◉ にし、次へ(N) をクリックする。**

「セキュリティの選択」画面が表示されます。





次のページへつづく

その他

4

[通常のセキュリティ] の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ(N)] をクリックする。

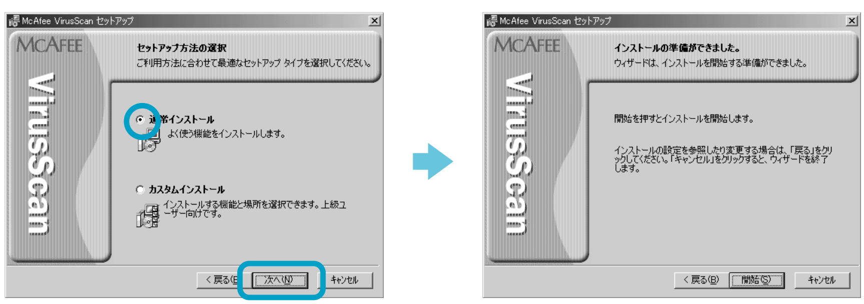
「セットアップ方法の選択」画面が表示されます。



5

[通常インストール] の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ(N)] をクリックする。

「インストールの準備ができました。」画面が表示されます。



6

[開始(S)] をクリックする。

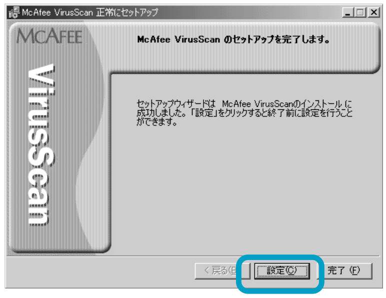
インストールが始まります。

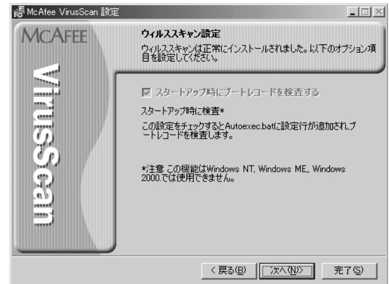
インストールが終わると、「McAfee VirusScan のセットアップを完了します。」画面が表示されます。



7 設定(C) をクリックする。

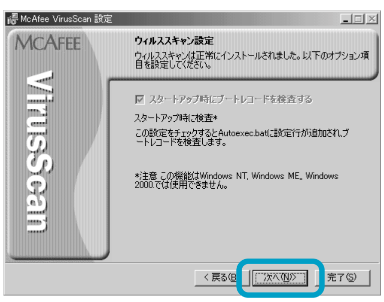
「ウィルススキャン設定」画面が表示されます。





8 次へ(N) をクリックする。

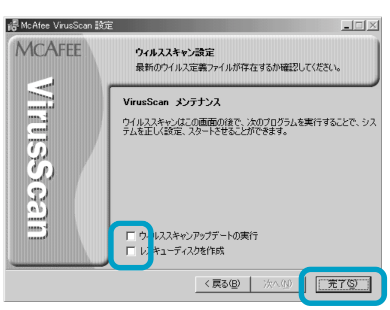
「ウイルススキャン設定」画面のVirusScanのメンテナンス方法を選ぶ画面が表示されます。

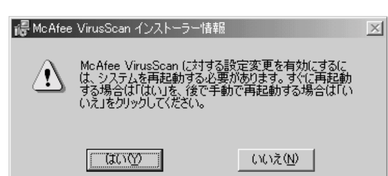




9 ［ウィルススキャンアップデートの実行］と［レスキューディスクを作成］の ☑ をクリックして ☐ にし、 完了(S) をクリックする。

「McAfee VirusScanインストーラー情報」画面が表示されます。

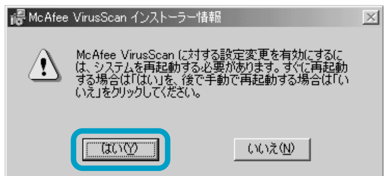




次のページへつづく

10  をクリックする。

本機が再起動します。



「VirusScan」ソフトウェアをご使用になる際のご注意

- 「VirusScan」ソフトウェアのインストールを行うと、次回起動時から「VShield」ソフトウェアがデスクトップ画面右下のタスクトレイに常駐し、ウイルスの自動監視を行います。
- 本機に付属の「VirusScan」ソフトウェアは、複数ユーザーでの同時使用はできません。ただし、一人のユーザーが複数のユーザー名を使い分けて本機にログオンする場合、「VirusScan」ソフトウェアをインストールしたユーザー名でいったんアンインストールを行い、新たなユーザー名でインストールし直すことにより、そのユーザー名で「VirusScan」ソフトウェアを使用することができます。
- 「VShield」ソフトウェアのインストールにより、Windows 2000の起動時間が長くなる場合があります。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧ください。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROMを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます。

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。詳しくは「パーティションサイズを変更する」（142ページ）をご覧ください。

ご注意

- **付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。**
- **付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windows 2000だけを復元することもできません。**
- **ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。**
- **再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。**
- **BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。**

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

次のページへつづく

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。
  本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順4で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

「再セットアップする」の手順4で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。
パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。
- 本機がPCモードで起動しているか。オーディオモードになっているときは、いったん電源を切り（54ページ）、本機前面の ⏻（電源）ボタンを押してPCモードで起動し直してください。

Windows 2000が完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（139ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（142ページ）をご覧ください。

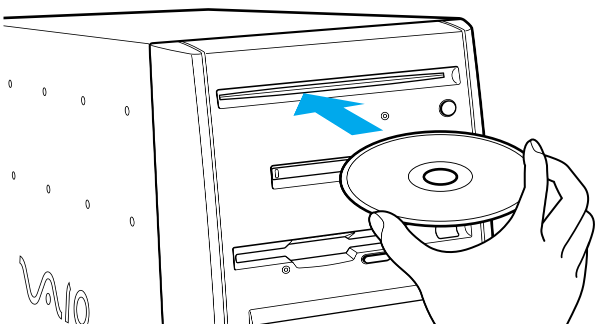
ご注意

再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1

本機の電源がPCモードで入っている状態で、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」をDVD-ROMドライブに入れる。

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。



2

内容をよく読み、[次へ(N) >] をクリックする。

3

引き続き内容をよく読んでから［同意する］をクリックし、[次へ(N) >] をクリックする。

「メニュー選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

［同意しない］をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

4

再セットアップの方法を選んで、○ をクリックして ◉ にし、[次へ(N) >] をクリックする。

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。それ以前にハードディスク上にあったデータは、C、Dドライブとも含めてすべて失われてしまいます。

次のページへつづく

リカバリ CDで本機を再セットアップする（つづき）

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。それ以前にハードディスク上にあったデータは、C、Dドライブとも含めてすべて失われてしまいます。

5

画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の □ をクリックして ☑ にし、[完了] をクリックする。

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。
再セットアップを中止するときは、[キャンセル] をクリックします。

6

「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

7

「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

8

「Windows 2000を準備する」（47ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

9

Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

[OK] をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。
ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
[OK] をクリックしてください。

Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

1 **付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」をDVD-ROMドライブに入れる。**

CD-ROMの入れかたについて詳しくは、「再セットアップする」の手順1（137ページ）をご覧ください。

2 **Windows 2000が起動している場合は終了し、本機の電源を切る。**

Windows 2000の終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（54ページ）をご覧ください。

3 **30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。**

しばらくするとDVD-ROMドライブから起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

4 **「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。**

メニュー画面が表示されます。

5 **再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。それ以前にハードディスク上にあったデータは、C、Dドライブとも含めてすべて失われてしまいます。

次のページへつづく

リカバリ CDで本機を再セットアップする（つづき）

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。それ以前にハードディスク上にあったデータは、C、Dドライブとも含めてすべて失われてしまいます。

「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

6

画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、[Y] キーを押して [Enter]（エンター）キーを押してください。

7

「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。

再セットアップの続きが始まります。

8

「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

9

「Windows 2000を準備する」（47ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。

10

Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。

[OK] をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK] をクリックしてください。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。BIOSをお買い上げ時の設定に戻すには、以下のように操作します。

1 本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。

BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 F5（Setup Defaults）キーを押す。

「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。

すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 F10（Save and Exit）キーを押す。

「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。

変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windows 2000が起動します。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、Windows 2000はC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 **「再セットアップする」(136ページ)の手順1〜3を行う。**

2 **再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の ○ をクリックして ◉ にし、 [次へ(N) >] をクリックする。**

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。
[詳細情報] をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **一覧からパーティションサイズを選び、 [次へ(N) >] をクリックする。**

4 **画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の □ をクリックして ☑ にし、 [完了] をクリックする。**

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。
再セットアップを中止するときは、 [キャンセル] をクリックします。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

次のページへつづく

7 **「Windows 2000を準備する」（47ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。**

8 **Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

OK をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。
ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
OK をクリックしてください。

Windows 2000が完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには

1 **「Windows 2000が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（139ページ）の手順1〜3を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Esc（エスケープ）キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter（エンター）キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter（エンター）キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときは [Y] キーを押し、[Enter]（エンター）キーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **「2枚目のディスクをいれてください。何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。」というメッセージが表示されたら、付属の「システム リカバリ CD-ROM Vol.2 of 2」をDVD-ROMドライブに入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

再セットアップの続きが始まります。

6 **「システム リカバリ CD-ROM」のセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

7 **「Windows 2000を準備する」（47ページ）の手順に従って、Windows 2000をセットアップする。**

8 **Windows 2000のセットアップが終了したら、付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-ROMドライブに入れる。**

[OK] をクリックするとソフトウェアのセットアップが始まります。
ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、
[OK] をクリックしてください。

その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するもの（健康器具、玩具など）を置くと、相互作用でテレビ画面に色むらが起こりやすくなります。設置場所にご注意ください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

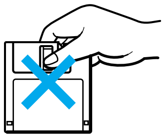
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 2000のヘルプをお読みください。

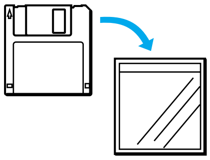
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピュータウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピュータウイルスを侵入させないためには

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書は必ずウイルスチェックをしてください。
- 本機にはコンピュータウイルス検査／ウイルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。本機をコンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。なお、本機には「VirusScan」ソフトウェアはあらかじめインストールされていません。「コン

次のページへつづく

ピュータウイルスについて」（130ページ）の手順に従って操作してください。

- コンピュータウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。
- 新種のウイルスに対応するため、ウイルスに関するデータファイルは常に更新することをおすすめします。インターネット上で、下記のURLより最新のデータファイルを入手できます。

  http://www.nai.com/japan/
- ウイルスデータファイルの更新や「VirusScan」および「VShield」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「VirusScan」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

  日本ネットワークアソシエイツ株式会社

  テクニカルサポート

  電話番号：（03）3379-7770

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

DVD-ROMドライブの地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のDVD-ROMドライブの地域番号は「2」（日本）に設定されています。Windows 2000および一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 2000用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

FM文字放送について

- 本機のFMラジオは日本国内用です。海外では放送方式が異なりますので、FM文字放送を受信することができません。
- 本機はVICS（交通情報サービス）に対応していないため、受信することはできません。
- FM文字放送の内容について、当社では責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 情報の内容について、個人として楽しむなどのほかは、権利者に無断で使用できません。

FMラジオ放送が受信できても、FM文字放送が受信できない場合があります。

- FMラジオ放送と受信方式が異なるので、FMラジオ放送がある程度受信できても電波の強さによりFM文字放送が受信できない場合があります。またはFM放送局が文字放送を行っていない場合もあります。
- 付属のFMアンテナの位置を少し動かすだけで良好に受信できることがあります。より受信条件の良い場所を探してください。

音量を調節するときは

ディスクはレコードとくらべ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏をはじめる前には音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

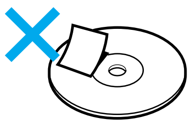


ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲には良く通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

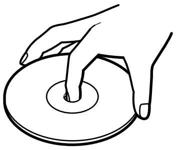
ディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



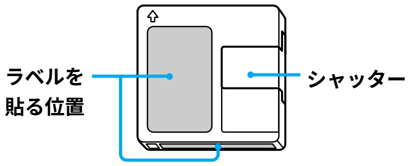
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面には触れないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

MDの取り扱いについて

- シャッターを無理に開けようとすると、壊れることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐ閉めてください。
- ディスクに付属のラベルはシャッターの周りなど所定以外の場所には貼らないでください。必ずラベル用のくぼみに貼ってください。くぼみの形はディスクによって異なります。



- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。

MDのシステム上の制約

MDではいくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

最大録音時間に達していなくても、表示窓に「DISC FULL」が表示される

255曲録音されると、それ以上の録音はできません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消して録音するか、別のMDを使ってください。

曲数（最大255曲まで）にも録音時間にも余裕があるのに「DISC FULL」が表示される

曲中にエンファシス情報などの入り切りが多く行われたり、録音や編集をくり返し行うと、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく「DISC FULL」が表示されます。

曲を消しても、ディスクの録音できる残り時間が増えない

ディスクの録音できる残り時間を表示するとき、12秒以下の部分は無視します。このため、短い曲を何曲消しても、録音できる残り時間が増えないことがあります。

曲をつなげない

つなごうとする曲の長さが8秒以下のとき、その曲の曲番を消して曲をつなぐことはできません。また、編集を行ってできた曲はつなぐことができない場合があります。

ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間と一致しない

通常、録音は約2秒を最小単位としてディスクに記録します。2秒に満たない場合でも、実際には2秒分のスペースを使います。このため、実際に録音できる時間は少なくなります。また、MDに傷があるとその部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

編集した曲を再生しながら早送り、巻戻しすると音が途切れる

再生しながら早送り、巻戻しするときは通常より高速で再生します。このため、短い曲がディスクの上に分散していると探すのに時間がかかり、音が途切れることがあります。

曲番が曲の頭に付かない

レベルシンクロ録音中でも、次のときは曲番が曲の頭に付かないことがあります。

- 曲の間が短くて一定レベル以下になるのが2秒未満のとき
- 曲の途中でも2秒以上一定レベル以下になるとき

デジタルオーディオをコピーするときのルール— シリアルコピーマネージメントシステム

デジタルオーディオでは、音声信号をデジタルでやりとりします。コンパクトディスク（CD）、ミニディスク（MD）、デジタルオーディオテープ（DAT）、衛星デジタル音楽放送などがこれに当たります。これらは音楽を手軽に、劣化の少ない状態でコピーできます。このため、音楽ソフトの著作権を保護するコピー規制が必要になりました。それが「シリアルコピーマネージメントシステム」です。本機の設計はこのシステムに準拠しています。概要は以下の通りです。

デジタル信号同士のコピー＊は1世代まで

原則1

市販のデジタル音楽ソフトのコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

原則2

市販のアナログ音楽ソフト（アナログレコードやカセットテープなど）や公共放送をデジタル録音したもののコピーは作れるが、コピーのコピーは作れない。

＊ コピーとは「デジタル信号をデジタル信号のまま録音したもの」を指します。本機では、本機のCDプレーヤーからMDデッキへの録音で、コピーを作れます。

ご注意

- アナログ入出力端子同士をつないで録音した場合は、この原則に当たりません。
- 本機はMDのサンプリング周波数（44.1kHz）と異なるDATや衛星デジタル音楽放送のサンプリング周波数（32kHz、48kHz）に対応するMDデッキを備えています。衛星デジタル音楽放送を録音する場合は、デジタル信号同士のコピーは2世代までできます。

お手入れ

本機やディスプレイのお手入れ

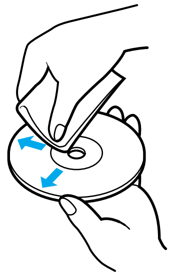
本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

ディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



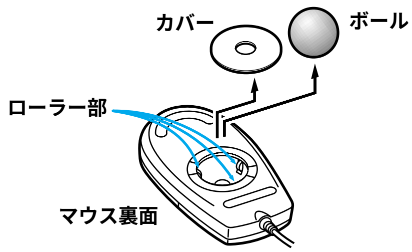
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

MDのお手入れ

定期的にカートリッジ表面についたほこりやゴミを乾いた布で拭きとってください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。



- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。
- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
- 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCV-MX5GK
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

五十音順

ア

アンテナ....32、41
インターネット....76、113
インターネット接続サービス....76、79
オーディオ電源ボタン....83
ウイルス....53、130、147
エラーメッセージ....115
オーディオモード....82
オーディオ／DVD用リモコン....25、83
音....116
音楽CD
- お手入れ....152
- 再生する....84、88
- 前面パネルのボタンで再生する....88
- 取り扱いについて....150
- リモコンで再生する....84
- 録音モードを切り換える....95
- 1曲だけ録音する....95
- MDに録音する....95

オンラインマニュアル....62、64

カ

カスタマーご登録....76
キーボード
- キーボードを掃除する....153

クリック
- クリック....58
- ダブルクリック....58
- 右クリック....59

結露....146
コンピュータウイルス....53、130、147

サ

再セットアップ....136
サイバーサポート....62、73、102
再生する
- 音楽CD....84、88
- 困ったときは....120
- MD....85、89

最適化....142
スリープタイマー....87、97
接続
- キーボード....36
- スピーカー....37
- ディスプレイ....30
- テレビアンテナ....32
- 電源コード....45
- 電話回線....38
- ビデオデッキ....35
- マウス....36
- FMアンテナ....41
- ISDN....40

ソフトウェア
- 不正コピー禁止について....148

タ

タイマー
- 困ったときは....119
- スリープタイマー....87、97

ダブルクリック....58
断片化....142
著作権....3
チルダ....111
ディスク
- 取り扱いについて....150

ディスプレイ
- お手入れ....152
- 困ったときは....107

データ
- バックアップをとる....2、146、148

デフラグ（最適化）....142
電源
- オーディオモードで電源を入れる....83
- オーディオモードで電源を切る....83
- 困ったときは....105
- PCモードで電源を入れる....46
- PCモードで電源を切る....54

トーン式ダイヤル....78
動作モード
- オーディオモード....82
- PCモード....82

電話回線
- モジュラジャック....38、39
- LINE（ライン）ジャック....39
- TELEPHONE（テレホン）ジャック....38

ドラッグ....59
ドラッグアンドドロップ....60
トラブルの解決方法....104

ハ

パーティション....142
ハードディスク
- 困ったときは....110
- 取り扱いについて....146
- バックアップをとる....2、146、148

パームレスト....36
バックアップをとる....2、146、148
パルス式ダイヤル....78
表示窓のメッセージ....98
フロッピーディスク
- 困ったときは....109
- 取り扱いについて....147

ヘルプ....74
ポインタ....57
ポイントする....58

マ

マウス
- 困ったときは....108
- ホイールボタン....56
- マウスを掃除する....152
- マウスを使う....56

右クリック....59
文字入力....110
モデム....113

ラ

リカバリ CD....135
リモコン....25、26、119
録音
- 音楽CD....86、95
- 困ったときは....123
- 録音モードを切り換える....95
- 1曲だけ録音する....86、95
- FMラジオ....86、97

録画....125
ロケール....48

アルファベット順

A

Administrator 50
Adobe Acrobat Reader 69

B

BIOS 135

C

CD-ROM 112
CyberCode 22
CyberSupport for VAIO
　............................. 62、73、102

D

DVDビデオ
　リージョンコード 148
DVD-ROM 112

F

FM文字放送
　見る 94
FMラジオ
　聞く .... 87、91
　困ったときは 123
　前面パネルのボタンで聞く 91
　リモコンで聞く 87
　MDに録音する .... 86、97

G

Giga Pocket用リモコン 26

I

i.LINK .... 17、113、128

M

MD
　再生する .... 85、89
　システム上の制約 150
　前面パネルのボタンで再生する
　.. 89
　取り扱いについて 150
　リモコンで再生する 85
　録音する .... 86、95、97
Microsoft Internet Explorer 64

O

OS 53

P

PCモード 82

V

VAIOカスタマーリンク 102
VirusScan .... 130、147

W

Windows 2000 47
Windows 2000のヘルプ 71

記号

「~」(チルダ) の入力 111
「～」の入力 110

その他

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

商標について

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- CyberCodeはソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i " は商標です。
- Microsoft、MS-DOSおよびWindowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe®、Adobe® PhotoDeluxe®およびAdobe® Acrobat® Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- VirusScanは日本ネットワークアソシエイツ株式会社の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では™、®マークは明記していません。

MEMO

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

Sony online http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

Printed in Japan